

291

秘



出版警察報

第二十六號

内務省警保局

国立公文書館	
分類	警察庁
架	9
掛架番号	4E
	15-3
	328





凡 例

- 一、本報は、内外出版物に現はれたる思想傾向の一般並に出版警察の概況を登載して事務の参考に資するを目的とす。
- 一、本報は、主として前月中に發行せられたる出版物を資料として作製す。但し統計は便宜上前々月の事實を採録す。
- 一、本報は、毎月一回之を發行す。

出版警察報

第二十五號目次

(昭和五年拾壹月)

思潮

- 一、労働組合法案論争の重點と出版物(其二)..... 一頁
- 一、世界恐慌論の論調..... 三

出版警察概況

- 一、出版物納本数及事故件数月表..... 四
- 一、出版物(單行本)類別月表..... 六
- 一、新聞紙現在数及事故件数月表..... 六
- 一、主要出版物納本月報..... 四
- 一、思想關係出版物解題..... 四
- 一、主要雜誌新聞通信記事一覽..... 九
- 一、主要雜誌思想關係論文要旨..... 六
- 一、禁止出版物目錄..... 二二
- 一、禁止要項..... 二二
- 一、主要禁止出版物差押表..... 二五
- 一、税關に於て輸入禁止せられたる出版物..... 二九

資料

- 一、取締上より見たる風俗關係出版物の傾向..... 一四
- 一、外國左翼雜誌論文概観..... 一六
- 一、外國左翼新聞紹介..... 一八
- 一、思想關係主要新聞雜誌通信調..... 二九



思潮

労働組合法案論争の重點と出版物 (其二)

三、労働組合法案を繞る論争の重點

労働組合法案の諸規定中、左右兩派の論争の中心となつてゐるのは、第一條である。即ち、第一條は労働組合を定義し、その目的を規定する。従つて、この條文は労働組合の實際的活動の範圍を定める。この活動範圍の大小は資本家側にとつても、労働者側にとつても、まことに重大な問題である。労働組合法全體の社會的生命はまさにこの第一條の如何に懸つてゐるとも考へられる。さればこそ論争の中心は自然に第一條の周圍に集中するのであらう。

元來、法律學上に於ける労働組合法の根據は、一般に、眞に自由なる契約を成立せしめる爲に雇傭者及被傭者を平等の地位に置かんとすることにあると云はれてゐる。これだけについて考へるならば、労働組合の目的は純然なる經濟的交渉と云

労働組合法案論争の重點と出版物

ふ範圍に限定される。けれども労働組合も社會的組織體の一つとして、それ自體の生命力、活動力を有するが故に、その實際的社會的機能は更に廣汎なる範圍に於いて行はれ得るのである。茲に第一の問題がある。

次に、労働組合の活動力如何の問題がある。組合の活動範圍が定まつたとするも、その活動を妨げるが如き社會的事情や活動の背景をなす團體の構成分子の範圍等の問題が考慮されなければならない。これは組合の目的の遂行力として、第一の問題と密接な關係を持つのである。組合を産業別に認むべきや、或は聯合體をも認むべきやの問題、組合加入者の範圍の問題、組合の罷業賠償責任免除の問題、所謂雇傭條件の問題、等が之である。

最後に、組合がその目的を超え、又は社會の安寧秩序を紊る場合には、之が統制を行はねばならない。この統制の如何も目的遂行力に關係し、間接には第一の活動範圍如何の問題にも影響を與へると云ひ得られる。

社會局案に於いては、第一の問題を規定して居る第一條が最も議論の中心となつてゐる事、前述の如くであるから、これら論争を通じて、茲に各派の労働組合の目的乃至は使命に關する見解を明かにし、これに關聯して第二、第三の問題を簡單に一瞥しやう。

労働組合の目的に就いての資本家側の意見には次の如きものがある。

『この社會局的労働組合法案と稱せられるもの第一條には斯様に書いてあります。

「本法ニ於テ労働組合ト稱スルハ労働條件ノ維持改善ヲ目的トスル労働者ノ團體又ハ其ノ聯合ヲ謂フ」

即ち社會局は労働組合を定義して、雇傭條件の維持改善を目的とするものとしてをります。この規定の仕方につい

ては、大いに私共は疑義があるのであります。規定の仕方は枝葉の問題でありますが、かゝる規定をされた根本的精神に對して、私は正面から根本的に反對致したいと思ふのであります。……今日の現状から照し合せて、各國の労働組合、若くは職業組合は何を目的と致してゐるかといへば、明かに第一には各國労働者の技術上、知識上その他の訓練、次に自己及び家族等の生活に對する安定のためにする友愛相互扶助の手段、といふことが明かに二つとも目的の中に

入つて居るのであります。第三に、雇主に對する各労働者の立場を有利にしやう、即ち雇傭條件の維持改善、といふ三つの目的があることは明かであります。沿革は御承知の通りであります。現狀について各國の職業組合又は労働組合の實狀、殊に労働に關する法制の狀況に見ましても、三つの目的が各國區々ではあります。總て左様に現はれて居る。イギリスにしろ、アメリカにしろ、就中イタリーの如きは特殊の國情ではあります。相互扶助或は労働者の精神的愛國的教育を目的とすることまで附加してあります。又アメリカの如きは、特に強く主張してゐるのは、一層労働者を訓練にしたい、有能にしたいといふことが主張されて居るのであります。世界一般の労働組合といふものは、斯の如く對雇主關係以外に重要な目的をもつて進んで居るといふことは明かであります。勿論所により、組合によつて、國争の組合がかなり勢力を得ることもあります。又我國の如くむしろその方ばかりといつてもいゝ位な國柄もありません。しかし或る時期におけるその國の現狀を目して、これは已むを得ない大勢であるかの如く感じて、直ちにこれをその法規の中に採るといふことは、これは少しく思慮が足りないと思ふのであります。』(註一)

以上は渡邊鐵藏の意見であるが、又、藤原銀次郎は次の如く論ずる。

『第一に組合の目的に就いて見るに、現存の組合は左翼より右翼に至る迄殆んど悉く労働組合の假面の下に經濟組織社會

制度の變革を企圖するものである。労働組合、本業の職能たる労働者の生産者としての利益や消費者としての利益を増進するよりも、寧ろ資本主義を倒壊し資本家を追放し社会主義共産主義の新社会を實現せんとするものである。……現存の組合は目的も組織も戦術も共に我國大多數の労働者の賛同し難いものである。……」(註二)

改造社主催の労働組合法討論會の席上に於ても渡邊鐵藏は組合の目的として、前記三つのもを挙げて「精神的の修養といふやうな事を主にしたい」と明言してゐる。(註三)

以上の如き引用文に依つて、資本家側の組合の目的に關する代表的の見解は、大體窺ひ知る事を得るのであるが、組合の政治的運動を行ふの可否については多く論じてゐない。之、社会局長が既にこの事を否定してゐるに依るのであらうが、改造社の労働組合法討論會に於ては、組合と政黨の關係が種々論ぜられた際に武藤山治は組合が政治運動を行ふ事に賛成の意見を發表し、政治運動と經濟運動とを區別すべしとする思想的立場を採つてゐる。(註四)

こゝで、第一條全體に對する資本家側の意見を見るに、大部分のものは同條を以て「徒らに階級闘争を激成助長する」ものだとする。(註五)、その例として挙げられ、藤原銀次郎は、前述の如くに労働組合の目的を論じたる後、

『然るに社会局長は組合法を制定して組合運動に基準と方向を與へると云ひながら、法案規定する所は現存組合の缺陷を去せんとするものでなく却つて反對に現存組合に缺陷なしと辯護しその儘之を公認し保護せんとする。誠に大なる誤りでなければならぬ。従つて法案が將來の組合の主要目的を労働條件の維持改善に置くも、之に依つて從來の革命的組合の行動を労働者の生産者としての利益増進の範圍に局限すると云ふよりも寧ろ組合の抵抗の任務を明確にし之を遂行せしめるに法の力を以て援助せんとするものと解すべく、換言すれば依然として階級闘争を續行せしめ勞資共に失ふも亦止むを得

ないとするものに外ならぬ。斯の如きは政府が立法の趣旨として掲げる勞資の協調産業の發達に反するは勿論、歐米組合の最近の傾向に著しく反するものである。若し英米組合が最近分配の闘争より生産の協調へと進み事業の繁榮が結局労働者の最高の幸福であるとなし、且つ組合運動の中心が抵抗の任務から漸次共済協働其他の任務に移つてあることを知らば明かに社会局長の法案は時代遅のものたることを認めざるを得ない。(註六)

と主張するのである。次いで同人は組合の組織に言及し、『立法の主旨が勞資の協調産業の發達にある以上組合員は労働者であり且つ生産活動に従事する者に限られるべきで、又組合は幹部から卒伍に至る迄工場を同じくし事業主を同じくし職業を一にし産業を一にすることが望ましい』とする。そして労働組合法案を以て『一方には第三者の加入を殆ど無制限に許しながら事業主又はその代表者の加入を認めずして階級的對立を認容し他方には協調に便なる職業別産業組合を排して協調に不便な一般組合を容認せんとする』ものであると評してゐる。組合員解雇に關する規定、罷業に關する免責規定についても『徒らに争議を刺戟し不法手段を誘發する結果となる』と云ふ。結局、『要するに社会局長は政府の立法趣旨に全然背反し、却つて勞資の協調産業の發達を阻止するものに外ならぬ。……徒らに闘争を激成し産業の發達を阻止する外なきものなるに於ては、到底之に賛同することを得ない』と云ふのが、藤原銀次郎の労働組合法社会局長案に對する意見である。(註七)

資本家側の論調は概ね此の如きものであつて、その間大なる差違を認め難きを以て、以上に止める。(註八)

註一 渡邊鐵藏「労働組合法案について」、『労働組合法をめぐって』一六頁—一九頁

註二 藤原銀次郎「労働組合法政府案に反対す」、『中央公論』八月號、一一二頁—一二三頁

労働組合法案論争の重點と出版物

註三 「労働組合法討論會」改題、八月號、九六頁—一〇〇頁

註四 「同前」一〇七頁—一〇八頁

註五 「東京日日新聞」昭和五年六月廿三日組合法案に對する資本家側の態度を述べた記事

註六 藤原銀次郎「労働組合法政府案に反對す」中央公論八月號、一一二頁

註七 「同前」一一三頁—一一四頁

註八 五月二十七日、工業俱樂部が全國の有力なる實業團體の反對意見を綜合して發表したる所を見るに「組合法の制定には反對しな  
いが、社會局案の内容に反對するもの」として、六つの理由を掲げてゐる。その中の主なるものを掲げるに

一、階級立法に陥る弊あること

二、熾激なる思想を公認する結果を生ずること

三、抗爭的團體に偏倚すること

四、第三者の介入は組合運動を益々闘争的ならしむること

等であるが、この中(一)(二)(三)は第一條に關する意見と思はれる。

又東京商工會議所は六月十日、組合問題に關する聯合協議會を開き、左の如き反對意見を可決した。

「今般政府社會局に於て立案せられたる労働組合法案は、労働者と事業主との階級對立の思想を激成し、益々我國労働組合の闘  
争精神を助長し、産業上の紛議を案からしむるものにして延いて我國の産業を衰退せしめ、殊にその中、小工等に及ぼす影響に  
至りては誠に堪えざるものあり、吾人は斯の如き弊米にもその例を見ざる過激にして指導精神を根本的に限れる法案に對  
しては絶対的に反對の意思を表明するものにして、就中左記の諸點に關する規定の存在又は排除せることを最も遺憾とす。」

(一) 労働組合を以て労働條件の維持改善を目的とするものと定義したること

(二) 職業別、産業別の組合を法認するの途に出でず、我國現在の思想的背景を有する一般組合を其儘公認する條あること

(三) 職業別、産業別の組合を法認するの途に出でず、我國現在の思想的背景を有する一般組合を其儘公認する條あること

(下略)

(以上「政治經濟時論」七月號、「労働組合法に對する經濟團體の反對意見」より引用)

社會民衆黨方面に於ては、大體社會局案を是認するの態度を示してゐる如く觀察される事は既に述べた如くであるが、從  
つて彼等は第一條に就いても多く論せず、現在に於いては「労働條件の維持改善」を、労働組合の主たる目的と解してゐるの  
ではないかと思はれる。斯の如き見解は「労働」七月號の「労働組合法改題の危險」なる論文中に於いて、資本家側の第一條に  
對する攻撃を批判したる文句の中にも表れてゐるが(註九)、組合の目的が政治行動にあらずして經濟行動にあることを明言  
したるものとして、次の如きものを擧げ得る。(註十)

「我々は、労働組合の經濟行動に主力を注がねばならない時である。我々は從來から、政治行動と經濟行動を  
混同することの不可を脱き左翼の所謂「一切の經濟行動を政治行動に」の方針を退けて來た。無産政黨の創立されない以前  
に於いては、我が國労働組合の職分は、甚しく廣汎に亘り、思想團體の様でもあり、政黨の様でもあつた。これが我が國  
労働組合の經濟團體として、不健全であつた原因であるけれども、既に無産黨も樹立され、稍々その基礎も出來た今日に  
於いては、労働組合は一と先づその本來の主たる職分に還り、經濟團體としての機能充實を計らねばならない時期なので  
ある。……労働組合が新しき試練に堪えてその建設の道を進む時、無産黨も亦、眞に健實なる發達を遂げ得るも  
のであることを忘れてはならぬ。「労働組合は無産政黨の土壌である」のモットーは、我々の不斷に掲ぐるもの、同時に不  
變の眞理でもある。」

又、社會民衆黨全國大會兩派により六月廿五日發表された資本家側の意見に對する「共同反駁書」中、その三に於ては、

労働組合法案論争の重點と出版物

組合の目的に關聯して次の如く述べてゐる。(註十一)

『労働組合法が労働条件の維持改善を目的とするのが悪いと言つてゐるが労働条件の維持改善を目的としない労働組合法がどこにあるか。労働条件の維持改善は労働組合運動に於ける最少限の階級的な要求に過ぎぬ、之を目して階級的立法等といふが如きは世界労働運動の實情を知らざるものである。』

尙、又、赤松克麿は、改造社主催の労働組合法討論會の席上に於て、渡邊鐵藏の見解に反對し、共濟的事業を否定しはしないが組合の本旨とする所は労働条件の維持改善である旨種々陳辯に努めてゐる。(註十二)

然しながら、この派の主張も、決して組合の政治的行動を絶對的に否認するものではない。現に前記引用文中にも『労働組合は一と先づその本来の主たる職分に還り、經濟團體としての機能充實を計らねばならない時期なのである』と云つてゐる。赤松克麿も、前掲討論會に於て『今日の社會局案といふものに就て見ると、不徹底の點は、政治運動が動、もすればこれに依つて生長するから、これを單なる、純然たる經濟運動としやうといふやうな立法者の意見が解釋上に現はれることである。それは反對です。矢張り、今日の労働組合といふものは、自然的に政治に延長するといふことに行かなければならぬ。』と述べてゐるのである。又、前掲『共同反駁書』第四は、『労働組合の政治行動を禁止せよといふが我々は労働組合の政治行動を積極的に法認すること現下の情勢に適應せざるものと考へてゐる。社會局案の如き積極的に肯定も否定もしないものは我々の立場よりすれば不備であり不満とするものである。これをしも非なりとするが如きは時代錯誤の甚しきものである』と論じてゐる。會つて發表せられた組合法社會民衆黨案第一條は『労働組合ハ労働条件ノ維持改善ソノ他ノ共同利益ヲ増進スルヲ目的トスル被働者ノ團體又ハソノ聯合ヲ云フ』となつてゐて、共同利益の増進なる意義を社會局案より廣く解し、政

治行動をもこの中に含ましめんとした。これらによつて、組合の政治的行動をある程度に於て、或は少くとも將來に於て組合の目的とせんとするの意圖あることを推測し得る。然し乍ら、組合の政黨に對する關係に於ては、政黨支持主義をとるものであつて、政治闘争を否認するものでもなければ、政黨中立主義、政黨從屬主義を探るものでもない。『労働』四月號所載『無産政黨と労働組合の關係』なる論文はこの事を明かにしてゐる。

『こゝで彼等の云ふ經濟的行動中最も重要視してゐるものは、前述の如く『労働条件の維持改善』であり、隨つて又その手段としての罷業であることは推測し得らるゝ處である。されば、この經濟的闘争力の基礎を確實ならしめ、強力ならしめる爲に、社會局案第二十六條を以て官業労働者を除外せんとする陰謀なりと斷じ、(註十三)或は社會局案に罷業見張の自由を認むる規定その他を設けざることを缺陷なりとして指摘してゐる。(註十四)けれども、社會民衆黨は社會局案を是認するか否かを示してゐる故に、これらの事を特に強調して、社會局案に對し激しい攻撃的言辭を用ひてゐる例は殆ど見當らな

すと云ふべきである。

註九、『労働組合法改悪の危険』(労働)七月號、二五〇  
註十、『海員七月號所載、柳井組長、労働組合法案論争の要點』の中には、第一條に關しては左の如く論じてゐる。  
『……思ふに政府當局者がこの條項に於いて労働組合の目的を明記したのは階級闘争を激成する精神からではなく、單に明確に労働組合の本質上雇主との關係が主である事を意味したものであつて、この點は英、米、獨の諸外國の立法例に依つて明らかであるが如く必ずしも資本家側の云ふが如く不穩當なものではない。唯資本家側では労働組合は既に存在してゐる盛んに労働条件の維持改善を目的として活動してゐるのではないか、だから何れも今更ら法律を以て其の目的を定義づける必要はないと云ふ論法を以て進んでゐるが、然し乍ら之を遂にこゝうした目的をもつて活動して居る組合が即ち労働組合である事を明確にして置いた處で何

等不都合でない」と云ふ議論も成り立つわけで、要は善意に解釋するか、さもなければ惡意に解釋するか或は立場の相違であつて資本案例は前記の問題に對しては労働組合の目的及び法の精神を充分に認識して居らざる所以であると斷言して仰らない。

註十 「労働組合の本質に就いて」労働八月號、二頁—三頁

註十一 「日本民衆新聞」七月一日

註十二 「労働組合法討論會」改造八月號、九八頁—九九頁

註十三 「社會民衆新聞」九月十五日

註十四 「労働組合法要求運動の意義」労働四月號、二頁

全國大衆黨側の組合の目的に關する見解は、社會民衆黨の意圖と甚しき差異を發見し難い。大衆黨書記長河野密は云ふ、「労働組合は労働者階級が資本家階級に對して闘争するための機關である。然しその目標とするところは専ら經濟的の條件である、賃銀の問題であるとか、労働時間の問題であるとか、待遇改善の問題であるとか、労働者階級の労働條件の改善がその直接の任務である」と。(註十五)この點に於ては社會民衆黨側の意見と殆どその軌を一にして居るのみならず、政黨との關係に於ても、河野密は同じく政黨支持主義を採り、「労働組合は無産政黨に入らねばならぬ」とする。(註十六)日本大衆黨労働組合法案第一條に於ては「労働生活ノ條件ノ維持改善ヲ目的トスル」と規定し、政治行動を制約せざるが如く思はしめるが、前記主張と照合するに、これも政黨支持主義の範圍内に於て行ふものにして、直接政治運動を行はんとするものではないのはなからうか。資本家側が、労働條件の維持改善を主とし、共済其の他の共同利益の保護増進を従としたりとを非難したるに對し、松谷與二郎は次の如くに駁撃を加へてゐる。(註十七)

「組合の目的は、労働條件の維持改善にあることは今日の社會の通念であるに拘らず、強ひて之に「共済其の他共同利益

の保護増進を併せしめんとするが如きは、所謂今日の御用團體を保護助長せしめんとする魂膽たることは明かである」これによつて見るも、組合の經濟的目的中、最も重要視しつゝあるものは矢張り「労働條件の維持改善」である事が想像されるのである。

その他、組合法案に對する見解は社會民衆黨と大同小異なるが故に、特に一々引用する迄もない事と思ふから、省略する事にする。

註十五 河野密「労働組合と無産政黨」(五期労働)七月十日

註十六 同前

註十七 松谷與二郎「組合法案を中心としての勞資對立」(經濟往来)八月號、一—六頁

續いて、勞農黨の議論を検討するに至ると、その労働組合の目的とする處も著しい特色を示して来る。彼等の根本的の立場は、經濟的行動と政治行動とを區別せず、兩者を共に組合の目的になさんとするにあると思はれる。我々はこゝで大山郁夫の議論を傾聴しやう。(註十八)

「一般に知られてゐる通り、労働組合は、労働條件—賃銀の値上げ、労働時間の短縮、工場設備の改良、等々の問題の維持改善のために、資本家と戦ふことを目的としてゐるものである。この點は間違ひのない事實だ。だが、現在一、即ち資本主義崩壊の前後に不撓不屈の活動をつゞけてゐる一切の職團的労働組合は、單に労働條件の維持改善といふことだけを目的としてゐるものでは斷じてない。労働組合が個々の工場、職場に於ける労働條件の維持改善といふことだけを目的として戦つてゐるのは既に過去のことである。



なるほど、その發生の歴史から言へば、たしかに労働條件の維持改善を目的として生れたものだと言へる。だが、労働組合の役割は、長い間の闘争を経てゐるうちに、斷然、發展し轉化した。それについてマルクスは、こゝにいふ意味のことを、ところ／＼で言つてゐる。

一、近代的大産業は、多数の見ず知らずの労働者を一個所に集める。最初のうち、それらの労働者は互に競争することによつて分裂する。だが、やがて、それらの労働者は、労賃の維持と云ふ共同の利益のために、協力して資本家に對抗するやうになる。かくして労働者の團結が生れる。

二、労働者の資本家に對する抗争は、最初に労賃の維持といふことを目的としてゐたにすぎないが、しかし資本家側がそれを抑制するために、お互ひに相結合するにしたがつて、始めの間は孤立的であつた労働者側の團結も次第に合同に赴くやうになり、やがて組合の維持といふことが、労賃の維持といふことよりも、一層必要なことになつて来る。

三、それと同時に、最初、個々の工場または職場に於て、個々の資本家から奪ひ取つてゐた労働時間の制限等は、やがて「八時間労働制」等々の獲得運動に發展する。かくして一般に、労働者の個々の經濟的運動から、一つの政治的運動が生長する。

四、しかし労働階級の政治的運動は、やがて「賃銀制度そのもの、撤廃」を目的とするに至る。即ち労働階級は「正當なる一日分の労働に對して正當なる一日分の労賃」といふ保守的な格言の代りに、彼等の旗印の上に革命的な slogan「賃銀制度の全廢」を掲げしめるやうになる。

五、労働階級の組織された力が、労働階級の最後の解放、即ち賃銀制度の廢止に向つて使用されるやうになれば、その段階に於ける労働階級の運動は、ブルジョア政治權力の徹底的な克復をその目標とするに至る。

六、階級と階級との間の闘争はだが一政治闘争である。

一切の戰闘的労働組合は單に労働條件の維持改善を目的としてゐるだけでなく、ブルジョア政府に對するプロレタリアと全面的闘争に於て、極めて重大なる役割を持つてゐるのである。

プロレタリアートの運動が、この段階に達する頃には、いづれの國に於ても、その運動を全體的に指導する労働者の政黨が生れる。だが全労働者大衆を政黨に組織することは、ブルジョアジーが、政治的に經濟的に社會的に全面的に支配してゐる社會では、全く不可能なことである。したがつて、労働者の政黨が労働階級の「頭部」として組織される。かうした關係の下に、「政黨」はプロレタリアートの政治闘争に於ける參謀本部としての役割を、そして労働組合は正にその「本隊」としての役割をもつに至るのである。この本隊なくしては、參謀本部は全く無力である。換言すれば、労働組合「および農民組合等々」の意識的活動なくしては、黨が數十萬數百萬の大衆を政治闘争に動員する事は、全く不可能である。かくして労働組合は、プロレタリアートの政治闘争に於て、黨と大衆とを結びつけるためのベルトの役割を果してゐる。そこに労働組合の政治的役割がある。わが國の戰闘的労働組合は、彼等のその役割を果すために、常に全被壓迫大衆の前衛隊として、あらゆる政治的闘争の先頭に立つて闘ひ進んでゐる。これこそ現段階に於ける労働組合の最も光輝ある階級的任務なのだ。

即ち、彼は現在に於ては労働組合の目的は單に労働條件の維持改善のみにあるのではなく、政治闘争にも重大なる役割を持つと説き、政黨と組合との關係に就いては政黨從屬主義の立場を探り、組合の任務を以て黨と大衆との結合の爲のベルトとなるにあるとすのである。

労働組合法案論争の重點と出版物

ば、

第一條 労働者は、労働者階級の経済的・政治的利益の擁護伸張のため、労働組合並にその聯合體を組織することを得。

軍人軍属、官公吏、その他何人と雖も、労働者たる限り、前項の權利を喪失することなし。

労働者に非ざるものと雖も、労働組合の承認を得たるものは、之に加入することを得。

第二條 労働組合は政治的活動の自由を制限せらるゝ事なし。

更に、これが解説として、労働者は左の如くに説明する。(註十九)

『第一條第一項は、「労働者階級の経済的、政治的利益の擁護伸張」を労働組合の目的となせる點に、その特色を有する。

……労働組合はたゞに組織されてゐる個々の労働者の日常的経済利益の擁護伸張を目的とするばかりでなく、更に

進んで全労働者階級の政治的向上——それはやがて階級自體の消滅にまで發展するところのもの——を目的となしうる事

と明かにしたのである。……第一條第二項は、軍人軍属等が労働組合を組織しうる事を明かにしたものだ。このこと

は、吾々の主張する労働組合が政治をも目的となしうるものなるが故に、特に明記しておく必要がある。(下略)

第二條は労働組合が政治的活動の自由を有することを特に明かにしたものだ。吾々の成案では、労働組合は政治上の目

的をも有し得るのだから、これは當然のことであるが、たゞ社會局案等々に對するコントラストを明瞭ならしめる爲に、

特にこの條項を設けた。なほ一方では組合の目的を制限しておきながら、他方ではたゞ抽象的に組合は政治的行動の自由

を有するなどと言つて、人を欺瞞する者があるから、吾々は特に「政治的行動の自由を制限せらるゝことなし」との表現を

用ひた。

此の如く、労働組合の政治的行動の自由は、彼等があらゆる機會に強調する處なのである。(註二十)ある場合に於ては經濟的目的の追求よりも、寧ろ政治的行動の方を重視して見るのではないかの感を抱かせるが、中央公論八月號所載の大山郁夫の論文などは、正にこの一例として挙げてよいものであらう。

かくて、彼等は、前述の如き組合の目的の前提の上に、その闘争力を強大ならしむべく、團結權、罷業權の完全なる獲得を叫んで、これを妨害すると考へる處の社會局案の諸規定に向つて排撃の論歩を進める。その主要なる項目を、大山郁夫の所論に従つて挙げれば、次の如くである。(註廿一)

(イ)、規約その他の届出の強制(政府案、第二條、及第三條)

(ロ)、業務並に財産の調査(同、第十四條)

(ハ)、組合の規程に干渉する規定(同、第十六條)

(ニ)、労働組合の決議に對する干渉(同、第十五條)

(ホ)、反動的解散規定(同、第十七條)

(ヘ)、軍人軍属に關する除外規定(同、第二十六條)

註十八 大山郁夫「帝國主義アルジョアジの武器としての労働組合法政府案」(中央公論)八月號、十二頁—十三頁)

註十九 「労働農民新聞」七月一日、第四面

註二十 同上、労働農民新聞(七月一日)に載せた「労働組合法案の反動性と欺瞞性」と題する論文中に於て、労働組合の政治的任務

労働組合法案論争の重點と出版物



「従来、政府の主張は、労働組合の目的を労働条件の維持改善及び共済修養其他共同利益の保護増進といふ限度に定めたものであるが、之だけの制限からは、労働組合の政治的活動が制限されること、労働組合にとつて中心問題であるところのストライキに対する援護、援助その他労働組合独自の闘争に対する制限が裏書されたものである。しかも以上に挙げられた諸項目さへも一旦法律になれば、その解釋運用の権利が、資本家地主の手に歸するものであるから、直接的なものでないかぎり、殆ど塗抹されるものと見なければならぬ。……云ふまでもなく、労働組合の目的は、單なる労働条件の維持改善に限られたものではなく、この目標を通じて、労働者階級の階級的解放を戦ひ取ることにある。したがつて労働者が永久に搾取の鐵鎖につなかれることを前提としたかゝる目的の規定は、労働者階級を侮辱し、欺瞞し、労働者の解放を阻止することを期待する提案といふべきである。」云々

と。  
一 黨と組合との關係に於ては、共產黨の根本方針よりして、組合は政黨從屬主義の立場に立ち、大衆動員の一組織として、最高の指揮は黨より受けるのである。最左翼の戰術に於ては、プロレタリアの政黨がその必要なる組織の一部分として労働組合及農民組合をつくらうとするのであるから、組合はその成立過程より考へるも、政治的活動を重要なる目的とし、共產黨に對し絶対的服従の地位にある事は想像するに難くない。又彼等もかゝる組織形態をとるべきことを屢言してゐるのである。

その他、かゝる組合の目的を遂行する爲に障害となるべき、規定に對しても攻撃を加へてゐる事勿論であるが、この點に於ては勞農黨其他の見解と大差ないものと思はれる故省略して、先へ急がう。

附廿二 關東金屬労働組合、政府案労働組合法の正體？（「工場」一月號、三五頁—三六頁）

附廿三 奈良正路、労働組合法草案大綱の階級的意義（「プロレタリア科學」二月號、三二頁—三三頁）

最後に、無政府主義者等の主張を聞く順序であるが、彼等は法律の制定そのものを根本的に否定するのであるから、社會局案に對して法律的な批判を加へやうとしない。條文を引用する場合に於ても、それは單に反對せんが爲に用ひるに過ぎないのであつて、彼等はそれらを論ずる間に、社會民主主義的労働組合乃至は共產主義的労働組合を徹底的に排撃し、自由聯合主義の労働組合の擴大強化に努力する事をその唯一の目的としてゐるのではないかとさへ思はれるのである。

元來、無政府主義は政治を否認するものであるから、労働組合の目的として、政治行動の自由を要求する事は自己懐疑である。さればと云つて、『労働条件の維持改善等』の經濟的行動のみを組合の唯一の目的として満足するものであるとも考へられない。結局、無政府主義の根本原理にまで廻らなければ、自由聯合主義組合の使命は明確に把握されない。しかし乍らこの事は労働組合法と何等の直接の關係がないのみでなく、法律を否定するが故に、間接の關係も認め難いし、且又、調査した論文にもこの問題に觸れたものは殆どないのであるから、これ以上、追究する事は中止し、森辰之介の『第一條』に關する議論を聴く事を以て、満足する事としやう。

『勿論我々の組合も相互扶助、その他技能の向上、種々な相互的教育訓練を行はなければならない。然しながら、これらは労働組合の本質をなすものではなく、寧ろ副次的な、乃至は解放への手段にすぎない。反動的資本家團體の決議案は、…』

……労働協同的共済的、御用労働組合以外の一切の労働組合の存在を否定しやうとするものに外ならない』云々

註廿四 雜成之助『労働組合法案を粉砕せよ』(黒線九月號、一〇頁)

以上概観するに、資本家側には組合の使命を主として共済的方面に認めんとするに對して、社民、大衆兩黨は『労働條件の維持改善』を重要目的とし、労働黨及最左翼一派は政治的目的を更に重視する。無政府主義に至つては、組合をその理想とする社會實現の爲の直接の闘争機關たらしめんとするのであつて、全く特異の行動をとらしめんとする。

## 世界恐慌論の論調(一)

### 序 言

十八世紀の英國に於ける産業革命は資本主義制度に急激な發達を與へ、商品は在來の家内工業から機械に依る大量生産に移つて大規模に生産が行はれ資本家はお互に競争して争つてその販路を擴張し、生産は益擴大され、信用は愈膨脹して行つたが、往々にして生産の過不足は、商品の需要供給關係の釣合を破つて、經濟界が大混亂に陥り、所謂恐慌状態が世界的廣汎な範圍に起る様になつた。小範圍に於ける經濟的混亂は古くから存在したが、これが國際的にあらゆる産業部門に涉つて起つたのは全く十八世紀以後のこと、而も之が或る週期を以て繁榮時代と交互に起ることも確定的な現象である。斯くして起る恐慌はその起る状況性質に依つて幾多の種類がある。

古來經濟學者は恐慌の種類をいろいろに分類して居るが、獨逸の學者ブーニヤチヤン(Börsch)の説に依ると次の様に分類される。

- I 一般的經濟恐慌(經濟界全般に涉る恐慌)
- II 特殊の經濟恐慌(特殊部門にのみ起る恐慌)

一、交易手段の恐慌

世界恐慌論の論調

- イ、貨幣恐慌
  - ロ、信用恐慌
  - 二、價值交通の恐慌又は商業恐慌
    - イ、財貨交通の恐慌又は商業商品の恐慌
    - ロ、資本流通の恐慌又は取引所恐慌
  - 三、財貨生産恐慌
    - イ、工業恐慌
    - ロ、農業恐慌
- 又同じ獨逸のゾムバルト(Sombart)は之と別の見地よりして次の如く分類して居る。
- A、個人の負債事實としての恐慌(一會社の破産等の影響にて起るもの)
  - B、自然事實としての恐慌(凶作、豊作、戦争、革命等の原因に依つて起るもの)
  - C、社會事實としての恐慌(社會組織の矛盾より起るもの)
- I、私經濟恐慌
    - Ⅰ、財政恐慌
    - Ⅱ、國民經濟恐慌
    - Ⅲ、簡單なる販路恐慌

二、資本恐慌

イ、第一次的資本恐慌

ロ、第二次的資本恐慌

甲、商業恐慌

乙、生産恐慌

前述の如く恐慌は資本主義の繁榮と共に、その一時的混亂として十八世紀以來週期的に度々起つて居るが、之が原因に就いては古來幾多の經濟學者が所論を發表して居る恐慌學説は非常に多い。尙近年恐慌は特殊の偶發的なものを除いては恐慌自體として他の景氣状態から切離されて存在するものでなく、考察が進むと共にそれが景氣變動といふ更に包括的な事象の一部としてのみ存在することが、明かになり景氣變動の一般を説明し、その一段階として恐慌の説明に進むと云ふ道行が選ばれる様になつた。恐慌の學説は經濟機構が複雑となるにつれ、益多くなつてゆく、一八九五年獨逸のベルクマン教授が分類した數に依ると二百三十種、これを八種の體系に分けて居るが最近に至つては、その複雑性の發展は種類別することが殆んど不可能な位多様であり分類方法も學者に依つて異なるが、生産消費の均衡如何に因るといふ消費過少説、生産過剩説、スタンレー・ゼボンスの如き、太陽の黒點の變化に因るといふ自然現象説、ロツシエルの如く經濟界の循環的變化は革命大發明新交易徑路の發達競争等の異常現象に因るといふ異常現象説、ジョンミルの如き、心理現象に因るといふ心理説、資本主義制度の缺陷に基くものとする社會主義説、貨幣制に重きを置く金融説等種々あるが尙之等は純粹でなく甲説と乙説を加味したものと乙説に丙説が加つたもの等種々多様である。

然し之を更に大別するならば資本主義の組織を否定するマルクス主義経済學に於ける恐慌理論とその他のものに分つて見ることが出来る。

本稿に於ては主としてマルクス主義の恐慌論及び最近の世界恐慌に對するマルクス主義者の恐慌論に就いて紹介したいと思ふ。

### 一 マルクス主義恐慌論

資本の蓄積を論じ、資本—労働—賃銀の間に新しい解釋を下したマルクスは恐慌が資本主義制度の缺陷であることを明らかに指定した。尤もマルクスのみでなく、シェフレー(オーストリーの社會學者) ロドベルタス(ドイツの國家社會主義者)等も資本主義組織が週期的に産業の不調を生ぜしむるといふ恐慌理論を發表して居るが、恐慌が資本主義没落の過程であると主張する點が他の論者と異つて居る。

マルクスの恐慌理論といふが「經濟學批判」や「資本論」の完成を見ずに死んだマルクスは恐慌に對して確定的な組織的な意見を完成しなかつたのでマルクスの恐慌論の確證が未だにマルクス主義學徒の間の問題となり、その發展も幾多の分派に分れてマルクス主義派としての規定的なものがない状態である。

先づマルクスが恐慌を如何に定義して居たかを見ると、經濟上の諸矛盾の爆發と見て居る。例へば、『經濟學批判』に於ては

『十九世紀に於ける商業恐慌、殊に一八二五年及び一八三六年の大恐慌は、リカアドの貨幣理論を更に發展せしめはしな

かつたが、その適用の新たなる機會を與へた此等の恐慌はもはや、ヒュームの興味を感じ十六世紀及び十七世紀に於ける貴金屬の價值下落、或はリカアドの研究せし十八世紀及び十九世紀初頭に於ける紙幣の價值下落の如き個別的な經濟現象ではなくて、世界市場の暴風雨であり、それは資本主義的生產過程の總ての要素の矛盾が爆發せるものである』

又『剩餘價值學說史』では

『世界市場恐慌は資本主義的經濟のあらゆる矛盾の現實なる綜合として且又強力的なる調整として把握されねばならぬ』

『資本主義的生產のあらゆる矛盾は、一般的世界市場恐慌に於て集約的に爆發する』

マルクスの説く處は恐慌が資本主義經濟内に於ける波でなく、資本主義發展の極、没落に向ふ一つの過程であるといふに在る。

然らば資本主義は如何なる原因に依つて恐慌を必然的に持つかといふと、エムスベクトートルは「マルクスの恐慌理論」に於て次の如く概観を説明して居る。ロシア版「マルクス主義の旗の下に」(一號—プロレタリア科學研究所發行)

「資本主義的に發展せる經濟に於ては根本的な需要は生産手段に對する産業上の需要より出發する、何故ならば、マルクスが正しくも考へる通り、不變資本が可變資本より急速に發達するからである。もし何等かの動機に依つて生産手段に對して著しい需要が喚起されると産業上の賑興が始まる。不變資本である、工場、鐵道、發電所等の企業の新らしい建設が始まり、そして結局に於てこれらの企業の建設過程が續く限り絶えず種々なる原料、煉瓦、鐵等々と労働力に對する需要が市場に向つて表示されるのであるが、これらの生産物或は労働力の價值の一部たりとも市場に歸することはない。たゞ新らしい企業或は新らしい機械が動き始めるに到つて、それらのものは、その價值の一部を順次市場に還し始めるに過ぎない。だが新

らしい企業の建設と同時に、固定資本の価値の部分を生産される生産物の上に移すところの古い企業が作用する。(上掲書 一三三頁)

次に新しい企業等の建設に進むとき市場における状態を考へると次の三つの場合が想像される。

(一)資本の新しい投下の側より表示される需要が、商品によつて實現されるところの従来の固定資本の部分より少ない場合

(二)新しい投資が古い固定資本の實現部分に等しくなる様な範囲に到達する場合

(三)(一)の逆で新しい投資が固定資本の部分より増大する場合

(一)の場合は、商品の供給が需要を越えざるを得ない時で、かゝる状態は、商品市場における需要に對する供給の超過と低い商品価格と低い利率とが特徴である。(二)の場合は市場における資本と商品が幾分賑興して需要と供給の間に均衡が起り、価格は未だ昂騰しないけれども市場の雰囲気が強固になつた場合である。(三)の場合は産業上の繁榮が始まる時で、需要は現在する供給によつて満足されなくて、却つて古い企業の擴大を呼び起し、新しい建設を強制し、価格も労賃も上昇せしめる。これは固定資本の擴大再生産の契機であり、この擴大再生産は不變資本の他の要素の擴大再生産と勞働力に對する強烈なる需要を呼び起す原因となる。

實際に需要が上昇すると市場に於いて価格と価格の差が引離れて価格を増大せしめる。

さうすると、今迄後れて居た企業が生産過程に引き込まれて、社會的な商品価値が高まつてくる。この現象が續くと市場には過剰生産が起り、最後は価格が下落し、次いで生産過程より後れた企業が投げ出され、そして同様に市場価値が下落し

て來る從つて我々が恐慌と呼ぶのは次の様な、価格がより繼續的な期間に亘つて商品の平均価値以下に必然と下落するやうな市場の状態をいふ、また産業の繁榮とは、価格が平均価値以上に逸脱する時をいふ。故に價格の變動を指摘することが恐慌を單純に説明することである。(同上書)

原料價格の騰貴は、もしそれが可成り著しいときは、一般に恐慌を引起すことをマルクスは述べて居る。『もし原料の價格が昂騰するとすれば、勞銀を控除した後、商品価値の中から完全に原料を代置することは不可能となるであらう。隨つて、急激なる價格變動は、再生産行程の中断や、その大なる阻礙や、甚しきは崩壊をも喚び起すことになる。』(資本論第三卷上 改造社版九一頁)。自然的なまた偶然的な契機(凶作、火事、戦争)の結果、價格變動が急激に起ることがある。マルクスは之を原料價格變動の第二の要素として述べて居る。これは資本の廻轉間の不齊を示すもので重要な要素である。『發育上並びに生産上、一定の自然的諸期間に結びつけられてゐる特定の有機的諸法則に支配され植物性及び動物性の諸素材は、例へば機械その他の固定資本や、石炭や、鑛石やの如き、他の自然諸條件が與へられてゐると假定するとき産業の發達した一國に於いて極めて短期間に増殖し得るものと同一の程度で突然的に増殖し得るものではない。これは事柄の性質上、斯くあるべきことなのである。そこで、不變資本の中、固定資本たる機械その他から成る部分の生産及び増殖よりも著しく先きに出でることがため、原料の需要は供給よりも急速に増大してその價格を昂騰せしめることになる。このことは單に可能だといふのみでなく、資本制生産の發達せる處に在つては避くべからざることゝもなつて居る。』(資本論第三卷上 改造社版九一頁) 剩餘價值學說史(第二卷第二分冊)においてマルクスは之に附け加へていふ『だが、原料の不足は收穫影響を受けず、或は原料を供給する勞働の生産性に制約されず起り得る。換言すれば、何等か特殊な生産領域において機械その他に蓄積され



たる。剰餘價值、即ち追加資本の餘りに多くの部分が支出される時は、原料は、かりに舊い生産段階にとつては充分であらうとも、新しい生産にとつては不充分であるであらう。これは従つて追加資本がその相異なる諸要素間に不規則に分配される結果得られる、これは固定資本の過剰生産の場合である。

このマルクスの思想は、固定資本の擴大再生産の時代、即ち産業上の繁榮時代における價格の騰貴を説明したものである。マルクスはこゝで資本の分配の不齊のうちに潜むところの、需要と供給との分岐なる事實より深刻な説明を與へてゐるのである。更に重要なことは需要に對する價格昂騰の影響である。『市場の擴大或は縮少は明かに個々の商品の價格に依存して居り、またこの價格の昂騰は下落に對してこれと逆の關係に立つて居る』かくの如く價格の騰貴を喚び起すところのあらゆる産業上の振興はこれ自らに沈滞の萌芽を含んでゐるといふのである。そして價格が上れば上がる程、購買者の範圍は狭められ市場は縮少する。これには次の如き決定的理由が示されて居る。即ち生活手段と勞賃との間には次のやうな交互關係が存在するといふことである。即ち生活手段が上つても、勞賃はこれに應じて上らず實質上は下落する、理由は、勞働の生産性が不變である場合勞賃の昂騰は、後ちに更に大資本に分たれるところの剰餘價值の率の劇しい縮少を意味するのであるから従つて利潤家は之に反對する『もし不拂勞働の減少が進んで資本を養ふところの剰餘勞働がもはや標準的な量で供給されなくなる限點に觸れるや否や、一の反動が現れる、即ち所得のうち資本化された部分は減少し蓄積は弛滞して、勞賃の昂騰運動は反對の運動によつて代られる』(マルクス『資本論』第一卷)

この理由に依つて勞賃は、商品の價格が急激に上昇する場合、この商品價格の運動より後れるのである、このため市場の容量は價格の騰貴に比例して擴大されない、だがしかし勞賃の運動は辯證法的に發展することをいへばならない、即ち最初は、それは一般的價格水準の上昇より後れる。次いで勞働者に對する需要が急激に高まると勞賃は既製品の價格の昂騰を凌駕して、加工業における剰餘價值率の劇的な縮少を喚起し、これと同時に恐慌の一つの原因となる。

この現象は簡單なる數字の例によつて圖解すると一層明かになる、原料は、一、〇〇〇圓に値し、製造品は一は五四〇圓となり、そのうち四〇〇圓は生産に對する補充的な支出を形づくり、一四〇圓は利潤となるとする。すると利潤率は一割となる、原料の價格が一、二〇〇圓に上つたと假定すると製造品は企業家にとつて一、六〇〇圓に當ることになる、その一割は一六〇圓であるから商品は一、七六〇圓にしなければならぬ。言換へれば原料價格の二〇〇圓の騰貴に對して、二二〇圓高くなつたのである、前述のマルクスの法則に従へば企業家はこの商品一、七五〇圓でも、或は、一、七四〇圓でも、一、七三〇圓で賣ることが出来る、すると利潤率はこの場合夫々九分三厘、八分七厘或八分に下落することになる。

マルクスは之に對して利潤率の低下は資本制の生産に取つては生産擴大の休止を意味するものなることを説いて居る。『生産の伸張又は收縮は、不拂勞働の占有と對象化された勞働一般に對する不拂勞働の比例とに依つて、又は資本制的に言ひ現せば利潤と充用資本に對する利潤の比例(即ち或る一定の利潤率)とに依つて決定されるものであつて、社會的の諸欲望に對する、社會的に發達した人類の諸欲望に對する、生産の比例に依つて、決定されるものではない、それ故、他の前提の下では寧ろ極めて不十分なものとして現れるなるべき、生産の或る伸張程度を以つてしても、既に資本制生産方法は諸制限に逢着する、資本制生産方法は、欲望充足の上からではなく利潤の生産及び實現といふ點から見て已むを得なくなつた時、休止するに至るものである。』

利潤率が低下するとき、一方には個別的諸商品の個別的價值をばより優良な諸方法その他に依つて社會平均價值以下に低

下せしめ、斯くして、與へられたる市場価格を以つて各個の資本家のために一の特別利潤を生ぜしめんとする資本の緊張が行はれると共に、他方にはまた、一般的平均から獨立し且つそれを越過した何等かの特別利潤を確保せんとして生産上の新たな諸方法、新たな諸投資、新たな諸冒險についての狂熱的な企圖が生ずるため詐欺及びその一般的な助長が行はれることになる。

利潤率は、換言すれば資本の相対的増大は何よりも先づ、獨立して群合する一切の新たな資本構成にとつて重要なものである。而して利潤率の低下から来る損失を利潤の量に依つて償ひ得る少數の完成した大資本の資本形成が専ら歸屬するや否や、活氣に充ちた生産の焔は總じて消え失せる生産は侵入つてしまふであらう。利潤率は資本制生産の起動力である。資本制生産の下に於いては利潤を齎らすやうに生産し得る物のみが、斯く生産し得る限りに於てのみ生産される。』(資本論(第三卷上改造社版二二頁))

利潤率の低下は然し始は全く別の結果を持つ。企業家は原料支出の増大を他の支出の低下と資本の廻轉促進によつて填補しやうと欲して企業の負擔を増加せしめ、それによつてまた生産の範圍をも増加せしめる。何故ならば生産の價値は周知のやうにその範圍の擴大と共に低下するから。生産を増加せしむることは原料の需要を増加することを意味し従つてまた原料の價格を更にも高くすることを意味するしかるに市場の擴大を招く必要のあることは製造品の價格をより以上に低下せしむることになるのである。

固定資本の擴大再生産が、商品に轉與されるところの、既に活動しつゝある固定資本の價値部分以上に行はれるまで、需要は供給に先行し、價格は昂騰しつゞけ、利潤率は際立つて低下し得ないだが、原料價格の昂騰は次第に固定資本の擴大を

抑制して行く。それは資本の過剰部分は流動資本に向ひ、利潤率は低下し、銀行に(高い利子を拂ふから)遊離資本を與へることが有利になるからである。又一方、誰もが極度に舊い固定資本を利用して生産を擴大しやうと努める、従つて固定資本の遊離部分が固定資本に對する新しい投下を越越する時機が速に到來し、市場は供給過剰になり價格は猛烈に低下し、恐慌が襲來する。

この理論に依ればマルクスの言ふ處の『資本制生産の眞の制限は資本そのものである。換言すれば、資本並びにその自己増殖が生産の起點及び終點として動機及び目的として現はれるといふこと、生産は資本のための生産に過ぎぬものであつて、反對に生産機關は生産者たちの社會のために生産行程の形成を斷断に擴大せしめるといふ單にそれだけの手段たるものではない』の意味は明かにならう。尚、そのため、『生産者大衆の所有剝脱と窮乏化とを基礎とする資本價格の保存及び増殖に對して、その越ゆべからざる運動範圍となつてゐる諸制限——此等の諸制限は斯くして、資本がそれ自身の目的のために應用することを要するところの、且つ生産の無制限的な擴大に、生産のための生産に、労働の無條件發展に向つて直進する處の生産上の諸方法と不斷に衝突することになる』のである。(資本論卷第三卷上改造社版二二三頁)マルクスのこの箇所は恐慌の根本的原因を示すものである。

マルクスは次の項でこの所説を明かにするために資本の過剰生産を論じて居る。彼は最初は資本主義生産の目的に充用される追加資本が等しくなつた時に資本の絶対過剰生産が來ると假定する。この場合に起るのは一般的利潤率の二の強烈な、突如たる低下である。その然、資本の一部分は生産過程より投げ出され資本の物質的實體の部分も資本として機能をしなくなり作用しなくなり既に生産を開始せる企業部分も停止することは前述の如くである。

マルクスは言ふ『主要な、且つ最も急激的な破壊は、價格性質をもつ限りでの資本價值について、起るものであらう、將來に於ける剰餘價值（即ち利潤）配當の形式といふ形をもつだけであつて、實際のところ相異つた諸形態の下に於ける生産についての全くの債務證券たるに過ぎぬ資本價值部分は、目當にしてゐる収入が減じたとき忽ちにして價值減少を來たす。金銀正貨の一部は疑かされてしまひ、資本としては機能がなくなる。市場に存する諸商品の一部は、その價格の驚くべき收縮と、自己の代表せる資本の價值減少とに依つてのみ、流通上及び再生産行程なるものは一定の價格事情を前提して行はれるものであるから、價格の一般的低落が起れば、勢ひそれが停滯と混亂とに陥らしめられるといふ事實も加はつて來る斯かる擾亂と停滯とのために、資本の發達と同時に與へられる處の右に前提した價格事情に基ける、支拂要具たる貨幣の機能は麻痺せしめられ、一定の期日に満期となる支拂義務の連鎖は、幾多の點で中斷される、これがため、資本と同時に發達した信用制度は崩壊せしめられて、右の擾亂や停滯を更に鋭くし、斯くして遂には激烈な恐慌や、突然的な強力的な價值減少や、再生産行程の現實的な停滯及び、瓦解や、それと共にまた、再生産の現實的な縮小やを、招致することになる。』

（資本論第三卷上改訂版二二六—二二七）  
これが恐慌の動きである、この恐慌の原因は資本の絶對的過剰生産にあり、またこの過剰生産は勿論生産手段の絶對的過剰生産ではなくて、單に、『追加的價值の生み出し得ない資本の過剰生産のためである。かゝる過剰生産が起るのは、資本が『充用資本量の増大と共に利潤量が増大するやうな一の搾取程度を以つて、従つて利潤率が資本の増大と同程度、また特に急速に低下し得ないやうな搾取程度を以つて、労働を搾取することは出来なくなつたからと見て居る。』資本の過剰生産は決して資本たる機能を盡し得るところの、換言すれば與へられたる搾取程度を以つて労働の搾取に充用され得るところの生

産機關——労働要具及生活資料——の過剰生産以外には何事をも意味するものではない。蓋し、この搾取程度が或る一定の點以下に降る時は、資本制生産行程の擾亂及び停滯が、恐慌が、資本の破壊が、喚び起されることになるからである。』（資本論第三卷上改訂版二二八頁）

マルクスの恐慌論は斯くの如くその根源を資本主義根底に存在し、生産に伴ひ、その發展と共に複雑になつてゆく矛盾にあるとする。その順序をくり返せば次の如くなる、固定資本の増大は原料に對する強烈な需要を喚起すると同時に、原料の價格の騰貴を引き起す、この事情は加工工業の利潤率を壓迫し、企業家の新しい資本投下を抑制する、商品の需要は遲滞し始める。このとき新しい資本は、新しい商品に自己の部分を實現して活動し始める。既に造られたる固定資本の部分と、再び新しい生産手段の姿で蓄積される剰餘價值部分が増大し、一般的價值のうち新しい建設或は新しい生産手段に投下される部分が縮小する。更に利潤率の低下の壓迫を受けて、企業よりよき利用や、擴大生産や、より多くの負擔へと向ひ、供給の増大が起り價格の低落がはじまる。それに加ふるに原料に對する需要の増大は一時的原料の昂騰を招き、固定資本の再生産の擴大過程は更に一層遲延する、市場は混亂し、恐慌が起るのである。價格の低落は原料にも移されるが生産の擴大は技術的經濟的原因によつて急速に收縮され得ないからそれは幾分遅く來るそれが爲恐慌の到來を促進することは勿論であるとする。

要するにマルクスの恐慌論は資本主義産業のゆらゆる『賑興』がそれ自らに消滅の萌芽を帯びて居り、それが一定の限界を越えると、不可避的にやつて來ると言ふのである。

恐慌状態からの脱出に就いても、種々の意見がありツガンバラノウスキー等は新しい偶然的な或は外部的な理由を必要と

して居る。マルクスは資本論で次の如く述べて居る。

『生産の停滞は労働者階級の一部を失業せしめ、就業しつべある労働者部分をして賃銀の低下（甚しきは平均以下）への甘んじねばならぬ事情の下に置くであらう。この操作は、平均賃銀を以つてして相対的又は絶対的な剰餘価値を増進せしめる場合と全く同じ影響を資本に與へる。（中略）他方にまた、價格低落と競争戦とは、各資本家が新たな諸機械、新たな改良労働諸方法、新たな諸結合等の採用に依つて、總生産物の個別的價值を一般的價值以上に至らしめるについての一刺戟を與へる。換言すれば、或る一定量の労働の生産力を増進し、不變資本に對する可變資本の割合を低下せしめて、以つて労働者たちを遊離せしめんとする一刺戟、簡單にいへば、人為的過剰人口を造り出すところの一刺戟が與へられる。更らに不變資本諸要素そのもの、價值減少も亦、利潤率の増進を含む一要素たるであらう。充用不變資本の量は可變資本に比して増大したとしても、この不變資本量の價值は減少した事になり得る。既に生じたる生産の停滞は將來資本制度の限界内に行はるべき一の生産擴大を準備してゐるであらう。』（資本論第三卷上改訂版二一七頁）之に依つて停滞の結果として起る利潤率の昂騰は生産を新らしい途へと導き出す。此の場合に於ては、恐慌の影響を受けて既に低落した原料品の價格は製造品の價格の上騰に追隨せず、その剩貨が過れるため、利潤率の増加は加速度に行はれ、繁榮が急速に來り、再び新たな恐慌に導くのである。

マルクスの恐慌論も以上を以てすれば過剰生産説の一種であるが、恐慌が必然性を持ち没落過程の一步であると論ずる點に特徴がある。マルクスは資本主義社會は生産が無政府的の自由競争であるため破滅を免かれないものとし自由競争を廢し統制のある生産をする社會主義社會の存在の可能を力説しその社會に於いては生産機關に全部統制され然も社會主義生産

は消費を目的としたのみの生産を行ふため過剰生産は起り得ないといふのである、然しローザルクセンブルグの如く社會主義的生産に於ても過剰生産は起り得るといふ意見を述べて居るものもある。プーリンは國家資本主義『古典的』資本主義の社會には恐慌の起るべきことを説き「社會主義的社會の純粹な典型を探れば、如何なる恐慌も存在しない、併し、恐らく生産手段の持分は資本主義の支配下に於けるより遙に急速に増加するであらう。蓋し、社會主義的社會に於ては、資本主義に於ては意味のない場合にすら機械が移入せられるからである、併し全く夫故に同時に全社會の廣大なる大衆の欲望は、以上考察した諸社會の經濟的形態の場合に於けるより遙かにより良く満たされるのである（帝國主義と資本の蓄積同人社版一七三頁）と述べて居る。

マルクスの恐慌論のもう一つの特色は恐慌時に於けるブルジョアとプロレタリアの對立である、『商業恐慌に際しては出來上つた生産物の多大な部分が定期的に破壊されるばかりでなく、既に作られた生産力も亦破壊される、恐慌に於ては一種の社會的流行病それは過去のあらゆる時代ならば不道理の事を見えたであらうが——發生するのである——過剰生産の流行病が、社會は突如として、一時の野蠻状態に還つたやうに見える。饑饉と大破壊とが社會から一切の生活手段を杜絶したやうに見える。工業も商業も破壊されたやうに見える、それは何故か外でもない、社會があまり多くの文明を、あまり多くの生活手段を、あまり多くの工業を、あまり多くの商業を、有するからである。社會の用を務むべき生産力は、もはやブルジョアの財產關係を促進させる役には立たない。反對にそれはこの財產關係に對してあまりに強力になり財產關係によつて阻害されることになつた。そして生産力がこの阻害を突破するや否や、全ブルジョア社會は無秩序に陥り、ブルジョア財產の存立は危ふくされる。ブルジョアの諸關係は、自分の作り出した富を包容するのに、あまりに狭ま過ぎるものとなつた







民事訴訟法要義 二卷 下冊  
 平時國際法論  
 帝國憲法講義  
 最新日本刑法各論  
 全譯獨逸民法  
 佛蘭西科學(下卷分冊(4)) 法政學  
 法政雜誌  
 監臨論草、松島事件及云々  
 改正に依る高等試験の受け方と其の問題  
 六法大全  
 新民法訴訟準備書式手續總攬  
 憲法の本質  
 現代法學全集33 商法總則外  
 新書式大全書  
 銀行實務質疑解答集  
 フォーレの工場經營原則  
 論深業一全集 第三卷  
 投資相談  
 經濟學概論  
 經營經濟原理  
 人口理論研究と方法

經濟

細野長良	東京	巖松堂	同	五六一	二、二〇〇
立作太郎	同	日本評論社	同	七〇〇	一、五〇〇
澤田五郎	同	東京農業大學	同	二八五	一、八〇〇
草野豹一郎	同	高等試験聯盟本部	同	二一四	非賣
東季彦	同	有斐閣	同	六四二	三、〇〇〇
杉山直治郎	同	同	同	四六二	一、〇〇〇
末弘慶太郎	同	同	同	四六二	二、五〇〇
花井卓藏	同	同	同	四六二	三、〇〇〇
中島千太郎	同	同	同	四六二	二、四〇〇
大澤一六	同	同	同	三五〇	六、八〇〇
水本信夫	同	同	同	四六二	八、一〇〇
淡島三郎	同	同	同	四六二	二、九〇〇
末弘慶太郎	同	同	同	四六二	約四〇〇
新井正三郎	同	同	同	同	約一、五〇〇
中田秀雄	大阪	銀行問題研究所	同	四六二	三、二〇〇
矢村輝治	同	マナメント社	同	同	約一、五〇〇
山本勇夫	同	平凡社	同	同	六四二
藤田貞次	同	南倉書房	同	同	三、一八〇
大竹虎雄	同	同	同	同	四二〇
木村喜一郎	同	同	同	同	四二〇
林村喜一郎	同	同	同	同	二、八〇〇
新井正三郎	同	同	同	同	約一、五〇〇
新井正三郎	同	同	同	同	八、五〇〇

銀行事務の合理的的研究  
 經濟學全集第三卷 經濟學原理  
 支那土地制度研究  
 ツグエイトロシア經濟叢書3 マルクス主義貨幣理論  
 日用品の買方  
 中小商工業合組の現状と諸改革策  
 價值學說史第三卷 折衷學派の價值學說  
 誕生期の日本に呼びかける  
 銀行叢書第十三編 英國の株式銀行に就て  
 團體經濟學  
 ロシア經濟叢書 ロシア經濟史  
 マルクス經濟學入門  
 信用統制と景氣變動  
 文明協會ニュース第十輯 英國の國產愛用運動の實情  
 サグエイト經濟の實情  
 黃金術移話  
 株式相場變動論  
 豫算統制の研究  
 財況不況の原因及其の療法  
 經濟原論 第一分冊  
 日本農學叢書 産案組合編  
 金輸出再禁止論 不景氣打開の基本對策  
 倉庫講話  
 如何にして此の殺人的不景氣を打開すべきか

西紫 數	同	文雅堂	同	三四二	二、五〇〇
福田徳三	同	改造社	同	四六二	四、〇〇〇
長野 朗	同	刀江書院	同	同	二、二〇〇
河野重弘	同	共生閣	同	同	四、六三〇
前田繁一	同	經濟知識社	同	同	一、二二三
波多野 登	同	經濟攻究會	同	同	一、六六〇
竹本治三郎	同	巖松堂	同	同	三五五
江口百太郎	同	民衆通信社	同	同	一、五八〇
石井秀雄外一名	同	東京銀行協會所	同	同	一、一七〇
佐田弘治郎	同	團體科學社	同	同	三、一四〇
大平 徹	同	東京大阪毎日新聞社	同	同	約七、一八〇
高島佐一郎	同	紅玉堂書局	同	同	四六二
土岐 崇	同	同	同	同	二〇六
米野 豊美	同	文明協會	同	同	九二
岸 柳 莊	同	千倉書房	同	同	三〇〇
三浦 弘一	同	同	同	同	二〇〇
長谷川安兵衛	同	同	同	同	三七一
城口 權三	同	同	同	同	一、二〇〇
小平 權一	同	同	同	同	四一
高橋 龜吉	同	同	同	同	二四〇
末次虎太郎	同	同	同	同	約五〇〇
末次虎太郎	同	同	同	同	四八八
末次虎太郎	同	同	同	同	三八六
末次虎太郎	同	同	同	同	一五四
末次虎太郎	同	同	同	同	〇、三〇〇





主要出版月刊

軍事科とストライキ (禁止)
日本改造の具體案
最近の支那共産黨
國家社會主義問答
オーガスタン、スーシー組合の發展、ソヴェット
社會組織と奴隸制度
第二貧乏物語
マルクス資本論1 第一卷 第一册
レーニン史の唯物論體系 全
没落資本主義の第三期
日本資本主義は没落しないか
赤露の秘密
社會の層を隔る
社會思想全集18 XX主義のABC外二 (禁止)
資本主義國の小學校(禁止)
日本學生思想運動史
革命記録 附日本革命論
ガンヂーの革命運動と宗教
左翼労働組合の組織と政策(禁止)
ソヴェートロシア印象記
フランス大革命史 1
ロシアに於ける宗教の現状

Table with columns for author, publisher, volume, price, and other details for the listed books.

産業、統計

マルクス主義經濟理論叢書11
社會主義學の方法論
社會主義の思想と社會政策及社會事業
レーニンの唯物論體系 下
小學教員減俸の大矛盾
農民組合の語(禁止)
生産機關を返上せよ(禁止)
時事年鑑 昭和六年
昭和六年大東京年鑑
昭和六年 朝日年鑑
修養の極致 處世の要諦 心の沈澆
人生の備を救う親鸞上人
高僧名著全集第七卷 日蓮上人篇
奥運廣録 三卷
無量光如来安樂莊嚴經講話
社會科學と宗教
現代思想と宗教
ロマ書の精神
神人合一 宗教法論
美術と信仰誌 第一册 夢殿
主要出版月刊本報

Table with columns for author, publisher, volume, price, and other details for the listed books.







主要出版物納本月報

航空小説	エキバリージュ	シロセフ、ケツ	同	アルス	二六ノ五四	二五七	一〇〇
口語歌集	明るい學説	橋井京二譯	同	新緑社	同	三五七	一〇〇
太閤記	七	杉木石生	同	寶文館	同	三八二	一〇〇
女賊捕り物話		大久保北秀	同	東京出版社	同	三七二	一三〇
赤彦全集	第八卷	久保田俊彦	同	岩波書店	菊判	約九五〇	一
岩波文庫	哀詩ニ、アンジェリン	ロンダフパロウ	同	岩波書店	三五判	一一七	〇二〇
岩波文庫	波	齋藤悦子	同	同	同	三三九	〇六〇
世界大業文學全集	聊齋志異他一篇	山本有三	同	改造社	同	四八八	一
冬來なば		ハツチンソン著	同	同	同	四五二	一
戦線一萬里		橋本一郎	同	山東社	同	四六判	一、二〇
續國際漢文大成	高青邱詩集文學部二二	神田久作	同	國民文庫刊行會	菊判	三六〇	一、二〇
俳諧大系	俳諧系講義集 下卷	清水登穂	同	春秋社	同	九二〇	一、二〇
新短歌はどう動く		大佛次郎	同	紅玉堂書店	同	約三〇〇	〇八〇
ドレフェス事件		同	同	同人社	同	二六〇	一、三〇
佛蘭西科學	下卷 分冊 1 埃及學研究	杉山直治郎	同	同人社	同	二二三	二、二〇
佛蘭西科學	下卷 分冊 2 佛蘭西學研究	同	同	同人社	同	一九四	一、八〇
山川行住		同	同	同人社	同	六四七	六、〇〇
夜歩く		荻原井泉水	同	同人社	同	三八一	一、八〇
空間船		同	同	同人社	同	四六判	一、二〇
酒落大系	第四卷	具島慶太郎	同	同人社	同	四一三	一、二〇
		高木好次外二名	同	同人社	同	七三六	非賣

殺人結婚		ワットソン撰述	同	日本書院	同	三二二	一、二〇
岩波文庫	倭漢別録集	山田幸雄	同	岩波書店	三五判	一四二	〇、二〇
世界圖史	美術・性科學全集 第三編	丸木砂土	同	武俠社	同	五四八	一
世界犯罪叢書	第四卷 情痴殺人篇	松本泰	同	同人社	同	三二五	一、八〇
庚午日記	六の巻	第一天聲社	同	同人社	同	三〇四	一、〇〇
脱走者	フランツ	小松太郎譯	東京	天人社	同	二五三	一、二〇
四十年	第一部	同	同	同人社	同	九六三	二、〇〇
近代劇全集	三四 露西亞	大宅壯一譯	同	中央公論社	同	五六〇	一、〇〇
ピニイアリス	ポット改訂版	昇曙夢	同	第一書房	同	三〇三	一、三〇
遊俠奇談		永田尚	同	民友社	同	三二六	一、六〇
吉江喬松詩集		子母澤寛	同	梓書房	同	三三一	三、八〇
口語と口文學の研究		末政寂仙	同	改造書房	同	四九二	二、四〇
獵奇風俗百貨店		長河静夫	同	赤煉瓦書房	同	四七八	一、五〇
白秋全集	1 詩集	久米正雄	同	平凡社	同	四九六	一、五〇
久米正雄全集	6 空都 外一	久米正雄	同	平凡社	同	四九六	一、五〇
櫻井忠温全集	2	櫻井忠温	同	改造社	同	八一五	一、五〇
子規全集	第十七卷	正岡子規	同	改造社	同	五七二	一、五〇
我が片影		中山五郎	同	公文館	同	三七五	非賣
土代日本文学史		武田祐吉	同	博文館	同	三八二	二、五〇
浪六全集	第二十二篇 當世女	松上信	同	玉井清文堂	同	四二二	一、二〇
やさしい吉事記		小原民三	同	誠文堂	同	三〇九	一、二〇

主要出版物納本月報

主要出版物納本月報

現代大衆文學全集續3 白井喬二集  
つはもの瀟湘兵衛風流  
明治大正文學全集32 正宗白鳥 外一  
第二期世界文學全集 四 赤と黒  
新潮社長篇文庫 水品の産  
女肉を喰ふ  
現代短歌全集 第六巻 伊藤左千夫集 外一  
幻想の武蔵野  
吉備文庫 第五輯 西遊雜記 外七  
お前の身は昔のものだ  
近松和歌史  
詩集 クレムソンの労働日  
日本戯曲全集 七 寛政期京阪時代証言集  
近松の藝術と人生  
勝曲大觀 第一巻  
川柳漫遊全集2 寸紙双紙 明治の巻  
竹我廻家五郎全集 曇りか晴れか 外七篇  
ミスターニッポン  
夜の騒ぎの話  
ロシアの劇壇  
探偵小説全集24 模造寶石事件他三十一篇  
探偵小説全集11 他十七篇

白井喬二	同	平	同	二六ノ五六	同
松本市太郎	同	凡	同	一〇〇七	同
上田小太郎	同	陽	同	二五二	同
佐々木孝丸	同	書	同	五二一	同
牧 逸馬	同	堂	同	五一	同
三谷錦三郎	同	社	同	三一四	同
伊藤左千夫	同	房	同	二八四	同
山口 諭助	同	社	同	四三七	同
小林久磨雄	同	社	同	二〇二	同
マルゲリット	同	社	同	約二〇〇	同
木林幹郎	東京	社	同	四一六	同
網井久蔵	同	ス	同	四一六	同
中野晴介	同	成	同	五二五	同
深英清太郎	同	任	同	三八	同
飯野哲二	同	書	同	六一〇	同
佐藤謙太郎	同	房	同	二三一	同
矢野 錦	同	堂	同	七三〇	同
和田久一	同	治	同	三二〇	同
和川 久一	同	書	同	三三三	同
群司次郎正	同	院	同	四一四	同
丸木 砂土	同	ス	同	三五六	同
北本浩太郎	同	院	同	三七八	同
ロレンス、ハイ	同	書	同	四一八	同
著 遠野玄府	同	院	同	三五九	同
横溝 正史	同	堂	同	四四〇	同

批判小説 蜘蛛男  
異國の戦争  
魚河岸  
漂泊俳文并月全集  
獄窓の花嫁  
世界珍談奇談集 英米佛篇  
世界探偵小説全集 影の人  
近代劇全集 四二 英吉利  
世界大思想全集 譯文 大日本史  
時と時論  
市井にありて感想集  
省勢抄  
佐々木邦全集 次男坊縁取唄取 外七  
紫式部日記全譯  
横岡譯漢文大成 高青邱詩集 四文學部第二十二卷  
櫻葉はなせ紅い  
第二期世界文學全集 12 トルネル  
四部戦線四人の歩兵  
萬葉集古義附巻 錢葉 外四

江戸川 亂歩	同	大日本雄辨會講	同	四六判	同	四一	同
小 牧 近江	同	社	同	同	同	二四〇	同
金子 津文	同	同	同	同	同	二五二	同
下島 勲	同	同	同	同	同	四一六	同
アレキサンダー	同	同	同	同	同	四一八	同
パイクマン著	同	同	同	同	同	四一八	同
安谷 寛一	同	同	同	同	同	三七三	同
野 澤 久治	同	同	同	同	同	四〇一	同
直木三十五郎	同	同	同	同	同	三五九	同
深村 實二	同	同	同	同	同	四六判	同
外 藤 三郎	同	同	同	同	同	五八〇	同
正 路 愛正	同	同	同	同	同	六二八	同
春 正 行夫	同	同	同	同	同	二九二	同
島 崎 藤村	同	同	同	同	同	二八五	同
武 田 尾吉	同	同	同	同	同	三九六	同
佐々木 邦	同	同	同	同	同	七五二	同
山 室 山三	同	同	同	同	同	二六四	同
鶴 田 久作	同	同	同	同	同	九二〇	同
宇 野 千代	同	同	同	同	同	四五九	同
泰 豊 吉	同	同	同	同	同	四五〇	同
エルンスト、ハ	同	同	同	同	同	一九六	同
ンゼン著	同	同	同	同	同	同	同
福川 扇一	同	同	同	同	同	同	同
郎 譯	同	同	同	同	同	同	同





主要出版物納本月報

日本地理風俗大系 10 中國地方  
人文地理と文化管見  
世界探險全集 第五卷 アフリカ探險  
支那巡遊記 上海南京の巻  
鹿兒島縣郷土系統史  
滿鮮地理歴史研究報告 第十二  
大支那大系 1 社會、民情篇  
世界現狀大觀 獨逸共和國篇  
日本人の新發展地南洋  
南極探險と皇大神宮の奉齋  
吉津村誌  
自然地理學 デーヴィス著  
青森府  
畿内 日蓮上人  
北豆蔲郡勢一斑  
古今讀名勝圖繪  
少年世界地理文庫 オーストラリア  
同 中國地方  
歐米印象  
世界風俗地理大系 16  
極北秘聞  
靜岡縣史 第一卷  
最新日本地圖

仲摩照久	東京	新光社	同	四一九	一、八〇
國松久彌	同	共立社	同	二二四	一、八〇
原田三夫	同	萬里閣	同	三〇四	一、五〇
武藏登喜太郎	同	同人	同	七一	一、五〇
有馬純彦 外一	鹿兒島	同人	同	四四二	一、五〇
東京帝大文學部	東京	同人	同	六二〇	一、五〇
長野 朋外一	同	萬里閣	同	六一五	一、五〇
佐藤義亮	同	新潮社	同	五〇八	一、八〇
竹井十郎	同	同人	同	三四一	一、〇〇
島津村 義武	同	同人	同	一〇七	一、〇〇
小川英雄	同	同人	同	九三一	非賣
面足千木	東京	同人	同	四一三	非賣
山本勇夫	同	先通社	同	六二〇	二、五〇
堀内常太郎	同	中央出版	同	三〇七	一、八〇
堀原猪之松	山梨	北豆蔲郡教育會	同	一、三五六	非賣
西龜正夫	香川	高松製版印刷所	同	七二八	五〇〇
橋本賢康	東京	厚生閣	同	二三八	一、五〇
入澤宗久	同	同人	同	二五四	一、五〇
仲摩照久	同	教育研究會	同	三七〇	一、五〇
室谷邦貞	同	新光社	同	一七二	一、二〇
靜岡 縣	同	同人	同	七九四	一、二〇
内田寛一	東京	同人	同	八一	二、〇九

二六ノ六〇

數學、理學、工學

大生物學者と生物學  
電氣機械の基礎的構成要素と其の運用  
土木建築實用機械學  
東洋工藝集粹  
フアール昆虫記  
家庭醫學大系 養魚ノ話  
アルス機械工學 大講座 V  
受験參考 積分學問題詳解  
受験參考 平面解析幾何學詳解  
建築時代 新しき時代の家具  
民家圖集第五輯  
建築材料  
有機分析  
電氣機械及器具  
植物に現れた獨乙趣味の研究  
平面三角法  
立體幾何學  
岩波文庫 フマール昆虫記 Ⅷ  
建築寫真類聚 舞臺裝置と舞臺設備  
現代建築文叢 第五編 今日の裝飾藝術  
住宅の實例

藤邊喜人	東京	興學會	同	四七六	五〇〇
土田 輝雄	同	早稻田大學	同	七三三	二、〇〇
志水直彦	同	東洋書局出版部	同	三三八	二、二〇
笠森傳繁	同	巧齋社	同	一九二	一、〇〇
平林初之精	同	アルス	同	四七三	一、〇〇
賀川 豊彦	同	同人	同	三二八	一、〇〇
北原 鐵雄	同	同人	同	一〇六	非賣
山崎 榮作	同	大日本圖書	同	約四〇〇	三、二〇
同	同	同人	同	同	三、五〇
高梨山太郎	同	同人	同	同	一、〇〇
同	同	同人	同	同	非賣
横山 信	同	大塚巧齋社	同	二二五	六、五〇
野添 一	同	太陽堂書店	同	七五五	三、〇〇
藤田 雅	東京	カキヤ書店	同	二五五	三、〇〇
小林 秀雄	同	同人	同	三七〇	九、〇〇
原 弘毅	同	同人	同	七七八	三、〇〇
阿部 八千太郎	同	同人	同	約三五〇	二、〇〇
同	同	同人	同	同	二、〇〇
林達夫 外一	同	同人	同	三三〇	二、〇〇
遠山 静雄	同	同人	同	二二八	〇、四〇
三浦前川 勇雄	同	同人	同	四六六	一、一〇
川中 秀	同	同人	同	二六七	二、〇〇

二六ノ六一

主要出版物納本月報

運橋術及地下工作物の強度計算式並圖表  
 電気工学原理  
 花鳥寫真圖鑑 5  
 プランク理論物理學理論 光學  
 鶏の養殖  
 庭木と草花  
 物理科學の發見 誰にもわかる科學全集 第一卷  
 萬花圖鑑 第七集  
 内燃機關  
 初等代數學の基礎  
 内藤燃料科學  
 實驗精米要説  
 ホレモン無機化學  
 鐵骨建築構造  
 ウォルカー著 最新物理化學要論  
 増補燃料工業  
 實用化學便覽  
 合理化的理論と實際  
 混凝土及鐵筋混凝土理論應用  
 アルス自動車大講座  
 鐵筋コンクリート建築構造  
 瀝青土道路圖  
 物理學演習 上巻  
 近世道路工學理論及實際的設計並施工

高橋守一	同	工學資料刊行會	四六倍	一七四	五、五〇
星合正治外一名	同	コロナ社	菊列	六七四	二、七〇
岡本東洋	同	平凡社	菊列	一七八	豫約
寺澤寛一外一譯	同	袋華堂	菊列	三〇〇	四、〇〇
芝田清吾	同	明文堂	同	三三九	二、八〇
柚岡傳二外二名	同	鈴木書房	同	四一六	二、五〇
原田三夫	同	學洋社	同	二六〇	一、〇〇
辻永	同	平凡社	同	四六倍約二五〇	豫約
淺川權八	同	丸善株式會社	同	三〇七	四、五〇
田中増太郎	同	培風館	菊列	三七六	三、八〇
内藤一	同	同	同	四三二	五、〇〇
二瓶貞一	同	西ヶ原刊行會	同	三四二	三、五〇
眞宮俊雄外一譯	同	大日本圖書株式會社	同	六七七	五、五〇
小林政一外一	同	吉田工務所	同	三二二	三、二〇
湯田重太郎	同	丸善株式會社	同	四〇二	三、八〇
栗原鐵司	同	同	同	三六六	四、五〇
大島義清	同	化學工學時報社	菊列	四六六	三、〇〇
ニルマンスキイ	同	泰陽堂	菊列	四四五	三、五〇
著 東城只雄譯	同	正興館書店	同	五四六	三、五〇
小川東太郎	同	アール・ス	同	三七〇	六、五〇
小林政一外一	同	吉田工務所	同	一三四	一、八〇
中村猪市	同	文房書局	同	二〇四	一、八〇
若桑光雄	同	文房書局	同	二六六	二、六〇
菊地嘉美	同	鐵道圖書局	同	三八二	三、九〇
同	同	同	同	四一三	四、二〇

二六ノ六二

國解實地測量の手ほどき 附 道路線路設計  
 二〇三〇年七月 パーリン・ヘット著  
 和洋佐官の知識並形制手引  
 手工工業作業科木材加工法  
 塗料及塗裝法

子宮外妊娠ノ診斷  
 子供研究講座 1  
 遊樂の常識  
 人生の生化學生命化學の研究  
 微生物並ニ免疫學實習  
 昭和四年治療年鑑  
 簡明醫學叢書 第一册 小兒科學及附圖  
 醫學社會衛生叢書 工場衛生  
 現代醫學大辭典 第三卷 病理學各論篇  
 よむ草 第五輯  
 特許器機專刊 日本式無復性醫藥學 全  
 酒明醫學叢書第五輯 小耳鼻咽喉科學  
 エデュケーショナル・クォーターリ 1  
 小兒齒科保存學  
 臨牀大醫典 8 小兒科  
 靜座の神秘  
 近世解剖學の發展本文

主要出版物納本月報

新島武三郎	同	鐵道圖書局	四六倍	三六二	三、二〇
佐藤一郎	同	先通社	同	三三四	一、八〇
中西山造	同	吉田工務所	菊列	二〇二	一、八〇
阿部七五三吉	同	培風館	同	三六六	三、〇〇
清水正雄	同	大倉書店	同	三八六	三、五〇
白木正博	東京	南山堂書店	四六倍	九〇	二、五〇
上村勝彌	同	先通社	四六倍	約四一九	〇、五〇
野尻興顯	同	ホーランド社	同	一三一	〇、五〇
北村直躬	同	富山房	菊列	四二八	二、七〇
里見三比男	同	克誠堂書店	同	四六六	一、五〇
工藤種	同	現代之醫學社	同	約七〇〇	三、五〇
西成市	同	金原商店	菊列	各一五〇	八、五〇
古瀬安俊	同	同	同	二八六	二、五〇
神田登穂	同	小林商店	同	約三〇〇	二、〇〇
小村富次郎	同	同	同	四六倍	一、五〇
加藤幾太郎	同	物理療法時論社	同	七二二	三、〇〇
赤松純一	東京	金原商店	菊列	二〇二	三、〇〇
千葉泰雄	同	厚生閣書店	同	三六〇	一、九〇
岡本清穂	同	商苑社	同	二二二	非賣
神田登穂	同	同	同	五八三	二、〇〇
市原植治	同	神戶一聯合事務所	同	四六六	二、〇〇
二村領次郎	東京	金原商店	同	四六倍	二、〇〇

二六ノ六三



主要出版物納本月報  
 手藝寫真寶典 第一卷  
 積古鑲圖錄  
 孤塵遺集  
 世界美術全集 36

家庭、娯樂

人形芝居雜記  
 女性觀  
 釣魚大全 第五卷  
 映並科學の研究 5  
 新結婚教程  
 團非布石大系 第二卷  
 將棋大全集 平手定跡篇  
 結婚愛  
 日本の子供  
 名人圍碁全集 五先定石 上巻  
 子供の眼堂  
 競馬秘話  
 母いづこ  
 指導地球の理論と實際

池上武志	大熊喜郎	故戸張孤雁	下中彌三郎	石村松太郎	ウイット、ワムト	松本悟郎	上田 尙	岡崎 眞雄	著、非澤三郎譯	藤原七司	花田長太郎	矢口 達郎	武 政太郎	本因坊秀哉	竹田兵雄	石橋正人	宇野浩二	李 想		
同	同	同	同	東京	同	大阪	東京	大阪	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
丸武商店	洪 津 社	戸 張 和 枝 社	平 凡 社	春 陽 堂	一 元 社	洋 々 社	往 來 社	ア ル ス 社	ア ル ス 社	誠 文 堂 社	ア ル ス 社	先 進 社	誠 文 堂 社	文化書房	春 秋 社	大日本書房	同	同	同	
四六倍	四六倍	四六倍	同	四六倍	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
六七	約三〇〇	約六〇〇	約二〇〇	三九六	四〇二	四一四	二五四	三八二	一二〇	四五七	二一八	一九〇	二八二	五五〇	五二一	三三九	六一九	二八〇	二八〇	二八〇
一、二〇	三、三〇	非 賣	非 賣	二、五〇	一、七〇	十回刊本	二、五〇	一、〇〇	一、五〇	非 賣	一、二〇	一、五〇	非 賣	二、〇〇	二、五〇	一、三〇	一、三〇	二、八〇	二、八〇	二、八〇

二六ノ六六

パレナナの成長  
 文藝美術漫遊  
 スポーツと探勝  
 ナゲル川川来る最新王突術  
 園非大家講座 第三輯  
 伊藤通達全集 11 自由党秘録  
 乗道年譜 昭和五年  
 現代國民禮法  
 壯烈ラグビー競技法と其の見方

叢書、交通、兵事

われらの海軍  
 秋田叢書 第六巻 増訂故實叢書  
 海軍史料叢書 第十四巻  
 幼強盛傳錄 (禁止)  
 榮業齊印譜 輸入三冊  
 Japan Trade Promoters The Japan-Commercial Directory 1931  
 各種ソックス製造法  
 輝く人生  
 日本人名大辭典 第二段  
 趣味の支那漫話

著ナナナ子譯	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
平凡社	先 進 社	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
四五七	四一四	四二四	二五〇	約二〇〇	四六倍	七〇九	六一四	二五三	二五五	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
一、五〇	一、五〇	一、三〇	非 賣	非 賣	一、五〇	一、八〇	一、八〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇	一、五〇

二六ノ六七



の収録である。これは亦、改題十月號の附録として添附されたもので、今回単行本として再び發行された。

ラツサル著 憲法の本質 昭和五年十月十六日 白揚社發行

社會主義者にして、「貨幣の機能」なる語を最初に使用した、有名なラツサールの憲法論である。これは彼の演説の速記であるが、專制政治の時代に於て、議會主義者であつた彼は、當時の所謂憲法の空文にすぎない事、民衆階級の手段にすぎなかつた事をこの中に強調してゐる。なほ外にラツサールの他の二三の論文をも収めてゐる。

マキシム・ゴールキー著 四十年 第一部 昭和五年十月十一日 中央公論社發行

「四十年」は著者が數年前から執筆し始め、その當初から世界のセンセーションを喚び起し、わが國でも新聞その他で盛んに宣傳された彼の大作の第一部である。内容は單なる一つの物語ではなくて、クリム・サムギンといふ一人の人間の四十年の生涯を通じて見た近世ロシア革命史である。本書に取扱はれてゐるロシヤの初期の革命家團氣は、プロレタリア運動といふよりは、むしろインテリゲンチヤ運動で、従つて題材の點からいつても、この作品はインテリゲンチヤ性を濃厚に帯びてゐる。ナロードニキからマルキシズムに到るまでの

インテリゲンチヤの思想や生活の種々相を解剖し、暴露し、批判したものであると云ひ得るであらう。

青野季吉著 社會は何故に悩むか 昭和五年十月十三日 改題社發行

本書は、著者が會て雑誌「改題」「中央公論」等、新聞「朝日」「讀賣」等に掲載した論文、隨筆三千五百篇を蒐録する。無産政黨論あり、社會評論あり、人物評論あり、著者が前に發行した「無産政黨と社會運動」に掲載した以外のもの殆んど全部を網羅してゐる。

オーガスチン・スーシー著 組合の發展、ソビエツト 昭和五年十月十四日 黒色社發行

本譯は、オーガスチン・スーシーの「ロシアに於ける労働者農民の生活」からの抄譯で、「ソビエツト(協議會)」「組合の發展」の二論文を収む。何れもアナルコ・サンチカリストたる著者が革命後のロシアを體験してソビエツト權力の専制と反動化とを排撃したもの。僅か三十四頁の膠寫刷パンフレツト。

リヤザノフ著 マルクス學說註解 昭和五年十月十五日 新興閣發行

本書はリヤザノフ編輯になマルクス、エンゲルスの「共産

黨宣言」の註解を翻譯せるもので本年一月二十九日禁止とされる「共産黨宣言」(マルクス主義の註の下に)第二卷第一號特別附録)よりリヤザノフの註解のみを分離し目次の題を變へて單行本として發行せられたものである。それ故本書は「共産黨宣言」に叙述された順序に従つてその註解としてマルクス學說の全體に亘つて簡明に述べられたものであるが單獨にマルクス學說の現解書として獨立させる爲めに次の如く八章に分け更に夫れ々適宜な見出しを附したものである。第一章封建制度の没落と資本主義の發展第二章賃労働と資本第三章プロレタリアートの發生、第四章社會主義思想の發生第五章空想的社會主義第六章財産、個性、道德、勤怠第七章國家の諸問題第八章労働者諸組織とその發展。

マルクス・エンゲルス著 マルクス全集 第十卷 山本 英譯 昭和五年十月十五日 改題社發行

一八六八年より一八八三年に至る迄のマルクス・エンゲルスの往復書翰集である。

米野豊實著 サウエート經濟の實體 昭和五年十月十五日 千倉書房發行

サウエート共産黨は、其の聯邦の抱戴する宏大な資源と大多數の民衆の力に倚つて一大富強の社會主義國建設を期してゐる。彼等の説く處によれば「サウエート聯邦は、世界の需

要する凡ゆる物資を最も潤澤に抱有し、之を開發する時には一片の品も外國より輸入するの要なく經濟的に全く獨立し、其の繁榮と富強は、今日の米國のそれを遙に凌駕しやう」と。然るに、彼等のマルキシズムへの行程は實際に於ては多くの歪曲を免れず、其の政治的經濟的機構の本質が果して社會主義的のもの、プロレタリアのものであるかといふ點に多分の疑ひがあるとして、その政策、施設に理論的實際的批判を試みたものが本書である。

先づ、大戦前の經濟状態より筆を起し、農業、工業、商業の政策と施設の失敗を指摘し、次に労働問題、住宅問題等に論及し、最後に、財政經濟界を總観してゐる。

ジョリアン・エフ・ヘッカー著 ロシアに於ける宗教の現状 昭和五年十月十五日 大東出版社發行

著者は米國で高等教育を受け、一九二一年にロシアへ歸國し、現にモスクワ神學校の教授で、ロシアに於ける宗教の將來を樂觀し、サウエート制度こそ眞の宗教の發達に最も都合良き環境であることを認めてゐる。「現在ロシア民衆の精神的覇權を握つてゐる勢力に、宗教的的人生觀と唯物論的マルクス主義がある。ロシア革命は混沌の中から新型文明を出現させたが、元來非常に宗教的だつた國民が急にその精神を失つて異教的な職團的な唯物論哲學に降伏するものとは思へない。

宗教はプロレタリアの革命的理想主義の傍に存在を續けるだらうと思ふ。神秘的象徴主義を強調する正教會は合理的科學的批判には痛手を受けないし、獨立教派は道徳的統制と經濟的社會的共働と云ふ形に於いて教育及社會事業に重要な寄與をなすであらう」と云ふのが内容の大體である。

奥田宏雲編 **社會科學と宗教**

昭和五年十月十五日  
大東川版社發行

十四人の社會批評家の社會科學と宗教とに關する論文を集めたものである。その中、左翼無産運動關係の主なる人々の論文の内容は次の如くである。

「宗教と社會運動」

赤松 克 啓

社會主義と宗教意識とは絶對に矛盾しない。人生觀として永遠の生命を思慕し絶對的歸依の情懷を抱くことは精神的私事であつて、社會運動が干渉する限りではない。社會主義の領域は政治經濟である。政治經濟に關しては明確なイデオロギイを把持するものは宗教家と雖も社會運動に合流すべきである。宗教家は社會主義を理解する必要がある。

「マルキシズムと宗教」

河野 密

宗教批判は宗教からの人間の解放を意味するものではない。人間の解放は宗教意識を生むに至つた現實世界との闘争を通じてのみ可能である。マルキシズムの「宗教批判」は明瞭であるが、マルキシズム政黨は宗教を「私事」となし、反宗

教の立場を明示してはゐない。宗教が宗教の範圍をまもる限り、政黨はこの立場をとるであらう。

「宗教の阿片性について」

高津 正道

宗教家は二三の理由により無産者運動の「闘争」を非難し、忌避するものもある、これは指誤りである。彼等はブルジョア側の闘争と流血とを閉却して、プロレタリアの闘争のみを攻めやうとする。宗教が民衆の解放運動に毒藥を流してゐる現實に出逢へば、無産運動家はそれを問題とするに躊躇しない。それは既成教團の罪で、眞の宗教の關せざるところである。それは主張するならば、その眞の宗教家は宜しく既成宗教團體打倒の運動を起すべきである。

「フーバーリン唯物史觀」批判

ルダス、マルティノフ、著

昭和五年十月十五日  
白梅社發行

本書に收めた四人の著者の論文は、フーバーリンの『史的唯物論の理論』の基礎的方面に於ける誤謬を批判的對象としたものである。フーバーリンの理論的誤謬の根源がマルクス主義方法論即ち辯證法的方法に對する理解の不充分なる點に在る事を、これらの論文が等しく詳細に指摘して居り、從つてこの批判的論争が唯物辯證法的發展確立のために多くの論據を供してゐる。附録としてフーバーリンの『轉形期經濟學』に

對するレーニンの評註の紹介文が加へられてゐる。

ツァルガ著 **世界經濟年報** 第十輯

一九三〇年第二期  
昭和五年十月十六日  
文閣發行

一九三〇年第二期(四月十九日から七月十七日まで)に於ける歐米諸國の經濟及び經濟政策、特に本輯は國際經濟恐慌を中心として叙述する。第一部「恐慌の擴大と深刻化」に於ては、資本主義の一般的危機、合衆國に於ける恐慌の動向及び恐慌循環期、貸付資本の役割、恐慌時の價格形成等、第二部「特殊的部分」に於ては、ドイツ、フランス、イタリヤ、ポーランド、イギリス、アメリカ合衆國、最後に日本の經濟情勢を詳叙する。

津久井龍雄著 **國家社會主義問答**

昭和五年十月十七日  
政治批評社發行

本書に掲ぐる所の二論文中「國家社會主義問答」は、國家社會主義の提唱するところを極めて平易通俗に問答式に解説したるもの、「我等の運動に於ける若干の基礎概念」は、天皇及び國體、國家と國際、戦争、階級及び階級闘争の四項に分類し、國家社會主義運動に必要な基礎概念を闡明したものである。

杉山謙治著 **日本學生思想運動史**

昭和五年十月十八日  
學生運動出版部發行

第一編「深刻化してきた現代學生層に於ける思想問題」に思想關係出版物解題

於ては、最近の社會思想の變遷と頻發する諸種の社會事件について述べ、第二編「學生思想運動乃至無産青年運動略史」に於て學生社會科學運動及び無産青年運動の史的考察をなして居る。

北本達太郎著 **ロシアの胸體**

昭和五年十月十八日  
春秋書院發行

「ロシアの胸體」外十篇の小説及戯曲を収めてゐる。「ロシアの胸體」はロシア革命の前後を舞臺にした小説で、一種のロシア革命歴史小説である。この小説の材料は主としてエ・エル・ウイリアムス『露西亞大革命史』山内封介『露西亞革命史』等からとられてゐる。

案川徳二編 **各無産政黨スローガン集** (禁止)

労働問題研究資料

昭和五年十月二十日  
無産者書房發行

本書は、現在我國に存する各無産政黨、各労働組合等二十五のスローガンを細別して編纂した謄寫版刷假裝幀の冊子である。

十月二十日禁止處分を受く。

本庄陳男著 **資本主義下の小學校** (禁止)

昭和五年十月二十日  
白山社發行

本書は、曾つて教育界に職を奉じてゐた著者が、階級的立

思想関係出版物解題

場から現代資本主義制度下の小學校——教師と児童と教育教授とを批判別扶したもので、内容は、資本主義下の小學校、無産児童教育、低劣児童の問題、少年組織と教育者、童話の問題について、減俸案と教員層等十一篇に分れてゐる。  
十月二十日禁止となる。

渡邊政之輔著 **左翼労働組合の組織と政策** (禁止)

昭和五年十月二十日  
希望閣 發行

本書は、これを「組織篇」と「政策篇」とに分ち左翼労働組合に關する著書の遺稿を収録し、それが日本左翼労働組合運動の發展史に於て占める地位、足跡を明かにする爲に、巻頭に「左翼労働指導者としての同志渡邊政之輔——彼の開導小史——」なる一文を掲げ、本文中各個の資料については、文前に草案の年月日、草案の事情、その文獻の内容、意義について簡単な解説を加へてゐる。

十月二十一日禁止處分を受く。

ジャン・ジョレス著 **佛蘭西大革命史** (第一卷)

昭和五年十月二十日  
平凡社 發行

從來佛蘭西革命が唯物史觀の立場より叙述せられた著述は殆どなかつた。著者が唯物史觀の見地より根本的に佛蘭西革命を見直してその歴史を書き改めたものが本書である。第一

巻はこの有名な著書の最初の部分、憲法制定議會に關する部分のみを譯出したもので、總論、革命の原因、選舉と陳情書革命の騷亂の各章に分れてゐる。

ジョン・デューイ著 **ソヴェート・ロシア印象記**

昭和五年十月廿日  
白山社 發行

アメリカのジョン・デューイ教授の主として教育に關するソヴェート・ロシアの紹介である。著者はロシアへ敵として道入つて行き、卑劣な味方として出て来た。されば彼は本書に於てソヴェート教育に關して熱情的叙述をなし、政治的革命的有つ文化史的意義を明瞭ならしめてゐる。

太宰衛門著 **革命記録** 附日本帝國革命論

昭和五年十月二十日  
青甲社 發行

「革命記録」とは、革命に關する歴史を集めたものである。革命の諸相を概観したる後、佛蘭西革命、露西亞革命、獨逸の革命の歴史を述べ、日本帝國革命論の編に於て、日本に革命の起り得るや否やについて論じ、結局著者は日本には革命は起り得ないと云ふ立場をとつてゐる。

レニン著 **協同組合に就いて**

昭和五年十月廿日  
希望閣 發行

論集のうち、特に主要と思はれるものを集めて譯編したものである。本書は曾つて「協同組合論」として上梓された事があ

るが、今回はその改訂版である。

麻生 久著 **生は闘ひの上にある**

昭和五年十月廿一日  
大風閣 發行

麻生久が労働運動に關係してゐる間に得た幾多の経験、その追憶、或は無産運動に關する論文等を集めたものである。「社會の無産運動に對する見方の變遷」「足尾決戦記」「日立鑛山事件入獄記」「ボルシェツキズムと露西亞の國民性」等がその主なるものである。附録「謎の臺灣」に於ては華人の生活について述べてゐる。

全團大衆黨 大衆黨は如何に戦ふか (禁止)

昭和五年十一月廿一日  
全團大衆黨事業部 發行

無産大衆に全團大衆黨とは如何なるもので、如何に戦ふかを知らせる爲に書かれたもので、黨の綱領・政策等の解説書である。脱く所、過激にわたり、十月二十九日附安禁禁止の處分を受けた。

鈴木靖之著 **農村青年に訴ふ** (禁止)

昭和五年十月二十三日  
白山社 發行

本書の梗概は次の如くである。——農村青年諸君！ 諸君

思想関係出版物解題

は今、諸君を常識づけた一切のこれ迄の教育の恩恵と、諸君の周囲の同情の結果とを断然打捨て、無支配無搾取の自由社會に完全に自由人として生かすべきである。農民組合は墮落した。それは單に政争の具となつて了つた。又ボルシェビキは眞に農民を解放したか？ 否ボルシェビキ革命後は農民を虐殺した事實が明かになつた。

自由への熱烈なる渴望と、正義への執着に燃える青年諸君、諸君は今完全に自由なる諸君自身である。断じて其の行動を躊躇する勿れ！ 我々は諸君と共に「何から始むべきか。」を吟味し、直ちに解放戦線上を急行すべきである。

十月二十一日禁止となる。

レニン著 **ガンヂーの革命運動と宗教**

昭和五年十月二十日  
大風閣 發行

本書の原著者O.P.アンドリュース氏は英國の宣教師であり、大學教授であつて、十五年間ガンヂーの友人として印度の解放と獨立の爲に盡したキリスト教徒である。彼がマハトマ・ガンヂーの高邁なる精神に共鳴して、南阿に於てガンヂーと殉教者の生活の苦惱を傾けた事は、ガンヂーの言説の證據によつて彼の思想を叙述せんとした本書の中にも充分うかがはれる。著者が十五年のガンヂーとの親密な交際から得た知識を背景としてガンヂーの思想を説いた點が、本書の特



思想關係出版物解説

色と云ひ得られるであらう。

プロレタリア プロレタリア講座 4

昭和五年十月廿二日 共生閣發行

第三期とは何か 所謂第三期も現在の客観的状態の全體に對する大衆向きの解説書である。資本主義の第一期、第二期を概観し、第三期の特徴、第三期への過渡期の経済分析、世界恐慌の性質、帝國主義の對立、世界のプロレタリア運動の情勢等について説いてゐる。

河野重弘著 マルクス主義貨幣理論

一ツウエイト・ロシア経済學叢書(3)

昭和五年十月二十三日 共生閣發行

ダレンフスキの「名目論と貨幣價値の問題」(マルクス主義の旗の下に)誌、一九二八年第四號、ボズニヤ・コフの「本來的蓄積について」(マルクス主義の旗の下に)誌、一九二七年第六號、一九二八年第四號)の二論文を譯出したもの。前者は、マルクス主義の立場より、貨幣の價値を否定する所謂名目論を批判せるもの、後者は、プレオブラヂェンスキの「本來的社會主義的蓄積」の理論を批判せるものである。

二六ノ七六

堀田外一著 社會主義入門 (禁止)

昭和五年十月二十五日 紅玉堂發行

既に屢々禁止を見たフーリンの「ABC of Communism」の第一章資本主義的社會秩序、第二章資本主義社會の發展、及び第四章資本主義的發展は如何にしてその崩壊を導くか(帝國主義、戦争、資本主義の崩壊)を要約したものである。十月二十四日禁止処分を受く。

大平 徹著 マルクス經濟學入門

昭和五年十月二十五日 紅玉堂發行

マルクス經濟學全體に對する通俗的解説書である。要するに全部門にわたつてその要點を平易に扱書きにしたものに過ぎない。

「インダナショナル」編輯部 國際プロレタリア婦人運動 (禁止)

昭和五年十月二十五日 旗旗社發行

本書は本年三月八日の國際婦人デーに際して特輯された「インダナショナル」誌の全譯であつて、十三の小論文を集めたもの。皆、婦人と無産運動とを論じてゐる。

十月廿二日安東禁止の処分を受く。

三浦大葛著 生産機關を返上せよ (禁止)

昭和五年十月二十六日 勤王黨創立準備會發行

本書は、「生産機關返上論」(近刊)内容説明用パンフレット

にして、其の説く所は、吾國體の本來性に基いて先づ土地及び工場社等凡ての生産機關を返上し私有財産制を廢止しやうといふのである。先づ宣言を掲げ、その實行方法、返上の効果等を述べ内容目次を列挙する。安東を著するものとして十月二十四日禁止となる。

ワイドブルツフ著 社會主義文化論

昭和五年十月二十八日 同人社發行

著者ワイドブルツフは獨逸社會民主黨の領袖であり、同時にハイデルベルヒ大學助教授である。著者の哲學系統は獨逸西南學派の文化哲學派に屬する。本書は社會主義の文化論であり、哲學的的人生觀上の一つの立場としての社會主義より、文化の諸現象、政治、宗教、法律等を觀たものである。

エフ・フンベルグ共著 合理化と勞働青年の狀態

昭和五年十月二十九日 同人社發行

本書はキーム(K. J. I)即ち國際共產青年同盟の第五回大會に際して書かれた「資本主義諸國に於ける勞働青年の狀態」(Die Lage der Arbeitenden Jugend in den kapitalistischen Ländern von F. Fumberg u. K. Müller)の翻譯である。總計や法規の研究が主であるが、大體一九二三年から一九二七年迄の歐米諸國のプロレタリア青少年に及ぼした經濟的影響の検討であつて、あはせて、世界ブルジョアジー

思想關係出版物解説

及國際勞働局、國際勞働會議、アムステルダム國際勞働組合同盟、國際社會主義青年同盟、その他社會民主主義者等のプロレタリア青少年に對する政策の正體を曝露したものである。

今中次廣著 現代獨裁政治論 (上)

昭和五年十月三十日 文明協會發行

第一章では、獨裁政治の概念を古代ローマ共和政治下に於ける獨裁官其他の例を引用して究明し、次に近世紀の獨裁政治についてクロムエル、ジャニバン等々の實例を掲げて考究する。第二章は、プロレタリア、ブルジョアデーの獨裁政治理論、第三章は、現代ブルジョアデーの獨裁と題し、最初に君主國の實例を列べ、次に共和國の實例を舉示して、最後に共和國の獨裁政治が結局君主政治に轉化するに至つた事情を敘述する。

小林五郎著 赤旗勝つか?

昭和五年十月三十日 一元社發行

過去七年間著者が新聞記者として我が國無産階級運動の實踐場裡に接した経験に基いて、プロレタリア運動を批判したもの、最初同感を感じた著者は、後には無産階級運動の實踐に幻滅を感じた。そしてその本體を究めんとした。そうした立場に立つて本書は書かれてゐる。されば合法、非合法の兩

二六ノ七七

派の無産運動に對して共に否定的な意見を述べ、労働者の、實際的な福利増進、生活上の如きは、彼等によつて落末も顧みられてゐない。労働者は何處へ持つて行かれようとするのか？何人が反省の暇を呑んでゐるのか。日本労働運動、或は無産階級運動の指導原理は今こそ新たに建て直さるべき秋ではないか？」と結論する。

文明協會ニュース（第十輯）

昭和五年十月三十日  
文明協會發行

ボリス・エ・スクヴィルスキーの「ソヴィエツ・ロシアの業權概観（カーレント・ヒストリー誌七月號に寄せた論文）」「日本の問題」（ラウンド・テーブル誌六月號）、ハロルド・エス・クキツグレイの「今日の日本」（カーレント・ヒストリー誌八月號）、グレイ・アウイング・バアチの「歐洲に於ける産兒制限の傾向」（カーレント・ヒストリー誌八月號）他八篇の論文を登載する。

主要新聞雜誌通信記事一覽

本欄には、十月發行の主要雜誌中政治、法律、經濟、社會問題、社會思想及社會運動に関する論文、左翼文藝作品並に左翼新聞、通信の重要記事を摘録する。

雜誌

論文題目	筆者又は譯者名	雜誌名
日支外交秘話	駒井徳三	中央公論
樞密院の人々	馬場恒吾	改造
樞密院の政治的地位に就て	津久井龍雄	改造
朝鮮地方制度改正案に就て	清宮四郎	法律時報
土地問題と小作法制定の政治的意義	青木憲一	同
現代の關稅政策	平野常治	軍事警察雜誌
郊外地理發展の積極的方策	伊部貞吉	都市問題
英國の地方行政	吉井喜寬	自治研究
蔣介石の統一事業概観	早川專一	國際知識
英帝國會議と英國政局	高田元三郎	外交時報
倫敦條約反對論の批判	神川彦松	同
倫敦會議に於ける國際上の問題	榎本重治	同

主要新聞雜誌通信記事一覽

滿洲鐵道問題管見	大山卯次郎	支那
労働階級の財政政策	東亞經濟調査局	經濟資料
國防補充計畫と減稅問題	峰三郎	政治經濟時論
法律	齊藤常三郎	法學協會雜誌
和議の濫用と其防止(一)	大岡健一郎	法學論叢
手形裏書の史的概観(二、完)	齊藤武生	同
國際私法上に於ける法の時的衝突問題(一)	同	同
特別に所謂衝突規則の適及性に於いて	同	同
英國證據法に於ける證人制度の發展	宮本英雄	同
小作争議と民事裁判	米村正一	法律時報
小作争議と刑事裁判	三輪壽壯	同
不當小作料の制限	澤村康	同
群衆犯罪の考察	金子準三	警察新報
組織關係規範と私法本質論	中島重	法學新報
訴訟上の懈怠(一)	江口新	法學新報
訴訟行為と裁判官の評價	江口新	法制時報
犯罪と其他の違法行為との間に實行的差異ありや	尾後賢	同
我國川版法の沿革	土屋正三	警察研究
M.O.法(又は Modus Operandi)の意義に就て(手口による捜査法)	相川勝六	同
イギリスの特別警察官	清水重夫	警察協會雜誌
經濟及社會問題	同	同

主要新聞雑誌通信記事一覽

Table with 4 columns: Title, Author, Journal, and Category. Includes entries like 'マルクス労働価値説の擁護' by 梶田民藏, '獨占階級に於ける國家企業' by 小島精一, and '本邦に於ける消費組合の展望' by 高木次郎.

二六ノ八〇

Table with 4 columns: Title, Author, Journal, and Category. Includes entries like '生命保険業と證券投資会社' by 石川文吾, '近世初期の對植民地政策に就て' by 伊藤秀一, and '農業恐慌と農村闘争' by 秋田保造.

Table with 4 columns: Title, Author, Journal, and Category. Includes entries like '奢侈と資本主義' by 宮田喜代藏, '解消運動と労働黨の將來' by 北澤新次郎, and 'ヴァルガの日本不景氣觀' by 田中九一.

Table with 4 columns: Title, Author, Journal, and Category. Includes entries like '社會的自山の一範疇としての大專' by 井口孝親, '所謂「學生思想問題」の歴史的考察' by 長谷川 浩次郎, and '政治論に於ける自山主義の虚構と' by 木村哲夫.

二六ノ八一

主要新聞雑誌通信記事一覽

支那革命と日本帝國主義	佐野 毅	同
五箇年計画と對外關係	茂 森 唯 士	同
プロレタリア教育の本質	山 下 徳 治	同
ドイツ革命的昂揚	レ ン メ ル	同
農村の危機に際して貧農の闘争を 強化せよ	農 民 闘 争	同
全農第二回中央委員会及び青年代 表會議の成果	同	同
奥野田争議と全農青年部の闘争	同	同
沖繩労働の闘争	同	同
物質は消滅した	ル ガ ス	同
ソヴェート同盟に於ける農業革命 デイカンスキー	同	同
レーニンの哲學研究について	ア ド ラ ツ キ	同
マルクス主義の戀愛と結婚	リ ヤ ザ ー ノ フ	同
ヘーゲルの論理學の梗概	デ ボ ー リ ン	同
世界經濟恐慌と教育失業	同	同
ブルジョア教育の非現實性	同	同
職業指導運動批判	同	同
ビオネーロの旗の下に	同	同
教育は如何に生活してゐるか	同	同
労働黨の自衛自衛	同	同
「労働黨消滅論」の日和見主義的正 解	同	同
「労働黨消滅論」は労働黨を消滅し得る や?	同	同

二六ノ八二

労働黨更生の唯一の道	河 合 賞	同
單一無産政黨に關する蘆戸辰男 の見解を駁す	木 村 賢 二	同
「農村恐慌」の一般的状态	鈴 木 茂 三 郎	同
日本無産階級の戰略論史	青 山 研 眞	同
サン・シモンとコントとの關係	淺 野 研 眞	同
古代の唯物論と辯證法	杉 山 榮 之	同
櫻木太子の文化事業に就て	山 田 吉 彦 郎	同
論理以前の心(レグイ・ブルネル)	山 田 吉 彦 郎	同
理解社會學の若干の範圍に就いて	山 田 吉 彦 郎	同
我等の態度を明らかにす	坂 田 太 郎 郎	同
無政府主義と婦人問題	加 藤 一 夫	同
強權と農村問題	高 群 逸 枝	同
労働運動に對する警告	松 原 一 夫	同
非上級相は何を我々に教へたか	天 沼 富 男	同
無政府主義者の態度	マ ラ テ ス タ	同
マルクス主義藝術の藝術大衆化問 題に對する突撃	土 村 泰 夫	同
新しき革命階級の出現	松 村 正 俊	同
マルクス主義批判の後に第一歩を	伊 藤 部 隆 輝	同
新指導概念としてのルンペン・プ ロレタリア・イデオロギ	川 内 雄 彦	同
レーニンの解黨派批判	野 山 貞 夫	同
労働黨の解黨運動とその意義	同	同

國際的批判と鋭い自己批判	射 水 洋 一 路	同
帝國主義ブルジョア、資本 家地主のブルジョア	山 口 徳 夫	同
租税と農民	宮 田 安 郎	同
國際農業恐慌の語	近 田 久	同
我プロレタリア音楽運動の任務	守 田 正 義	同
××主義美術確立のために	近 藤 須 多 二	同
プロレタリア映画に對する野蠻批 評	布 施 辰 治	同
三信争議大規模批判	布 施 辰 治	同
演劇に於ける法規の解説とその批 評	永 井 直 治	同
封建的生産關係に對する主權に就 て(完)	永 井 直 治	同
フランス及ロシアに於ける革命の 諸經驗	内 海 省 三	同
ロシア社會民主労働黨の歴史(六) 何を爲すべきか?	レ ー ニ ン	同
マルクス主義の主要著作に就て	織 田 二 郎	同
共産主義社會への展望	同	同
「労働者から見たソヴェート」 聯邦の發展(完)	河 上 肇	同
社會主義的建設の加速度物與とソ ヴェート聯邦の國內狀態	ス タ ー リ ン	同
港灣職線を擴大せよ	田 口 源 記	同
主要新聞雑誌通信記事一覽	同	同

鳴戸九事件の意義	行 政 長 蔵	同
農村恐慌の諸片	同	同
左翼陣營の解黨運動と混亂	同	同
英國労働組合運動の新傾向に就て	同	同
日本労働組合發達史	坂 本 孝 三 郎	同
解黨運動に對する労働黨の主張	大 山 郁 夫	同
獨逸總選挙の結果	米 津 滿 亮	同
海事協同會の職業紹介について	同	同
文藝作品	同	同
邪黨	岩 藤 雪 雄	同
卑怯者去らば去れ	中 本 太 子	同
奴隷市場	堀 田 昇 一	同
革命裁判	鹿 地 亘	同
町工場	菅 野 好 也	同
工場管理	今 野 賢 三	同
バルナツク艦隊	伊 藤 貞 助	同
嵐に抗して	木 村 良 夫	同
機械	堀 田 昇 一	同
不在地主	小 林 多 喜 二	同
	小 野 宮 吉 靖	同
	二六ノ八三	同











る。だが労働闘争同盟の維持・確立、発展のために活動することは、吾々の一日もゆるがせにしえざる問題であり、しかも斯かる同盟の確立のための運動は、現在のところ暫く労働政策といふ變則的な組織形態を採つて進むより外により善き方法はない。

労働政策が發展的に解消さるべきであると云ふ意味は、本格的な労働同盟に發展することによつて政黨たる性質を解除すべしと云ふ意味である。

労働政策は労働同盟としての領域内に於ける政治的指導の任務を取るにすぎないが、しかしこの領域における斯かる任務も、前衛黨の確立につれて解除されるのであり、解除されねばならぬのである。かくて労働政策は、前衛黨の確立につれて、政黨としての存在を解消する。

しからば労働同盟同盟としての實體はどうなるか。労働同盟同盟の實體は、労働組合、および農民組合に組織されてゐる。労働政策が政黨としての自己を解消したからと云つて、この基礎的組織が破壊されるのでなく、これら諸組織の同盟のために必要な機關が破壊されるのではない。かくて労働同盟同盟は、前衛黨の指導のもとに、その本格的な組織を確立することになる。労働政策が自己を辯護法的に止揚することに成功しえなれば、事態はおそらく以上の如く進行するであらう。

もし労働政策が今後幸ひにして健全に發展するならば、そこには労働政策の解消と擴大とが並び行はれるかに見えるであらう。

一は政黨としての労働政策の解消である。このことは恐らく徐々に行はれるであらうが、その際注意すべきことは、労働政策としては、次第に解消されつゝあるにも拘らず、労働政策といふ看板は最後の瞬間まで元のまゝ掲げられてゐる。だから労働政策の看板が元のまゝに掲げられてゐる限り、その看板で包まれてゐる内容は絶えず變化してゐるにしても、それは外形的には労働政策の擴大として現象するであらう。しかしそれは、實際には政黨としての労働政策の擴大ではなく、労働政策の名のもとにおける、労働同盟同盟の實體の擴大である。

吾々は以上の如き意味においての發展的解消論者である。しかるに大阪の諸君の解消論は機械的な破壊論の解消論である。私はこの際昨日まで自分たちの企て、來た事業を直ちに破壊するの行動に出づる能はざるは勿論獨り靜に同志と分かち合つて陳腐を退くことすら、一つの階級的犯罪と考へてゐる。

現在農村は何處へ行く

高橋 龜吉

現下の農村窮乏は、かつての自給自足時代に於ける飢饉の惨狀に劣らない。なる程收穫の量は普通一又はそれ以上に

在る。だが農産物價の暴落のために、農民の受取る代金は前年の二分の一又は三分の一以下だ。

然るに支出すべき金は、前年と全く變らないものが多く、多少減じたものと雖も、農産物價の下落に比せば、その何割に過ぎぬ。

今日の農村窮乏は、資本主義的な農村飢饉そのものだといふことに、何處に異議を挟むところがあらうか。粒々辛苦して働いた農民の手に残るものは、喰込と借金の増大だけである。

此際借金で此の難局を乗り越し得れば未だよい。ところが大多数の農民は已に過去の窮乏で背負ひ切れぬ程の借金を荷つてゐる。それが、今度の資本主義的農業飢饉のために、利子すら拂ふ餘裕がなくなつたのだ。

かかる窮乏の秋に於て、萬一にも、租税公租、地代、借金等を期限通りに取立てられんか、農民は、次の農業活動に必要な、種子代、肥料代、及び家族の食料代迄も失ふことになる。云ふ迄もなく、かくては、我農村は愈々急テンポの荒廢だ。こゝに於て、いま、我が農村對策として最も肝要なことは、先づ緊急處置として、今日の資本主義的飢饉に山り破産状態に陥れる農民に應急的救済施設をなすと共に、根本策として、農業生産を今日の農産物價にても引合ふ點にまで低下せしめる手段を、急速に實行せねばならぬ。乃至は又農産物價

の方を、今日の生産費で引合ふ點にまで引上げるか、又は兩者双方から歩み寄らすかして兎に角、農産物價と其の生産費との均衡を急速に回復せしめねばならぬ。

加ふるに農村は、資本主義的行詰の恐慌のために、從來の如く、その過剰努力を都市に流出して消化することも、農閑期努力を賃労働に利用することも不可能になつたのみならず、歸農の名に於て、都市の失業者までも應酬め式に收容せしめられつゝある。斯様に土地過少、努力過剰、仕事不足のために農村の窮乏は加速度化されてゐる。現下の農村窮乏を打破するためには、之に對しても、効果的な應急的施設と根本的施設とを實行せねばならぬ。

獨占段階に於ける國家企業

小島 精一

現段階に於いては、勞賃は、一部就業労働者の勞賃の數字が如何様であらうとも、例へばフォード工場の労働者が數字の上で一日何那の勞賃を得やうとも、その生産せるものに對し幾何の分け前を得るかといふ意味に於いて、著しく低落して居り且つなほ低落せんとしてゐる。そしてそれは實に勞働力の價値だけでなく、その最低限界をすら下廻らんとし

てゐる。吾々がこの現段階に於ける就業労働者の賃金の著しき低落を一方に於いて観ると共に、他方に於いてわずかに資本家と國家との投げ與へるパン屑で其日々を送る膨大な失業群の存在を観る時に、吾々はそれだけで既に、この資本家的生産方法が最早その凡ゆる進歩的側面を失つて了つたことを發見せざるを得ないであらう。労働の問題は結局労働者階級の問題である。

さればまたかゝる賃賃に關する諸傾向は、労働者階級の左翼的發展を必然ならしめざるによつて新時代の幕を擧げずにはおかれであらう。

中央公論 本邦に消費組合の展望 高木次郎

一九三〇年世界經濟恐慌の前に改良主義的協同組合理論はブルジョア經濟學と共に破産した。失業者の闘争と結びついてプロレタリアの闘争は益々擴大擴大するであらう。日本の社會民主主義の社會的物質的根據は動搖し失はれつゝある。消費組合に於ける左翼はその設定並に經營の具體的技術の實踐を通してのみ左翼理論の具體的宣傳を爲し得、同時に革命的労働組合農民組合の擴大強化の爲に働かざるを得ない。

中央公論 労働第一主義と解消主義 山川均

解消派は、政治上の組織においても經濟上の組織においても

も、意識の水準の低い大衆と決定的に袂を分たうとする。この點でも、解消派は舊労働組合評議會の後半期に於ける極左主義を再生するばかりでなく、大正年代の無政府主義者の實踐に復歸しようとするものに外ならぬ。舊労働組合その他のエセ無産黨との合同は、輝ける労働者の闘争を社會民主主義の闘争にまで引き下げるものだとはいふことは、舊労働組合を指導した當年の「前衛」分子の理論であつた。解消派はこの輝ける傳統を繼承して、さらに幾分か、これを發展せしめたものだとはいふことが出来る。

中央公論 労働第一主義への巨歩 小岩井洋

解消派は分裂主義だと支持派は非難する。分裂主義者は労働第一主義ではないか。解消派は非難する。非難するが敢て北主義だ日和見主義ださては闘争の激化をおそれたのだ等々がすべて労働第一主義者が天に向つて吐く唾となつてゐる事である。

誤謬は云ふ迄もなく極力避けなければならぬ。夫は階級的罪惡である。だからして誤謬は大衆的に、戰國的に實踐を通じて清算されなければならぬ。我々は労働第一主義の各地の戦闘的労働者農民が大衆の解消決議をトップとして今後猛烈なる解消闘争を、工場から農村から巻きおこすにちがいない事を確信する。のみならずそれ

は全國大衆黨、社會民主黨のグラブの合法無産政黨をもやがて焼きつくす炬火となる事であらう。

改選 經濟危機の成熟 猪俣津南雄

現在の解消恐慌は、當時において吾々が論定したやうに、金輸出禁止インフレーション政策の下に擴大再生産されて、異常に擴大された諸矛盾を暴力的に解決せんとするものであり、且つ解消による正貨流出といふ異常なモメントの作用があり、しかも相對的安定化の時期を終つて、「第三期」に導入した没落資本主義を襲ふところの世界經濟恐慌と合流する。解消恐慌の暴力作用は、人工的につくり出されてゐた市場を、現實の消費力、購買力にまで收縮せしめ、且つ不自然に膨脹した生産及び生産設備をも、その水準にまで切下げやうとする。この作用は、先づ、急テンポの物價下落を通じて起つた。

(一)急激な物價下落 (二)解禁による急激な金流出 (三)世界恐慌及び支那印度動亂による海外市場の崩壊 (四)この三つの主要モメントの作用は、日本資本主義の流通、生産、信用の各面にわたる全般的な急收縮を押し進めた。かゝる過程は、それ自身すでに經濟危機の過程でなければならぬ。だがさうした急收縮と、そこに生ずる矛盾の尖鋭化は、經濟の諸面に、一樣に同時的に生じはしない。

物價の下落や株價の下落には曲折があり、金流出には中断が生じた。が、それにも拘らずかの四、五月頃に徴候として端緒的に金融部門に現はれてきたところのデフレーションの諸矛盾は、その後加速度的に激化した。

改選 フーヴァーとアメリカ恐慌 阿部勇

フーヴァー政策の破綻はフーヴァー個人の無能力による破綻であらうか？モロウによるモルガンの獨裁制が来るべき合衆國の政治形態となることは極めて可能性に富む様である。しかしモルガンの獨裁制がこの資本主義の破綻を救ひ永久の繁榮を確立し得ると考へるものは金融資本家乃至利子依食者の握はれた見解である。社會化せられた生産力と交換形態との間の矛盾こそは基本的な解決を求めて已まぬものであり、この解決こそは金融資本家の對立的な性質を持つ。フーヴァーの對策とそれは金融資本家達の對策の本質が何處にあり、彼等の意志に依存せざる、必然的な資本主義的商品生産諸關係を組織化せんとする努力の効果が、結局何處に結果するかを示すものである。我々はこゝにフーヴァーの恐慌對策の歴史的意義を見る。

敗北主義者の解消論

大阪に於ける労働黨解消運動の接頭およびその行方

大 山 郁 夫

我々はあくまで、當面の客觀的狀勢の下に於て、わが労働黨の確乎たる存在の絶對的に必要なことを確信するものである。そのためにこそ我々は、わが黨の組織に缺陷がある限り躊躇なくそれを改革し、わが黨が無効である限り容赦なくその原因を除去することが、全黨員に課せられた不可避的任務であることを主張する。解黨派の諸君は自ら黨の内部にのみならず、毫もさうした努力を試みようとする。いきなり黨の無條件的即時解黨を要求したのだ。職團的労働者農民大衆が積年の悲觀苦悶の末に蓄積した左翼的エネルギーを徹底的に無意味に浪費しつくさうとしてゐるものでなくてはならぬ。

解黨派の諸君は更に全協刷新派や共產黨の「背教者」たる解黨派の出現までをも労働黨の無力の證左だと言つてゐる。彼等はかくして支配階級の分裂政策の成果をもわが労働黨の責任に歸せしめようとしてゐると同時に、更に切實すれば彼等の言動そのものが、彼等の意識するところと拘らず同様に支配階級の分裂政策に基因するものであることを自證してゐるものである。

我々は断々乎として「小ブルジョアの敗北主義」の産物以

外の何物でもない當面の解消論を脚下に蹴散らして進み、更らにこの際わが労働黨の旗を高揚して、労働組合、農民組合の擴大強化、全被壓迫民衆の日常利益の伸張、無産階級職線の統一、全被壓迫民衆の政治的自由獲得の爲第一層積極的闘争をなすことを誓ふ。

労働黨解消すべし

網 追 栄 光

労働黨は、職團的労働者農民をして、體驗を以て、労働黨その他一切の尤もらしいマガヒ物が結局は反動であること、シミン、自覺する機会を與へたこと以外には、何等の階級的貢獻をなし得なかつた。否むしろ逆だけしか行はれなかつた。かゝる反動的なマガヒ物は出来るだけ速かに消えて無きものにせねばならぬ。

労働者、農民の極權を即時取り除けよ。大衆を成長するだけ成長せしめよ。黨内の批判は自由であり、解黨運動は自由統一を主張する。

所謂「學生思想問題」の歴史的考察

近代國家としての日本の教育觀念の變遷  
長谷川 萬次郎

日本の國家が學生の思想を問題とするに至つたのは、國家自體が一定の組織——近代國家の組織即ち資本主義的國家組織——を完成せしめるための意識目的を自覺し出した時からの事であつた。明治初年以來十年代に至る迄の教育制度には觀念の特殊の形態を要求する主旨方法等をもたなかつた。近代行動的發展を第一義とせねばならぬ時代の教育制度としては經濟社會の成立に應ずる行動組織を教育の第一義とした事は當然であつた。

明治二十年以後の我が國家觀念の成立時代歴史家の所謂國家的自覺の時代又は國家勃興の時代といふのは、即ち、我國の近代國家的發展の過程、夫は最近の帝國主義的歴史過程の歴史をなす植民地分け取り時代を意味するのである。日本の教育制度が、この國家勃興の時代に於て、先づ近代行動的發展を第一義とした初期の性質を變じて、先づ「觀念」を第一とすることとなつたのは、當時の國家的情勢に伴つた現象であつた。

然し明治二十年以後の教育の實際は、國家がまだそれほど判然とした近代形態を備ふるに至らなかつたので、寧ろ資本主義初期の自由放任主義の惰力をもつて進行してゐた。然しそうした資本主義初期に於ける教育の狀勢を全然逆轉させたものはその後における資本主義社會の封建化であつた。ここでは一方で教育組織大自體の行詰まりとなると同時に、

主要雜誌思想關係論文要旨

他方で、教育の觀念内容を全く近代社會のそれから引離して中世的強制組織に還元せしめ、各種の社會集團の自由な競合は禁斷され、嚴重な國家的統制が教育の思想及び實際を全く劃一的ならしめるに至つた。

政治論に於ける自由主義の虚構と反動

今中氏の所論を駁す  
大 村 哲 夫

今中氏によれば、前期資本主義時代に於ける英、米、佛は民主的共和制なるが故に平和的に移推すると、マルクス・エングルスが主張した事になり、而も氏によれば強力的方法と平和的方法とが原則的な二つの方法として排他的に對立してゐるが故に、氏の定式は論理的に次の如く歸結されざるを得ない。——民主的共和制の國家に於ては移推は平和的にのみ行はれざるを得ない、と。

之は全然カウツキーの立論ではないか？ 完全なるカウツキーとの一致、これが今中氏の理論の前提であり、本質である。

農業恐慌と農村闘争

農村では中農的要素すらプロレタリアートの味方とする條件が具つてゐる。だが都市プロレタリアートの階級的自覺と成長とは尙ほ充分ではない。つかむべき一環はかくて農村に

なく、反つて都市にある。そしてこの任務が果たされぬ限り農業恐慌は反つて貧農中農をして地主や富農の影響下に走らしめ、「自給自足經營に移ること」「電燈は各戸十燭一燈とすること」等反動的退嬰的運動に走らしむる危険要素となる。

批判 社會的自由の一範疇としての大學の自由

十月號 『乞食』から大學の自由まで (完)

井口孝親

大學の自由に関する問題は、一つの社會的必然としての、制度的大學の性質を明らかにすることによつて、即ち換言すれば、大學の國家に對する依存關係の自然史的、社會學的考察によつてのみ、正當に理解し得る。ヨーロッパの中期に於いて眞理が——特に自然科学的の——常に教權との交戦にあつたと同じく、近代にあつては眞理は——特に社會科學的の——非常にしばしば、國權との交戦状態に自己を見出してゐる。近代における社會科學抑壓の眞の意義を把握せんが爲には、その必須條件として、今日の資本主義的國家そのもの、科學的解明が要求せられる。この矛盾即ち眞理と、教權乃至國權との交戦は中世教會の絶對的普遍性、及び近代國家の超階級性を信仰する學說の手によつては永久に解決され得ない。

吾々は、この矛盾を一つの自然的社會的必然と見る立場に立つ。この立場から、大學の自由に関する非乞食説(大學頌落論)乞食説(大學頌落論)の論争を眺めれば、前者の「大學は自由だ」と云ふ主張は結局「大學は自由だ」と信する或は「感じる」といふ事であり、また後者の「大學は不自由だ」といふ主張は同じく「自分は大學は不自由だと信する或は感じる」といふことに歸着する。だから一切は「彼が如何に信じまた感じるか」によつて決定される。無論吾々として或る國或る時代の大學が他の國他の時代に於けるよりもより多く或はより少く研究及び教授の自由を享受し又しつゝある事實は認めざるが、夫は單に大學の自由の分量に関する問題で、此處に論じてゐる大學の自由の本質の問題ではない。

ト政權を擴大強化せしめつゝある。無産階級農民は、共產黨の指導の下に、異常なる力を以つて闘争を發展せしめ支那大革命の第二の波は迅速に昂揚しつゝあり、世界經濟恐慌の裡にその完成を實現せんとしつゝある。

我觀、ロシアに於ける宗教

十月號 伊藤道徳

ロシアの政府は、嚴格に教會の宗教的活動と、教會の社會的機構及び目的との間に判然たる區別を立てゝゐる。此の區別は全ソヴィエツト政府の一つの論理的結果である。何となれば、教會の社會的活動に對するソヴィエツト政府の反對は、個人的宗教は、彼等が建設せんと試みつゝある社會を破壊せんとする、政治的、教育的、及び經濟的行動に對する一つの假面に過ぎないと云ふソヴィエツト政府の確信を増すのみであるからだ。

我觀、ソ連邦の教育の變革と其成果

十月號 伊藤道徳

「九二九年」に於て、過渡的ロシアに於ける教育的活動の重要性を強調して曰く「窮極の民衆のイデオロギーは共產主義的制度によつて決定される外はない。然しながら所謂共產主義社會の建設を見るまでは、是等の制度を導入せんとする共產主義者の努力は一つの新しい心的傾向即ち一つの新しい心理的態度を創造する能力の如何に依存する。而して明かにこ

の後者の問題は本質的には教育の問題である。この問題はロシアの生活の現段階に於て、教育的活動が異常なる重要性を有することを説明する」と。

我觀、第三期と支那の最近情勢

十月號 田中忠夫

支那を中心とする帝國主義的對立は、最近にいたつて明白に第三期の特徴を露呈し、その矛盾は集中集積され、その爆發は日々迫りつゝある。かゝる時期に際して、豪紳資産階級並に封建軍閥の統治は完全に崩壊しつゝあり帝國主義、資產階級の搾取は、改良主義の餘地を止めず、白色恐怖、ファシスト化の外なく、産業危機は労働大衆をして、革命化し、經濟闘争を政治闘争化し、闘争を直接武装暴動化せしめつゝある。農業危機は、農民革命と赤衛軍を發展せしめ、ソヴェ

法非泰秋、ウアルガの日本不景氣觀

十月號 田中九一

日本資本主義は特殊の矛盾を包蔵してゐる。日本は支那及び滿洲では資本輸出國として現はれ、積極的に帝國主義的政策を遂行してゐるが他方に於いては外國資本を容れアメリカの勢力を重要産業部門に侵入せしめざるを得ぬ。而も日本は同時にアメリカに對する戦争の準備をしてゐる。次にウアルガは資本家の労働者に對する攻勢、就中紡績業と製糸業に於けるそれを述べた後に、日本の不景氣觀を次の

言葉で結んでゐる。  
要するに、國際的經濟恐慌は日本をひどく襲つた。而して日本資本主義の構成上の弱點のために恐慌は非常に永びくであらう。

法律春秋 解消運動と労働黨の將來 北澤新太郎

今回の解消運動はその動機に於ては、一應尤な點もないではないが、その理論的根據は極めて不合理な點がある。一體解消派の人々は若し彼等の主張に忠實であるならば、合法労働黨を組織する際に此の點を力説して政黨組織に参加しないのが妥當である。又政黨組織が組合運動の強化を阻害するものであるとの論據は薄弱である。

尤も吾人は斯くの如き無産政黨に依つて労働者農民の階級的解放が達成されるとは夢にも思はない。無産階級の解放は其の經濟闘争機干である労働組合並に農民組合の闘争的活動に主力を置くべきであり、又之に依つてのみ無産階級の實勢力が強化されるものである。故に吾人は近時無産階級運動に従事する人々か稍もすると政治闘争に没頭し經濟闘争を等閑視する傾向を不満に思つて居つた。けれども無産階級の解放はその全面的展開を政治方面にも及ぼし、全般的利益を無産政黨を通じて獲得する事は、階級其れ自身の解放に極めて必要なる事である。

だから労働黨が尖鋭的な階級的旗幟を鮮明にして、政治闘争を擴大する事は肯定出来る。又社會的に見ても幾多の苦闘を突破して折角組成した左翼の政治的團體が二年も経ない中に内訌を生じ、分裂するに於ては眞實なる無産大衆は信頼する何ものをも持たぬ事になつて大衆の階級意識の發達に一大阻止を見るのではあるまいか。

法律春秋 憲法と資本主義 宮田喜代次

國民所得の分配が今日のやうに不平等である限り、この少數の巨大な所得の分配に與かる富豪の奢侈なくしては、今日の經濟制度は支持され得ぬ。即ち今日の如く資本所有の分配が少數の大資本家の手に集中してゐる限り、もつとも不合理なる消費奢侈があつて、はじめて資本主義の存在が維持されると云へる。

法律春秋 天皇の科學的研究(二) 川見岸雄

天皇認識は神祕的より意識的理解に變化して來たが、その程度は淺薄である。  
以下天皇認識の混沌たる傾向の發生に就き簡単に検討する。

1、一般知識就中歴史研究の進歩

教育制度の確立と教育機干の普及、就中歴史の科學的研究の進歩と其學說の普及は皇室に對しても昔日の無條件信仰のみを維持し得なくなつた。

2、民主思想の勃興

民主思想の勃興により天皇に對する古來の認識が變化して來た。現實的に最も注意すべきものは資本主義制度の愚理解乃至利用に基く天皇の變化動搖である。

3、研究の進歩を要す

従來の天皇論は認識不足であり階級的にゆがめられてゐる。

4、マルキスト等の反省

彼等も天皇に對しては從來全く非科學的な獨斷論しか持つてゐない。

5、天皇の科學的研究は刻下日本思想の急務

1、科學の意味

客觀的實在及び運動に就て不斷により正確な意識を獲得しようとする學問だ。

2、天皇の科學的研究を不敬だと思ふ者に論ず

吾々の天皇の科學的研究は、帝國憲法の  
天皇ハ神聖ニシテ使スヘカラス

の一句が含む國體事實を徹底的に理解しようとするものだ。

3、科學的研究と安東秩序

安東秩序に絶對な寄與をするも其反對の結果なき見極めのもとに發表するものだ。

4、天皇の科學的研究は既に國法學者が一部の開拓してゐる

此部分的研究を廣範圍に押し進めるものだ。

5、信仰と科學的研究

吾々は、天皇の科學的研究の確立により天皇に對する絶對的な信仰を樹立するものである。

組織 大學企業の恐慌

十月號 早坂二郎

大學の顛落が幾度か叫ばれた。しかも、その顛落傾向がますます「慌しい速度をもつて、我々の視野に轉々しつゝある。

大學の顛落、それは象牙の塔から黄金の塔への推移なのである。象牙が貨幣に換算されて行く道筋なのだ。

凡そ、大學の生命は、常に文化の冷靜なる批判性にある。ひたぶるに眞理を追求する欲求性にある。だが、その批判性も欲求性もすべては資本の君臨に一掃され、大學は支配階級の武器となり、企業有力なる一環を形成したのであつた。

批判者が批判され出した。まさに主客の轉倒である。いつの世にも、「だが、地球は動く」の眞理に立つ聲は、民衆の中から起る。企業化された大學の恐慌は、すべて學生自身と社

會の批判的精神から發する。

そして今正にその時代が来つゝあるのだ。

十月號 獨逸に於ける國粹社會主義運動の勃興

佐々木 嘉三郎

茲に獨逸に於ける國粹社會主義運動といふのは「國粹社會主義」をかざして、戦後の獨逸に新たに現はれて来た「國粹社會主義獨逸労働者黨」の運動を意味する。

戦後の獨逸に於いて最も注目すべき現象は、一方に於ける新らたなる共產主義運動の發生と、他方に於けるこの國粹社會運動の發生とであつて後者の發生は何人も豫想し得なかつたが、今や獨逸に於て共產主義と最も激しく對立する一團となつた。

この獨逸に於ける國粹社會主義運動の發生同黨の出現は一九二〇年二月二十五日ミュンヘンの元宮廷禮堂地祝賀祭に於けるアドルフ・ヒトラー同黨首領の演説に始まつてゐる。

ヒトラー及び其一黨の今日の獨逸國粹社會主義運動は單なる社會主義國家主義運動ではなく、彼等は「獨逸共和國」に反對し獨逸帝政の復活を主張し「獨逸帝國」の再建夫も「獨逸社會主義帝國」の再建を企圖し生産機干の國有生産及分配の國營を主張する。が彼等にあつては「社會主義は目的の爲の手段」であつて即ち夫は獨逸帝國を再建し獨逸國民を現状

國內的並に國際的な——から救はんが爲の手段に外ならない。尙同黨を支持構成してゐるものは第一に中位及それ以下の市民階級次に中小農民階級、使用人階級及び同黨運動を陰に陽に支持する下層官吏がある。尙同黨は今や労働者の獲得に全力を盡しつゝある。この國粹社會黨は現在の獨逸の事情の下に於いて那邊まで發展して行くかは未知數であるが昨年から今年にかけて著しい勃興振りを示し昨年末の各地自治體選挙の大勝に依つて悠々共產黨を凌いで来たのでやがて「獨逸共和國」にとつて眞の危機が導かれるであらうことは想像に難くない。

十月號 我國左翼政黨の没落

野方 一郎

我國の社會的、經濟的、政治的諸事情は左翼政黨をして成長せしめない。要するに特殊の國情を無視して政黨が發展しないのは理の當然で、發展し得ざるよい見本として労働黨が提供されたのである。労働黨が左にも右にも行けず進退困難に陥つた事は勿論左翼政黨たる事にあつたのだ。背後に共產主義を隠して行動だけは合法主義でカモフラージュし、世間體をつかつて行かうといふのである。随つて議會利用主義政黨に過ぎないのであるから、大衆がついて来ない結果となる然も構成分子の中からは、自暴自棄に類した一團、逃避手段に一時的勇敢を誇らんとする一團が故々生れて黨規を亂して

行き分裂する。我國に於ける左翼政黨は、かくて没落するものである。労働黨今回の分裂騒ぎは、無産政黨運動の一分野に於ける、極めて小事件に過ぎぬが其重要性を分析すると考ふべき幾多の事項が含まれてゐる。即ち共產系勢力の絶へざる策動、和製ドンキホーテの隨ち行く道わが國情に背反する左翼政黨没落の必然性等である。

十月號 樞密院の政治的地位に就て

津久井龍雄

樞密院を首とする、いわゆる封建的殘存物と云はれる軍閥貴族、地主等は今や我國の政治的支配圈において、決してブルジョアに對立する獨自の勢力ではない。それは獨自的に存在し得る階級的、物質的根據を今や殆ど缺いてゐる。こゝにいわゆる封建的諸勢力なるものは、ブルジョア政治支配への完全抱合物に過ぎず、無産階級と對立する點において、ブルジョア政黨と毫末も異なるところがない。

小故にそれは、我々が理念する意味での國家主義者でも國體主義者でもなく實質的には我々の正面の敵であることが明白である。

いまやブルジョアの政治的經濟的制覇が確立化され、無産階級の全開争力が全面的に之への追撃に統一されねばな

らぬ時にあたつて、ブルジョア政治勢力の一環としての樞密院に對する我々の態度が如何なるべきものであるかは、言はずしておのづから明らかである。

十月號 ケルゼン主義反動論

三奈島 愛三

ケルゼンは法律學を矛盾の重合つた獨斷で領域決定した。そして下向的に曰く「法規は一人のこれを遵守するものなき場合にも、尙法規たるの性質を失ふものにあらず」と。理論に於ては宗教信徒の如きケルゼンもこの側面に於いては濃厚な假面を割れ、ブルジョア御用學者の眞相を曝露し、プロレタリアートの敵に急轉する。然るに、亞流どもは尙ほもケルゼンを空想科學者として消極的意味の反動とのみ見るか。

我が國に於いて新進著名のブルジョア學者群はケルゼンの理論的上向方面の缺陷を修正して、純粹法學をより確固たる地盤の上に打立てんとするに餘念ない。しかし彼等も亦問題そのもの立方、法律學の領域決定に努力する以上、そして又それから生れた倒影を正立せるものとして押賣りする限り、依然ケルゼンの反動性の直接の移入者だ。

然も之等の學者に對して彼等亞流は何等開争的態度に出で

やうとせず只黙殺と沈黙とに終らうとしてゐる。けだし、階級闘争の見地からは、沈黙は賛成であり、任務の不遂行は敵の援助に外ならぬ」と云つた例の「プロレタリア科學」一派自身の言葉は、彼等強流の上に必然性を以つて降りかゝつて来るだらう。要するに強流はその意味に於てケルゼン一派の味方であり反動的左翼理論家だ。

急進 農業機械と農民心理

五十公野 清一

農業機械化の必要とする理由、又は農業機械化問題の發生した理由を、現在我が邦に於ける農業經濟學の中から拾ひ上げて見ると、次の二つの範疇を見出し得る。

(一)農業振興策としての農業合理化運動に於ける、一方法論としての農業機械化。  
(二)資本主義重商工經濟に更るべき、社會經濟組織更新問題としての農業合理化運動に於ける、一方法論としての農業機械化。

の要望である。一、農業振興策は、現資本主義政府の重要政項の一つとされる迄に一般化した問題であり、現實的政策問題に迄取扱はれてゐる事に於て甚だ通俗的な問題である。二、それは、一のそれに比して甚だ急進的である。此の論理の發生した立場は、資本主義重商工立國主義が國際的に老衰したといふ見極めの上に置かれ、之に代る何等かの新しい

社會組織を必要とするといふ社會學的見地から出發してゐるのであつて、マルキシズム、アナキズム等の無産社會學と並び稱すべき急進的な色彩を持ち、従つて其方法論としての農業機械化問題も、より無産農民的な、重農業立國主義的な立場を持つてゐる。

しかし例へば重農主義とは云つても、原始農業に還れと云ふのではない。要は、農業の機械化、科學化に依る努力の節約並に多收獲即ち合理化を完全にし節約努力を工業生産に用ひて農工合致の新經濟組織を造ると云ふにある。

更に以上の如き經濟的立場を離れ農民心理が農業機械化を如何に要望してゐるか、の現象を考察し此問題の重要性を附足する。

即ち現代農村の大なる社會現象は農村人口の向都移動即ち農民離村に於ける心理的現象で、之は農村經濟窮乏化に依ること勿論ながら農民心理の進化も之が現象の輪廓を大ならしめてゐる。

農民心理の進化とは現代農民の機械性に對する渴望であり更に云へば農耕運動に於ける如き單調なる労働に飽ける事と機械科學の交錯した都會生活に生活の興味を見出した事である。若き農村労働者をして健全な労働を農村に活動さそうとするなら、彼等に經濟的富を與へると共に労働の複雑化を與へる事が緊要であり、此問題は經濟學的社會學のみならず

農村問題の心理的方面にも重要である。

今中 大 治

政治の經濟化が經濟の政治化か

政黨は、全國家の勢力を獲得し、獨裁的權力を奪ふ様になるが、政黨が政権を把握する程度の強大化するにつれ、政黨の内部的自壞作用が起つて来る。それは政黨争奪のための政黨の分裂従つてその分解である。政黨の分裂は社會の複雑化深刻化によつて一層助長される。そうして政黨が分裂すれば小黨分裂に傾くが故に、政黨の支配的權力が動搖し、政権そのものゝ危機が現はれてくる。

かう云ふ政権そのものゝ自壞作用なしにプロレタリアの政治運動は成就せず、その政権も来らない。この事實はまた今日の獨裁政治の實相である。小黨分裂になやんで居ない國に於いては、相當多くの失業不安の問題が横つて居ても、政権は比較的安定である。かゝる國では議會が、政権の傀儡に外ならないからである。

かゝる意味では我國の憲政の前途は未だ多少残されて居ると見ねばならぬ。従つて社會問題も更に深刻化して行くものと考へざるを得ない。そしてこれに對して、政権が何事をも爲し得るかは、豫想に難くないのであつて、政黨運動の軍資金をゆたかにし

主要雜誌思想關係論文要旨

て、政権にありつく度数を増加するための政策が益々露骨に行はれる様になるだけである。

その意味で山本氏の「經濟國策の提唱は典型的な政黨政治論であり、經濟國策と云ふよりも、經濟黨策と云つた方が適切だらうと思ふ。

現下の世界恐慌は、獨占的の資本主義の換言すれば多かれ少なかれ「組織された資本主義」の下に行はれつゝあるが故に、執拗な深刻さを有つてあつて、この事實は斷じて「獨占的資本主義」が競争を排除するものでなく、恐慌を回避するものでない事を示してゐる。

所謂「組織された資本主義」が、競争、生産過剩、恐慌を排除し得ないと同じく、個別的金融資本主義國の國際的統一も競争及び闘争——世界戦争を排除し得るものではない。唯、世界恐慌より脱出せんとするのかが「組織された資本主義」や「超帝國主義的結合」を求めしむるものとするならば、それ自身が世界資本主義の行詰りを表明するものでなくてはならぬ。

然かもこの行詰りを打開すべき「組織された資本主義」や「超帝國主義的結合」が實現されるためには、國內的には尖鋭なる階級對立國際的には政治的、民族的の軋轢、動亂を経る

ければ不可能である。即ち「帝國主義は必然に顛覆し、資本主義はその對化物に轉化しなければならぬ」のである。こゝに現下恐慌の全的意義があり、資本主義行詰りの實相がある。

經濟往來 ルムベン、インテリゲンツィヤ論

向坂 逸郎

ルムベン・インテリゲンツィヤは他の言葉で以て云ふならば、ルムベン・ブルジョアである。資本主義の分解作用が齎したところの没落しつつあるブルジョア生活の考へ方、物の感じ方、それらが即ち、わがルムベン・インテリゲンツィヤのそれである。そして事實彼等自身は、その出身をブルジョア階級の中にするのである。ルムベン・インテリゲンツィヤは徹底的のエゴイストである。彼等は凡そ社会的なるものに興味を有しない。彼等にはたゞ自分の消費生活があるのみである。従つて彼等の考へ方は、消極的で、個人主義的で、非社会的で、非体系的である。彼等の生活は享樂を中心としてゐる。徹底的個人主義者であるところの彼等ルムベン・インテリゲンツィヤは時として專制的暴力の支持者である。個人主義精神が、專制的精神に轉化する事は外見上矛盾に見える。だが極度に我意を貫徹する事は、極度に他人の自由を破壊するに外ならぬ。決定的エゴ

イストは實は專制主義者である。又時としてアナキストでもあり得る。彼等の生活態度感情は無拘束のアナキストを愛する。これらの分子はエゴイズムの熱狂的追求、享樂主義の二つの途をたどつてゐる。ルムベン・インテリゲンツィヤの特長は動搖なき事である。又かの所謂ルムベン・ブルジョアと一脈の共通點を有する事は當然で共に階級的ソリダリティを感ずる事が稀薄である。たゞ兩者を區別するものは其所有である。

ルムベン・ブルジョアは、デクラツションしたプロレタリア、没落せる小ブルジョア、農民、零落せるインテリゲンツィヤ等々から作り上げられるものである。彼等にとつては消費生活すら不完全極まるものであつて其超破壊性は、こゝから来るものであるといふ事が出来る。彼等は徹底的に非社会的、反社会的である。兩種のルムベンは、其破壊的、反社会的の性質に於いて共通なるものを有つてゐる事を吾々は知つた。併し乍ら、ルムベンの有するこの氣分的、ヒステリック的破壊性から直に「ルムベンの徹底的革命性」を結論してはならない。社會改造の歴史的任務の遂行者、歴史的発展の擔ひ手は、かゝる單なる破壊者反逆者ではあり得ない。革命の破壊的一面を遂行し得ると同時にその建設的一面をも擔當し得るものは、近代のプロレタリアート以外にはない。

この階級こそ歴史的發展を齎ふところの巨人である。經濟往來 農業恐慌に現はれた一つの社會問題

石濱 知行

この度の農業恐慌が、農村におこした、農民と小學校教員との經濟的ならびに感情的の離反及び對立は、從來見られなかつた社會問題の一つであつて、充分考察しなければならぬ問題である。

現在の農村の事情を、大局を見ずして、たゞ眼前の事實だけを短見するときには、農民か小學校教員に反感を有つのも當然と思はれる。

しかし、これを廣く全日本的に見れば、小學校教員は、他の身分、階級に比して、その勞務と報酬との上から決して恵まれた境遇にゐるのではない。寧ろ反對に他と比較して、恵まれない社會階級である。

しかも社會的に恵まれざる社會階級に嫉妬と反感をもつ一般農民があるといふことは、農民の困窮が如何に甚しいかを示し、同時に地方農村の無産者が一般的に如何に困つてゐるかを示してゐる。

しかしその困窮の原因は如何。それは世界的農業恐慌の結果である。がしかし、かゝる農業恐慌に際しての、國家の農村の對策が資本家保護であるといふことが、最も直接の原因である。

主要雑誌思想関係論文要旨

因である。

金融資本家に操縦せられる政府の對策は、いかなる時に於いても、無産大衆を犠牲にして資本家擁護を行ふのである。農村の困窮せる一般無産農民は、近頃ところばかりを見て哀れな地方農村小學校の教員をいぢめて何になる。

むしろ、無産小學校教員と一緒になつて、金融資本家に操縦せらるゝ政府、及びその恩恵によつて大きな額をしてゐる地方資本家に對抗しなければならぬ。

農業恐慌そのものが、既に資本家生産の結果である。それに際しての對策も亦、資本家擁護以外に一步も出でない。敵は農村の無産大衆の中になくて外にある。對立する敵をよく見極めよ。

九、十月、十一月、國際赤色勞働組合の十年

A. ロソフスキ

一九二〇年の半ば、干渉戦争と封鎖との砲火の中に國際赤色勞働組合の基礎が置かれた時には、共産主義者の間に於てさへ疑惑の聲があり、二三の組織を統一したに過ぎない微力なものであつた。爾後十年の間國際赤色勞働組合は改良主義に對し、組合内の左右兩翼の偏向に對して思想的政治的の闘ひながら、大衆を獲得して成長し今や革命的勞働組合運動の世界組織に發達した。(イムプロヴル誌一九三〇年六一號)

二六ノ一〇七



支那革命と世界プロレタリア

支那の革命闘争は今や全國際プロレタリアート及び特に萬國の共產黨に重大なる任務を課してゐるほどの點まで發展して居る。

世界帝國主義は干渉に依つてこの革命闘争を彈壓しやうとして居る。萬國のプロレタリアは八月一日の示威運動を利用して植民地の具體的解放闘争を援助しなければならぬ。

帝國主義列強の干渉戦争と闘へ

國際帝國主義は、サウエートの旗の下に躍進しつゝある支那革命に對して干渉戦争の準備をしてゐる。支那サウエートは、印度、印度支那、朝鮮、フィリピンにとり、更に全東洋被壓植民地半植民地にとり、前途に閃く輝く炬火である。

サウエート同盟共産黨

出版警察報第二四號一四六頁、コムニニストインタナショナル第七卷第八號所載「擴大前進の大會」と同じ論文同號参照

日本に於ける革命運動の緊急問題

現在、日本の大衆の直接的闘争とその水準は、既に發生しそして急速なテムボで進行し續けてゐるところの大衆の左翼から著しく後れて居る。日本共產黨がストライキ運動に、接近しなかつた爲に日本の労働運動は改良主義者に引づられて弱められて居る。

農村の危機に際して

農價農産物價の低落は農村の窮乏化を深刻ならしめ、今や農村は不安と動搖の眞唯中にある。貧農はその上に重い小作料を収奪されて居る。政府は農村救済臨時策案を決定發表した。これは農村失業者の救済でなく、地主、地方企業家に利益を與へんとする方法である。

労働者の生産管理について

不況の爲工場主が提出した工場を管理する場合は資本主義時代にあつては、必然的に協同的管理となり従つてファッショ目的のものとなる。工場管理をして革命的なものたらしめる爲には、尖鋭化する革命的前提条件が必要である。

戦後資本主義第三期と

資本主義の最終期と言ひ得る第三期に於ては資本の支配は明瞭なブルジョア獨裁にすぎず、社会民主主義は社会ファシズム化して、ブルジョアと共同してその獨裁を遂行する時期である。

支那革命と日本帝國主義

恐慌に悩まされて居る日本帝國主義が、益々支那に吸ひついて居るやうに生きやうとするのは、明かな事實である。日本の支那へ輸出して居る資本は二十五六億圓と見られて居る。

世界經濟恐慌と教員失業

世界經濟恐慌の結果、日本の若き資本主義も世界經濟の一環として恐慌を深化せしめて居る。失業は増加し教員の失業者が本年三月に於て全國に一萬五千を數へ、更に、減俸、休給の一部強制等、學級整理、俸給支拂延期、一部支拂、不拂數ヶ月といふ一連の現象が全國教員の身邊に押し寄せて居る。

ブルジョア教育學の非現實性

ブルジョア教育學は眞の社會主義教育である。ブルジョア教育は階級的教育である。ブルジョア教育は政治教育である。ブルジョア教育は労働教育である。ブルジョア教育は反宗教教育である。

農民の闘争を強化せよ

農民の闘争を強化せよ。農民の闘争を強化せよ。農民の闘争を強化せよ。農民の闘争を強化せよ。農民の闘争を強化せよ。

プロレタリア教育の本質

プロレタリア教育の本質。プロレタリア教育の本質。プロレタリア教育の本質。プロレタリア教育の本質。プロレタリア教育の本質。

プロレタリア教育の本質

プロレタリア教育の本質。プロレタリア教育の本質。プロレタリア教育の本質。プロレタリア教育の本質。プロレタリア教育の本質。

プロレタリア教育の本質

プロレタリア教育の本質。プロレタリア教育の本質。プロレタリア教育の本質。プロレタリア教育の本質。プロレタリア教育の本質。

プロレタリア教育の本質

プロレタリア教育の本質。プロレタリア教育の本質。プロレタリア教育の本質。プロレタリア教育の本質。プロレタリア教育の本質。

ブルジョア教育學は、その本質に於て、實踐より全く遊離した觀念論的哲學をその根本としてゐる。それが全く抽象的であり非現實的であるため歴史や社會から離れて、現實の具體問題を解決することの出来ないものである。此の點唯物論に立脚し、現實的な社會的なプロレタリア教育と鋭く對立するものである。

十月號 職業指導運動批判

小村 武夫

職業指導運動は被雇用者の立場に立つと、適當な職業に指導する社會的に重要な運動であるが、之が資本主義社會に於て行はれる限りには、無知な、階級的自覺なき兒童を奴隸的搾取に引き入れる手段に過ぎない。若き意識ある教育者は斷然かゝる反動的職業指導から兒童を防衛し又、他面斯る資本家の爲の「職業指導」を我等の爲の「職業指導」に轉化せねばならぬ。

十月號 「勞農黨解消論」の日和見主義的正體

青山 徳

勞農黨が解消論者の説く如く微弱であるのはその合法性にあるのではない。職線を分裂して居る故に黨自身が微弱なものである。問題は組織の合法と非合法とに於て闘争力に懸隔があるのではなくて、それらの組織がいかに大衆に影響力を持つかにある。解消論者の如く合法と非合法とを觀念の世界に於て對立的に弄ぶことは無意義であり、現實に大衆の中に左翼の勢力を築かんとして居るものにとつては有害である。

十月號 「解消派」は勞農黨を潰滅し得るや？

岡田 宗司

勞農黨解消派は勞農黨に對して大きな打撃を與へた。そして勞農黨は解消派並びに所謂非合法派との對立によつてその組織の發展は止まり、且つこの對立にとらはれて闘争力は鈍るだらう。然し之を克服する道は唯一つある。勞農黨が從來の獨りよがり主義を捨て、同じ性質の無産政黨と合同して更生することである。

十月號 勞農黨更生の唯一の道

河合 實

解消派の分裂に行詰つた勞農黨が階級的に生きる唯一の道は、勞働組合運動に於いては、單一勞働組合主義への轉換、無産政黨運動に於いては、單一無産政黨主義への進出である。これ以外に勞農黨更生の道はあり得ないことはマルクス、レーニンの指示によつて明白である。

十月號 「農村恐慌」の一般的狀勢

鈴木 茂三郎

今や、我國の農村には恐慌と合理化の嵐が襲ひ、農村は飢饉と窮乏のまつたゞなかに置かれて居る。永久に救はれない土地飢饉と、主要食糧穀類、蔬菜類、繭價の大暴落と、農村勞働の過剩と、都會失業者の歸農、地方産業の表裏に依つて農村の恐慌は絶對的のものとなつた。この恐慌の嵐を衝いて金融資本の支配する國家資本、産業資本は農村を支配せんと躍躍して居る。我々は地主としてかゝる金融資本の支配に對して全力を以て戦はねばならぬ。

禁止出版物目録

(昭和五年十月)

一、安 寧

1. 新聞紙法ニ依ルモノ

題名	発行月日	施行日	発行地
無法青年	九月二七號	一 日	東京
國民戦線	九月三〇號	二 日	東京
救授新聞	九月一五號	四 日	東京
二無産者新聞	第一〇月三號	六 日	東京
萬朝報	第一〇月七號	七 日	東京
インターナショナル	第一〇月二〇號	同	東京
社會運動通信	第一〇月一號	八 日	東京
Jugend-Internationale	第一〇月三號	同	東京
黒旗	第一〇月九號	九 日	東京
大衆時代	第一〇月一五號	一〇日	東京

禁止出版物目録

全國大衆新聞	九月一號	同	東京
農村問題時報	第一〇月一號	一 日	新潟
農旗	第一〇月一〇號	同	東京
農民闘争	第一〇月八號	同	東京
救授新聞	第一〇月五號	一四日	東京
二無産者新聞	第一〇月三號	同	東京
大衆時代	九月二六號	一六日	愛媛
大限萬朝報	第一〇月一六號	同	大阪
全勞働新聞	第一〇月一五號	一七 日	東京
社會運動通信	第一〇月一六號	同	東京
自由聯合新聞	第一〇月一〇號	一八 日	東京
平民	第一〇月二五號	二〇 日	愛媛
勞働問題通信	第一〇月一八號	同	東京
農村問題時報	第一〇月二〇號	同	新潟
聯合通信	第一〇月二〇號	二一 日	長野

二六ノ二一

禁止出版物目録

無産青年	第一〇月一八日	二二日	東京
公民新聞	第一〇月二二日	二三日	愛媛
東京毎日新聞	第一〇月二五日	二四日	東京
福島毎日新聞	第一〇月二五日	同日	福島
社会運動通信	第一〇月二四日	二五日	東京
解放思潮	第一〇月二五日	二六日	大阪
日曜夕刊	第一〇月二六日	同日	東京
日本労働通信	第一〇月二六日	同日	大阪
東京毎日新聞	第一〇月二七日	同日	東京
労働問題通信	第一〇月二五日	二七日	東京
新興五島	第一〇月二七號	同日	長崎
性	第一〇月二七號	同日	東京
第二無産者新聞	第一〇月二七號	二八日	同
全国大衆新聞	第一〇月二八號	同日	同
社会運動通信	第一〇月二八號	二九日	同

二六ノ一二

同	第一〇月二九日	三〇日	同
萬朝報	第一〇月三〇日	同日	同
労働農民新聞	第一〇月三十一日	三二日	同

一、安 寧

2. 出版法ニ依ルモノ

1. 單行本

題名	編著者	施行日	発行日
農民組合の誌	前川正一	一日	労働問題研究所
Comite le guerre Imperialiste (反帝國主義戦争)	一日	佛國	巴里
コミンテルン第六回大会の決議とテーゼ第二卷	一日	佛國	モスクバ
トロツキー著作全集第十三卷 革命の根本問題	一日	同	同
革命の根本問題	一日	同	同
社会思想全集18	島中雄三	一日	同
戦旗社版圖書目録	八日	同	同
W. I. Lenin. Samtliche werke Band XXV. Strategische und Taktik der Proletarischen	十四日	同	同

Revolution

○年プロレタリア革命の策略(戦術)

日本の労働者階級に對する第二回太平洋労働組合會議の報告

レーニン著作集 第十四卷ノ二

資本主義下の小學校

各無産政黨スローガン集

左翼労働組合の組織と政策渡邊政之輔

農村青年に對する

鈴木靖之

Protocol des 16. Plenum des Exekutivkomitees der Kommunistischen Internationale

(共産主義インターナショナル第十四回執行委員會議決定書)

Zehn Jahre Kommunistische Internationale (共産主義インターナショナル十年)

インダナ

国際プロレタリア婦人運動

三浦大助

生産機關を返上せよ

社会主義入門

軍事とストライキ

プロレタリア政治教程

國家と革命

禁止出版物目録

共産黨宣言

大衆黨は如何に開ふか

Proletariat le monde

怪物(頭顱)

2. 雜誌

題名	發行月日	施行日	發行地
ナツプ	十一月一日	二日	群馬
マルクス主義研究	十一月十日	九日	東京
大地に立つ	十一月十日	九日	同
法學新潮	十一月十日	十四日	同
聯合通信	十一月二十日	二十一日	長野
プロレタリア時評	十一月二十五日	二十一日	岡山

3. 宣傳印刷物 (日附ハ施行日ヲ示ス)

宣傳印刷物二枚

但シ研究費無シ大衆的に讀書會の研究方向を討論せよト旨

二六ノ一二三



禁止出版物目録

- 但シ「全協関東自由ニュース」の「分裂主義者共のエセ大会を叩き潰せ」と首記セルモノ
- 但シ「全協朝鮮人委員会ニュース」指令第六號、一九三〇年七月、人委員会
- 但シ「北川書記長の所云京成争議真相に付いて聲明す」と首記セルモノ
- 但シ「聯親艦の手先清土と其の一派の宗派、分裂主義の陰謀に關して聲明す」と首記セルモノ
- 但シ「タラ幹の陰謀をケトバセ」と題スル京成争議物四谷伸争議ニュース第一號
- 但シ「誰が諸君のほんとの味方が」と首記セルモノ
- 但シ「取残されるな」と首記セルモノ
- 但シ「西版争議ニュース」
- 但シ「X青年インタナショナル十週年記念イノスト」
- 但シ「国際青年デーを前にして」

- 但シ「★全印産業のゼネストへ」
- 但シ「全市の工夫並人夫諸君」と首記セルモノ、一〇・一六
- 但シ「サーベルに對し市街戦で戦ふ」と
- 但シ「第二無新城西支局外」共済組合役員改選について」と首記セルモノ
- 但シ「分會ニュース No. 1399 105」
- 但シ「川版労働者新聞第十四號 1930.9.15」
- 但シ「ゼネストヲ死守せよ」と首記セルモノ
- 但シ「第二無新城西支局ニュース 1930.9.15」
- 但シ「ガス工組合新會ニュース 1930.9.13 No. 1」開争で刷新會を擴大強化しろ」と首記セルモノ
- 但シ「国際青年デーを前にして」

- 但シ「化学労働者 一九三〇、九、三、付」
- 但シ「日本化学労働組合常面の任務」と首記セルモノ
- 但シ「食糧労働者 1930.9.1」日本食糧の再建と常面の任務」
- 但シ「ガス労働者 1930.8.18」ガス工組合刷新會」
- 但シ「分會ニュース No. 1399 196」秋期開争を通じて分會擴大強化して」と首記セルモノ
- 但シ「渡政、山宣その他の同志を殺した白色テロに抗議しろ」と首記セルモノ
- 但シ「悪地圭清水鏡次郎をタタキのめせ」と首記セルモノ
- 但シ「オレ達の裁判へ」十日午前九時押しかけろ」と首記セルモノ
- 但シ「ニュース 第八號 十月十二日付」忘るゝな十月七日を」と首記セルモノ

- 但シ「日本共産黨を守れ」と首記セルモノ
- 但シ「労働者ヲ給」日本共産黨の旗の下に」と記シタルモノ
- 但シ「海外電報の兄弟」と首記セルモノ
- 但シ「中央ニュース 1930.10.6 No. 6」實際的解消を通じて出版産業のゼネストだ」と首記セルモノ
- 但シ「第二無新城西支局ニュース 1930.8.10」国際赤色デーを大衆に自己批判 九月七日の国際青年の準備にとりかゝれ」と首記セルモノ
- 但シ「第二無新城西支局」
- 但シ「第二無新城西支局ニュース 1930.8.10」赤色デー開争の批判を大衆的に討議し直ちに青年デーの對策を立てる」と首記セルモノ
- 但シ「聲明 七月三十一日の會議に於て我が反帝同盟東京地方委員會は左の事項を決定せり」と首記セルモノ
- 但シ「日本労働組合全國協議會日本化学労働組合常任委員会」





禁止出版物目録

但シ「關東合同労働組合ニユース」  
 宣傳印刷物一枚 二十五日 労働問題研究所  
 但シ「近刊報告」華山丸事件を繞る労資戦の新形態、安田金蔵王國  
 の暴力的支配の破綻」ト主記  
 宣傳印刷物一枚 二十五日  
 但シ「京大ニユース」十月二十三日付「四・一六京都地方第一回  
 公判が開かれるぞ」ト首記セルモノ  
 宣傳印刷物一枚 二十五日 學友會解散闘争同盟  
 但シ「反動の軍寄宿舍をぶつ」ト首記セルモノ  
 宣傳印刷物一枚 二十五日  
 但シ「京都青洲劇場ニユース」第六號「ストライキにビクニツクに工  
 場や職場に指導劇場を作れ」ト首記セルモノ  
 宣傳印刷物一枚 二十七日 大塚さし工場争議闘  
 但シ「ストライキ宣言」ト首記セルモノ 一〇一九  
 宣傳印刷物一枚 二十七日 法政大學讀書會轉更假任委  
 員會  
 但シ「法政大學革命的學生諸君に敬す」ト首記セルモノ  
 宣傳印刷物一枚 二十七日 救授會埼玉支部準備會  
 但シ「救授ニユース」一九三〇、一〇、一  
 宣傳印刷物一枚 二十七日  
 但シ「無背北部支部ニユース」1930.10.23 第二號  
 宣傳印刷物一枚 二十七日  
 但シ「請負制度を撤廃して最低三回の日給制の確立」ト首記セル  
 モノ

二六八二二

宣傳印刷物一枚 二十七日 日本労働組合全国協議會加盟  
 但シ「暴徒反對政治犯人を奪還しろ」ト首記セルモノ  
 宣傳印刷物一枚 二十七日 反帝東京地方委員會  
 但シ「民衆の武装」1930.10.28  
 宣傳印刷物一枚 二十七日  
 但シ「農民闘争歌」一致團結赤旗立て、地主征伐せに  
 やならぬ  
 十、「小作人だど小男鹿にするな腰に  
 差す鎌ダチやない」等ヲ首記シ  
 タルモノ  
 宣傳印刷物一枚 二十七日 日本反帝同盟全國書局  
 但シ「ロシア革命記念の闘争方針」ト首記セルモノ、十月二十四日  
 付  
 宣傳印刷物一枚 二十八日 全協關東自由労働組合常任委  
 員會  
 但シ「ロシア革命記念カムバニア準備活動に關する指令」  
 宣傳印刷物一枚 二十八日 日本金屬労働組合東京支部  
 但シ「首切り賃金値下げ絶対反對」ト首記セルモノ  
 宣傳印刷物一枚 二十八日 無産青年新聞社  
 但シ「白色テロルを粉砕して十一月七日の革命記念闘争へ」ト首  
 記人物漫話ヲ記セルモノ  
 宣傳印刷物一枚 二十八日 全國大衆黨  
 但シ「労働議院に參れ」ト首出シ赤旗ヲ持テ人物漫話ヲ記セルモノ

禁止出版物目録

ボスター型  
 宣傳印刷物一枚 二十八日 下關市三百日町 徳村興一  
 但シ「神も佛も神道も阿彌陀も孔子も孟子も海も 願如も法照  
 も親鸞も日蓮も上は一天萬葉の陛下も下は非人乞食に至るまで人  
 で有ります」ト首記セルモノ  
 宣傳印刷物一枚 二十九日 全國農民組合京都府聯合會  
 但シ「小作人の子供達へのお知らせ」ト首記セルモノ、十月十八  
 日付  
 宣傳印刷物一枚 二十九日 東京府荏原郡津谷町四山二番  
 地 神道寛次  
 但シ「労働黨存続編の駁論 有害物としての労働政黨」ト首記シタ  
 ルモノ、ニシテ河上肇ノ記述シタルモノナリ  
 宣傳印刷物一枚 二十九日 凸版争議團本部  
 但シ「凸版ニユース」の「官大林立の中に凸版乳搾演説會開か  
 る」ト首記シタルモノ  
 宣傳印刷物一枚 二十九日 凸版印刷争議團本部  
 但シ「凸版争議ニユース」第五號「愈々凸版争議應援大演説會開  
 く」ト首記シタルモノ  
 宣傳印刷物一枚 三十日 日本労働組合全国協議會加盟  
 但シ「暴徒反對政治犯人を奪還しろ」ト首記セルモノ  
 宣傳印刷物一枚 三十日 日本金屬労働組合東京支部  
 但シ「請負制度を撤廃して最低三回の日給制の確立」ト首記セルモノ

二六八二三

宣傳印刷物一枚 三十日 全協日本出版新聞委員會江東  
 但シ「江東ニユース」の「一〇、二七、一九三〇」日和見の傾向  
 を脱離し闘争を通じて實質的な解消へ」ト首記セルモノ  
 宣傳印刷物一枚 三十一日 反帝同盟全國書局  
 但シ「敵」反帝新聞發刊について訴へる」ト首記セルモノ  
 宣傳印刷物一枚 三十一日 社會民衆黨愛知支部  
 但シ「社會民衆黨生活窮乏演説會宣傳」ヲ「押しかける」ト首記セ  
 ルモノ  
 宣傳印刷物一枚 三十一日  
 但シ「農民闘争歌」一致團結赤旗立て、云々  
 宣傳印刷物一枚 三十一日 大塚清自争議團  
 但シ「赤色自衛團編成萬歳」十月三十日付  
 宣傳印刷物一枚 三十一日 全國大衆黨聯合會  
 但シ「労働議院ニユース」全労働者農民の不平不満を労働議院へ集  
 中せよ、十一月一日付  
 宣傳印刷物一枚 三十一日 右 同  
 但シ「労働議院召集狀」  
 宣傳印刷物一枚 三十一日 大塚清自争議團  
 但シ「大塚争議團員諸君に敬す」ト首記セルモノ  
 宣傳印刷物一枚 三十一日 日本赤色救授會全協闘争委員  
 會  
 但シ「全協闘争ニユース」  
 宣傳印刷物一枚 三十一日 日本赤色救授會中央常任委員  
 會



禁止出版物目録

但シ「指令、十一月七日ロシア

4. 圖書

題名 種類枚数 施行日 発行所  
白色テロ寫真 四枚 十三日

二、風俗

1. 新聞紙法ニ依ルモノ

題名	発行月日	施行日	発行地
尾州新聞	第一〇月一五日	一五日	愛知
郡山新聞	第一〇月一四日	一六日	福島
東京毎日新聞	第一〇月二七日	二六日	東京
	第一九八九四號		

2. 出版法ニ依ルモノ

題名	編著者	施行日	発行所
幻燈畫集		十八日	無限社書房
補選デカメロン		二十五日	新潮社
萬世錄 其ノ他一冊	原田實翁編	二十五日	
			(社二形)

2. 雜誌

題名	発行月日	施行日	発行地
文學時代	十一月十一日	二十四日	東京
	第二卷第十號		
	十一月特大號		

3. 廣告ボスター

東京館ニユース ACTIONS 十六日

見よ日現代愛慾の市場を日ト首即シ長河龍夫著「癡痴風俗百貨店」ノ廣告ボスター 二十七日

一、オリソビツク貴方の謎は？ 一本ノマツチ 二十七日

一、俗つれん、其大空ノ廣告印刷物「俗つれん」草内啓ト首記セルモノニシテ 三十一日

日活映畫「金杉館廣告ビラ」銃殺英人ト首シ兩手ヲ左右ニ開キ直立セル婦人ノ寫眞アルモノ一枚

4. 圖書

禁止要項

一、安寧

1. 單行本

資本主義下の小學校

東京・自由社發行、十月二十日安寧禁止  
本書ハ義務教育ヲ民衆欺瞞ノ教育デアリ、民衆ニ奴隷生活ヲ強フル教育ナリトノ見地ノ下ニ社會革命ヲ主張スルモノナリ、其ノ二三ヲ摘録スレバ次ノ如シ。  
國史とは何が書かれてゐるか、萬世一系の天皇のお恵み深きことあり高天原のお物語だ、世界に冠たる日本帝國萬々歳だ。地理はどうか滿洲は同胞の血を流したところだからどうしても日本の屬國にしなければならぬ。そして國語讀本にはつとめはげみて後にこそまことの徳はあらはるれでありなど、何事もならざらん成らぬは努力の足らざる故ぞといふ教へである。(中略)全國に所在する四萬三千の學校は帝國主義戰爭の喇叭口とならうとしてゐる今日だ。資本主義第三期として現はれた事實をいかに處理すべきか、人類の名の滑稽してなされたブルジョア欺瞞教育政策へ何をもつて報復すべきか、プロレタリアートの意志のみがこれを決定するのだ。ア

禁止要項

二六ノ二四

ロレタリア教育の根本的樹立は吾々の勝利なくしてはない、プロレタリアの兒童がその管理の下に小學校を奪ひ取る日だそこへ吾々の眼を注がう。(中略)最後の帝國主義的孤立にまで立ち到つた支配階級は死にも狂ひになつて兵士を擁護しようとして試みるだらう。兵士よ射つな、汝も亦その銃を逆にするることによつて大衆の自己を發見し自己の重大さを知り、欺瞞された城砦の傀儡を知ることになるのだ。新興階級による正しき意味の新興教育は上述するところにより先づ教育従業員達の叛逆にある。(略)只社會革命のみが自由なる學校、自由なる教育家を創り出すことを得、同時に労働大衆を解放する能力を持つてゐる。

各無産政黨スローガン集

東京・無産者書房發行、十月二十日安寧禁止  
各スローガンヲ個々ノ存在トシテ見ル時ハサマデ不穩ノ感ヲ抱カザル場合ニアリテモ斯ノ如ク集成スル時ハ案外強度ヲ増加スルモノト思惟ス、加之日本共產黨ニ關スルモノハ何レモ不穩過激ニシテ禁止ノ要アリト認ム。  
不穩ナルモノヲ列舉セバ  
○労働者農民の政府を作れ  
○資本家地主の政府を倒せ  
○三・一五犠牲者を始め總ての階級的政治犯人の即時釋放  
○工場自衛團、農村自衛團萬歳

二六ノ二五

禁止事項

- 共產黨被告を即時釋放し
- 朝鮮の民族解放運動
- 植民地の解放運動
- 日本共産黨を守れ
- ソビエトロシアを守れ
- 赤色労働者自衛隊樹立運動
- 武装せるデモ・メカで遊覧し
- 日本共産黨の旗の下に

農村青年に訴ふ

東京・自由人社発行 十月二十一日安楽禁止  
農村青年ニ對シテ軍思想、法律ノ階級性ヲ宣傳シ、併セテ農民  
暴動ニ依ルテナキ革命ヲ煽動スルモノナリ。  
(前略)「此の頃若い衆等はたんで意氣地がない。誰一人地  
主や役場へかけ合に行くこともしないで愚痴ばかり並べて居  
る筈共だ、俺達の若い時はそんなもんでなかつた。昔だが  
いざ立ち上れば素裸だ、鎧旗で竹槍でんでに鉄やら鎌やら  
何でも手當り次第に携へて行つて大名屋敷へ乗り込んだが最  
後思ひ切り果したつたもんだ」ところした封建時代の經驗の  
述懐を聞くのは現代の青年諸君にとつて決して無駄事では  
ない。(中略) 社會主義の理想國ソビエトロシアには今も尚  
法律と暴政と半端と、それにからまる軍隊と斷頭臺とがあ  
る。然るに革命とは何ぞや吾々自由人の革命は後にも先にも  
唯一つきり存在しないであらう。それは凡ゆる國家組織に據  
る政府組織と賃銀制度、その機構と形態とを根こそぎ打壊し  
不能にし放棄し亡びし再び起き上げさせないであらう。斯くし

てこそ革命である。プロレタリア獨裁もクソもない。(下略)

左翼労働組合の組織と政策

東京・希望閣発行 十月二十一日安楽禁止  
本書ハ、渡邊政之助ガ生前、労働組合ニ關シテ取扱ヘル遺稿一  
トシテハ、殆ド編輯ノミヨリナルヲ、彼ノ内藤丹野セツ及後  
ノ友人藤原英ガ補正シテ編輯シタモノナル。  
彼ノ考ヘタ所ニヨリテ、労働組合ハ、資本家國家ヲ敵トスル實  
體部隊デアリ、近キ將來ニ於テ獨裁權ヲ握ルベキプロレタリア  
トノ前哨隊デアリ、指導隊デアル。隨テ彼ハ、其編輯ヲ、國  
土ノ養成、赤色自衛隊ノ結成、暴力行使ノ訓練等ニ重キテ註ク  
數箇所ヲ指摘スレバ  
記  
一、以上の如く轉換されたる争議の形態並に戦術は、當然新  
たなる争議の指導組織を要求する。従來の組織の缺陷は、  
それが、その段階に於て必然であつたとは云へ、ストライ  
キを組合主義的政治争議までにはしか發展し得られなかつた  
點に存する。即ち、従來の組織は、ストライキを暴動化ま  
で發展せしめることが、即ち政治的直捷行動——實は組合  
主義的政治争議の一形態——と考へられたが故に、政治部  
——頭部隊が計劃された。  
(一) 従來の政治部——立法対策、政治的行動の指導等を職  
能としてゐた——を廢すること  
(二) 争議部の下に、前頭隊(常設的應援隊)を組織するこ  
と  
(三) 前頭隊は工場代表者會議、ストライキ委員會を組織し  
指導する。

大衆黨は如何に闘ふか

東京・全國大衆黨事業部發行 十月二十九日安楽禁止  
本書ハ大衆黨ノ綱領、政策ノ解説ヲ主眼トシタルモノナレドモ  
現在我國ニ於ケル司法立法行政等ノ諸機關ハ何レモ皆ダレキ階  
級性ニ富ミ、單ニ無産者ヲ搾取シテ、水ク特權的地位ニ因  
定セシメントスルカラクリニ過ギザル所以ヲ強調シタル點事ニ  
充ツ、一、二ヲ例示スレバ次ノ如シ。  
一、ブルジョア前衛部隊としての民政、政友兩黨をして、ブ  
ルジョア財閥の利益を勇敢に代表せしめる。従つて、之等の  
既成ブルジョア政黨の組織する内閣及び政府は、一聯のブル  
ジョア聯盟の事務機關たるに過ぎない。彼等はこの組織的權  
力を用ひる事によつて労働者農民一般被壓迫民衆を抑壓す  
る。また、斯かる政治的支配は、資本主義的政治的社會制度  
を必然に形づく。それと共に、人間行為の準則としての慣  
習、法律及び道徳、科學と哲學、宗教、藝術等をも支配せし  
め置かない。彼等は無産階級の自覺の程度の進化に伴ひ、  
労働者農民無産市民を隷屬的地位に出来る限り永く意識的に  
固定化せしめようとする。即ちその積極的手段としては、警  
察、憲兵、裁判所、半獄を準備して眞向から暴力的行動を以  
て彈壓する。また消極的手段としては、労働大衆をいつまで  
も馬鹿にして、おとなしくさせる爲めに、學校、寺院、青年  
團、在郷軍人會を設けてブルジョア教師、牧師、僧侶、新聞  
記者を資本家國家は養ふ。  
二、強制徴兵制のために全人口の一分八分、總男子數の三割  
五分は兵卒、水兵として地方農民、都市労働者、無産市民の  
青年が各家庭生活を犠牲にして徴集されて居るのだ。自己階  
級の敵の利益を守るために。(中略) 兵卒水兵は無産者の子  
弟である。しかも働き盛りの青年であるにも拘はらず、監獄  
の囚人と大差ない生活を強制され、働き盛りの青年を一年又  
は三ヶ年間全く國家に徴集されることは各家庭の收入を國家  
が沒收すると何等變らぬ悲惨な生活のどん底に在營兵の家族

禁止事項

- 一、 開争の指導原理として戦術と戦術とがある。
- (イ) 戦術とは「プロレタリアトが權力を奪取するまで  
の全開争行程の内容を律す根本原則である」長き期間  
に亘る開争の全般について、最も適合したる方針を立  
てることを云ふ。
- (ロ) 戦術とは「プロレタリアトの開争行程上の各個の  
段階に付いて定めらるる原則である」プロレタリア  
トが政權を奪取するまでは幾多の曲折がある。その  
日常の開争原則を定めるものが戦術である。
- 三、 技術として主要なる點は次の如し。  
(一) 情報の取方(罷業の全過程に於ける)  
(二) 要求の作り方  
(三) 争議團の編成  
(イ) ビケツチンク隊、(ロ) 助間隊、(ハ) 應援隊、(ニ)  
内務係、(ホ) 會計係、(ヘ) 通信係  
(四) 資金の調達  
(五) 撤の作り方と配き方  
(六) 應援團の編成  
(七) 争議團の行動の方法  
(ハ) 示威運動、(ロ) 夜襲、(ハ) 破壊、(ニ) 暴行、(ホ)  
教育訓練、(ヘ) 工場内に於ける行動と外部に於ける行  
動、(下略)

禁止事項

は叩きつけられ、餓死に瀕する。(下略)

2 雑誌

大地に立つ (十月號)

東京、春秋社發行 十月九日禁止

本誌は無政府主義雑誌「シテ」の革命「下」題スル一文ハ因テ組織ヲ崩壊セシムル手段ヲ述ベ不逞ナルモノト認ム。

然らば資本主義的経済及び政治的強權の組織を崩壊せしむる手段は明かである。それは各人の現在の生活の可能な範圍に於いて、資本主義的経済の成立の補助を拒否することであり、政治的強權の組織に参加しないことである。トルストイは言ふ「彼等はたゞ、富者階級を政府を援助することを停止せしめればよい。さうすれば彼等の一切の過害は、獨りで消滅する。即ち資本主義的経済制度と、政治的強權の組織と、都會文明的な生活との非協同である。方法的に言へば、資本主義経済には自治経済を以て、強權政治には、相互扶助的の共同の組織をもつて、都會文明的な生活には自然的生活を以て、内部からそれらを解體させるのである。(中略)かくして次に、強權制度成立及び存続への非暴力的非協同が集團的に實踐されねばならない。兵役及び納税の義務の拒否。投票の棄権によるブルジョア或はプロレタリア政治への不参加。國家的行政官吏への不信任。一切の國家的義務及び寄附金等の拒否。権力者、支配者への奉仕の拒否。國家的祝祭。記念事業、年中行事等の否定。強權制度維持の爲の一切の頭腦或は筋肉労働の拒否等々……」

二六ノ二八

農民闘争 (十月十一日付九、十月號)

東京市發行 十月十一日禁止

全紙狂暴ナル赤色テロ煽動ノ記事ニロツテ論サル、モ左記抽出ノ箇所ヲ掲シ。

「十月の闘争」と題する記事(前略)秋祭りの時期がやつて来た。盆踊りとデモにして山梨聯合や千葉遠山の兄弟が地主を襲つた様に戦はねばならない。十月三十日は教育勸諭四十周年記念だ。いまこそその有難さの本質を知らねばならない。人民の要求をタタキつぶして勝手な憲法を作り上げ服従せしめ、彈壓する爲の最初の合圖であることを。十一月七日はロシア革命十三年記念日だ。この日は世界プロレタリアト農民の勝利と建設の記念日であり大道を開拓した日である。傷き倒れた幾千萬の戦士に、とらはれて獄中に、また拷問と飢餓に戦ひつゝある革命の戦士にプロレタリアの禮を以つて敬意を表すると共に先輩の教訓に従つて勝利の爲に戦はねばならない。

「奥野田争議と全農青年部の闘争」(下題スル記事(前略))  
「地主階級と警察を夜襲し、全員武装して犠牲者を奪ひ返せ」それは湧き返る喚聲拍手と異議なしの嵐に可決された。如何にして此の決議を行動に移すか。吾々は幾隊かに分ればならぬ。武器を手になければならぬ。(下略)

法學新潮 (十一月一日第一卷第十號)

東京、中央法政社發行 十月十四日安樂禁止  
禁止ノ主因ハ「憲法相の死刑事務補佐とサウコ、ウアセツチの

二、風俗

1 單行本

幻強盜懺悔錄 花澤淡泉編

東京、無限社發行 十月十八日禁止

本書ハ、既強盜匪本松吉ノ懺悔錄ト稱スルモノデ、彼ノ生立チ、強盜ニナルニ至ツタ動機、彼ノ破戒ノ原因トナツタ上流家庭事情生活ノ狂態等ヲ物語ル、其ノ二三ヲ摘記スレバ左ノ如ク……  
どうして女に手を觸れたか、黙從——そして「秘密にしていね」……私はいつも決して女に手を觸れやうとして押入るのではないのですが、その夜の偵察時間にいつも良いところを見せつけられるのが破戒の原因となるのです。上流家庭の若夫婦は、きまつて寝る前二時間位エロの限りを盡して狂態を演ずるのだ。そして用事が済むと大抵別々の部屋で寝る。……郊外文化村の一番大きい邸宅……一同が寝しづまつた頃、私は腹巻だけになつて押入から這ひ出た……私は一人の女中にさして見たが身動きもしない、此の分なら金は強盜で事足りるが、今夜はどうもさうは行かない。私は三日前の偵察から心を惹かれてゐた夫人の部屋へ、胸の鼓動をおさへ喉を飲み下したが忍んで行つた。  
一番奥の部屋。電燈が薄い帳を透して、二十五六歳の豊満の女の姿態を描き出してゐた。變化粧が殊に水々しく艶つぽい。私はくらくとした。スイッチをひねつた……

二六ノ二九

禁止事項

死刑問題ト題スル記事ニテ裁判官ガ不明無能ヨリ死刑ニ相當スル罪ノ存否ヲ判断スルノ能力ヲ支障極大ニシテ目的トスル被支障階級ニ對シテ計画的虐殺ヲ執行スト主張シ日本共産黨事件ノ被害ガ何等ヲシテ死刑ノ厄ニ遭フガ如ク事實ヲ歪曲シテ裁判ノ神聖ヲ冒瀆スルモノナリ。其ノ二三ヲ摘記スレバ……  
(一) 死刑なるものがいかに惨忍なものであり、人類社会に存置せしむべからざるものであるかを認識して、心から之を撤廢せむと欲する者は、たゞに死刑の存置を望まぬといふのみでなく、死刑——支配階級の手によつて行はるる被支配階級虐殺——存置を必然且つ必要ならしめて居る資本主義的帝國主義の官僚裁判そのもの、存置を碎するだけの勇躍に生きねばならないと信ずる。

(二) 死刑に相當する罪ありや否やを判断することの出来ぬ裁判官が、階級にも人を裁いて罪なきに罪するの不法に對しては、たゞその可憐な死刑囚のために死刑執行を防止したのみでは足りない。……彼等司法官が、さうした不法を取へて爲しえないやうに制度そのものを改革しなければならぬ。絶対的死刑止論があるのだ。

(三) さらに況んや、かゝる惨忍な死刑が所謂「赤狩り」と云ふやうな、支配階級の意識的計画的に依つて罪なき民衆に執行せらるるに於ておやだ(中略)その際の一七證據を拵へ上げるために、警察にはスパイがあり、證據立會人があり、見なくとも見たと云ひ、聞かずとも聞いたと云ふ御用證人がある。それのみではない、警察官憲はこの一七證據を承認せしむべく暴力を以てまで心にもなき自白を強制する事がある。



主要禁止出版物選擇表

題名	禁止日	發行地	發行部數	遊押部數	北東北	神奈川	東京	大阪	兵庫	長崎	熊本	鹿兒島	那覇
第二無産者新聞九月六日第三號	九月七日	東京	100	100	1	1	1	1	1	1	1	1	1
無産青年	九月七日	同	100	100	1	1	1	1	1	1	1	1	1
社會運動	九月十日	同	100	100	1	1	1	1	1	1	1	1	1
自由聯合	九月十一日	同	100	100	1	1	1	1	1	1	1	1	1
萬朝報九月二日	九月二日	同	100	100	1	1	1	1	1	1	1	1	1
夜の東京	九月六日	同	100	100	1	1	1	1	1	1	1	1	1
社會運動	九月九日	同	100	100	1	1	1	1	1	1	1	1	1
女人藝術	九月十日	同	100	100	1	1	1	1	1	1	1	1	1
リプロレ	九月十日	同	100	100	1	1	1	1	1	1	1	1	1
第二無産者新聞九月二日	九月二日	同	100	100	1	1	1	1	1	1	1	1	1
社會運動	九月九日	同	100	100	1	1	1	1	1	1	1	1	1

二六ノ二三三

その二

主要禁止出版物選擇表

題名	禁止日	發行地	發行部數	遊押部數	北東北	神奈川	東京	大阪	兵庫	長崎	熊本	鹿兒島	那覇
第二無産者新聞九月六日第三號	九月七日	東京	100	100	1	1	1	1	1	1	1	1	1
無産青年	九月七日	同	100	100	1	1	1	1	1	1	1	1	1
社會運動	九月十日	同	100	100	1	1	1	1	1	1	1	1	1
自由聯合	九月十一日	同	100	100	1	1	1	1	1	1	1	1	1
萬朝報九月二日	九月二日	同	100	100	1	1	1	1	1	1	1	1	1
夜の東京	九月六日	同	100	100	1	1	1	1	1	1	1	1	1
社會運動	九月九日	同	100	100	1	1	1	1	1	1	1	1	1
女人藝術	九月十日	同	100	100	1	1	1	1	1	1	1	1	1
リプロレ	九月十日	同	100	100	1	1	1	1	1	1	1	1	1
第二無産者新聞九月二日	九月二日	同	100	100	1	1	1	1	1	1	1	1	1
社會運動	九月九日	同	100	100	1	1	1	1	1	1	1	1	1

二六ノ二三三

主要禁止出版物選擇表

題名	発行地	禁止日	理由	印刷部数	差押部数	所在地
一、愛蔵行 二、愛蔵行 三、愛蔵行 四、愛蔵行 五、愛蔵行 六、愛蔵行 七、愛蔵行 八、愛蔵行 九、愛蔵行 十、愛蔵行 十一、愛蔵行 十二、愛蔵行 十三、愛蔵行 十四、愛蔵行 十五、愛蔵行 十六、愛蔵行 十七、愛蔵行 十八、愛蔵行 十九、愛蔵行 二十、愛蔵行	東京	八月九日	ソノナレ	1000	500	三奈柳茨千 群埼新長兵 神大京東北
歌米女見	東京	九月十三日	ソノナレ	1000	500	重良木城葉 馬玉海崎庫 川阪都京道
朝鮮に於ける土地問題	東京	同	ソノナレ	1000	500	
プロレタリア革命の展望	東京	八月十八日	ソノナレ	1000	500	
九軍奇襲報 九月十五日 第九号	東京	九月十九日	ソノナレ	1000	500	
プロレタリア講座 内容見本	東京	二三日	ソノナレ	5000	5000	
文藝風潮 十一月十日 第六号	東京	同	ソノナレ	10000	10000	
ビニータ イスボツ	東京	二六日	ソノナレ	1000	1000	

二六ノ一三五

二、出版法ニ依ルモノ

主要禁止出版物選擇表

題名	発行地	禁止日	理由	印刷部数	差押部数	所在地
一、愛蔵行 二、愛蔵行 三、愛蔵行 四、愛蔵行 五、愛蔵行 六、愛蔵行 七、愛蔵行 八、愛蔵行 九、愛蔵行 十、愛蔵行 十一、愛蔵行 十二、愛蔵行 十三、愛蔵行 十四、愛蔵行 十五、愛蔵行 十六、愛蔵行 十七、愛蔵行 十八、愛蔵行 十九、愛蔵行 二十、愛蔵行	東京	八月九日	ソノナレ	1000	500	三奈柳茨千 群埼新長兵 神大京東北
歌米女見	東京	九月十三日	ソノナレ	1000	500	重良木城葉 馬玉海崎庫 川阪都京道
朝鮮に於ける土地問題	東京	同	ソノナレ	1000	500	
プロレタリア革命の展望	東京	八月十八日	ソノナレ	1000	500	
九軍奇襲報 九月十五日 第九号	東京	九月十九日	ソノナレ	1000	500	
プロレタリア講座 内容見本	東京	二三日	ソノナレ	5000	5000	
文藝風潮 十一月十日 第六号	東京	同	ソノナレ	10000	10000	
ビニータ イスボツ	東京	二六日	ソノナレ	1000	1000	

二六ノ一三四



税関に於て輸入禁止せられたる出版物

書	輸入露西亞革命史 An Illustrated History of The Russian Revolution	アメリカン外二名編 Editors W. Astorow A. Sepkrow J. Thomas	Martin Lawrence Identified New York	三冊	十月 十五日	横濱 税関	關稅 十一 二 依 法
書	内亂の道 On the Road to Lammrektion	トノベ、アーメン Nikolai Lenin	The Communist Party of Great Britain	一冊	同右	同右	同右
書	レーニン全集 第二十卷(1) (1) Lenin's Statiliche Werke Band XX (1) (2)	レーニン I. W. Lenin	Verlag für Literatur und Politik Berlin	二冊	同右	同右	同右
書	日本帝國主義勝利の下に (譯文)	エスキム	油屋 シンジノム 社	一冊	十月 十五日	關稅 文書 税	同右
書	馬克思主義的的民族革命論	不明	不明	一冊	十月 十日	神戶 關稅	同右
書	革命叢書 中國革命與反對派	不明	上海 民智書局	一冊	五月 十日	同右	同右
書	青年叢書之一 共產主義青年運動的理論與實際	史列波柯夫原著 謝文治翻譯	中國 共產青年團	一冊	十月 三日	同右	同右
書	一九〇五—一九〇七俄國革命史	同上	同上	一冊	同右	同右	同右
書	國家と革命 The State and Revolution	レーニン N. Lenin	上海 中外研究會	一冊	十月 二 十九日	同右	同右
書	プロレタリア革命 The Proletarian Revolution	レーニン N. Lenin	The Marxist Educational Society U. S. A.	一冊	同右	同右	同右
書	左翼小兒病 Left Wing Communism as Inevitable Disorder	レーニン N. Lenin	同右	一冊	同右	同右	同右
書	偉大なる創案 The Great Initiative	レーニン N. Lenin	同右	一冊	同右	同右	同右
書	プロレタリア獨裁と恐怖主義 Proletarian Dictatorship and Terrorism	カール・ラドツク Karl Radok	同右	一冊	同右	同右	同右
書	資本主義最後段階としての帝國 主義 Imperialism The Latest Stage in the Development of Capitalism	レーニン N. Lenin	同右	一冊	十月 三日	同右	同右
書	無政府主義者の召集(譯文)	同上	同上	一冊	十月 十四日	同右	同右
書	露西亞共產主義沿革史(譯文)	スピリドワイチ	ハバロウスク革命無 政府主義者同盟會 者自由同盟會	一冊	同右	同右	同右
書	革命叢書(譯文)	同上	同上	一冊	同右	同右	同右
書	レーニンの生涯と事業	ヤロスラウスキー著 瓜生信夫譯	東京 希望閣 ロシア社會民主黨ニ 關スル文 部委員會	一冊	同右	同右	同右

二六ノ一三八

税関に於て輸入禁止せられたる出版物

書	プロレタリア革命 The Proletarian Revolution	レーニン N. Lenin	同右	一冊	同右	同右	同右
書	左翼小兒病 Left Wing Communism as Inevitable Disorder	レーニン N. Lenin	同右	一冊	同右	同右	同右
書	偉大なる創案 The Great Initiative	レーニン N. Lenin	同右	一冊	同右	同右	同右
書	プロレタリア獨裁と恐怖主義 Proletarian Dictatorship and Terrorism	カール・ラドツク Karl Radok	同右	一冊	同右	同右	同右
書	資本主義最後段階としての帝國 主義 Imperialism The Latest Stage in the Development of Capitalism	レーニン N. Lenin	同右	一冊	十月 三日	同右	同右
書	無政府主義者の召集(譯文)	同上	同上	一冊	十月 十四日	同右	同右
書	露西亞共產主義沿革史(譯文)	スピリドワイチ	ハバロウスク革命無 政府主義者同盟會 者自由同盟會	一冊	同右	同右	同右
書	革命叢書(譯文)	同上	同上	一冊	同右	同右	同右
書	レーニンの生涯と事業	ヤロスラウスキー著 瓜生信夫譯	東京 希望閣 ロシア社會民主黨ニ 關スル文 部委員會	一冊	同右	同右	同右

二六ノ一三九



税關に於て輸入禁止せられたる出版物

二六ノ二四〇

雜誌	雜誌	書籍	書籍
日本研究(月刊) (民國十九年一月)	イリタナシヨナル第三卷ノ第三號、第五號、第八號	蕪岡秘話 Le Jardin Parfumé	上養健一郎
		蔭光菴	
上海漢文雜誌發行所 日本研究編輯部	東京労働調査所	東京牛込 文藝資料研究會	東京牛込 産業労働調査所
一冊	各一冊	一冊	各一冊
十一月二日	十月二日	十月三日	十月二日
同右	同右	同右	同右
同右	同右	同右	同右
			關稅定率法 依第十一條



資料

取締上より見たる風俗關係出版物の傾向

一、概説

出版物發賣頒布禁止の原因として、法はその掲載事項が風俗を墮亂する文書圖畫を出版する場合を規定した。如何なる内容が果して風俗を害すべきものであるか、換言すれば、如何なる事項が禁止の一般的標準となるか、是れを掲載事項の内容に依つて分類すれば、凡そ次の如くである。

- 一、性慾關係の記事
- 二、性愛生活の記述
- 三、亂倫なる事項
- 四、墮胎若くは避妊の紹介
- 五、遊里魔窟其他暗黒方面の紹介

取締上より見たる風俗關係出版物の傾向

六、殘忍なる事項

以上は、出版物風俗禁止の一般的標準を示したのであるが同一内容の記事と雖も、其の出版物發行の目的、購讀者の範圍或は頒布の狀況等特殊の條件に依り、時に處分を異にすることがある。例之本年九月十九日禁止處分を受けた「犯罪現場寫真集(東京・犯罪科學研究同好會發行)の如き、その内容に於ては、強力犯に屬する犯罪(主として強盜殺人、強姦致死並に其の疑ある犯行等の現場寫真と解説とを収録し、一般讀者にとりては慘虐心理を誘發する虞れあるものなるにも拘らず、これが發行に際して發行者は、極めて少部數印行して犯罪科學研究者にのみ頒布する旨申し出でたるを以て、所

二六ノ二四一

謂特殊條件を考慮し之を不問に付した。然るに事實は多數發行して、當局を欺瞞するの舉に出でたるを以て遂に一般的標準に戻り之が發賣額を禁するに至つたのである。

出版物の發賣額を禁止及び其の刻版印本の差押は、元來、内務大臣の權限に屬するものであるが、(一)春蠶、(二)淫木、(三)陰部を露出せる人物畫及寫眞、(四)一見明に前各號の廣告又は紹介と認めらるゝ印刷物、に就ては大正七年十一月内務省訓令を以て、これが禁止差押を廳府縣長官に委任した。以下出版物を外形的標準に依つて、單行本、新聞紙雜誌、其の他(春蠶、淫木、廣告、ポスター、圖書等)に分つて最近の傾向を一瞥しよう。

二、單行本

風俗關係單行本の禁止件數に就き、前年(自一月至九月)と本年同期とを對比するに、前年の五十件に對し本年は三十九件にして、十一件の減少を示すも、これを以て直ちに此の種單行本出版の傾向を測斷することは早計である。假りに風俗關係單行本の月別納本數に見るも、却つて跳躍的增加の傾向を示し、前年同期の五十五種に對し本年は百四十一種に増加して居る。

風俗禁止單行本月別比較表

年別	大正	同	同	同	同	同	同	同	同
年別	大正	同	同	同	同	同	同	同	同
納本數	二二	五七	三二	爲不明	一七	一三	二七	二七	一〇八

如上の事象に徴するに、風俗關係單行本の納本數は逐年激増しつつあるが、禁止件數に於ては却つて反比例的現象を示して居る。これは出版業者が發行の目的たる經濟上の採算を取る爲め、從來の如き投機的、冒險的出版の商策を排して、禁止線下を彷徨する程度の内容を盛ることに腐心し、其の内容に於て相當の煽情的効果を擧げつゝ、猶且つ制裁を免かれること實に四十一種に至つた。

例の二三を示せば  
一、矢野目一著 讀一千一夜物語  
本書は、昨年十月納本となつたものであるが、後に至つて、交接の場面等五葉の挿畫を「正誤表」と稱して添付發賣したので、本年七月十日更めて其の全部を禁止した。

ことを企圖するに至つた一説左と見ることが出来よう。即ち出版業者は禁止を免かれ得る程度で、而も購讀者の興味を喚ぶが如き出版物を刊行することにのみ専念し、併立し得ない兩者の矛盾撞着を糊塗する爲めには、あらゆる方策を講じて居る。

例へば、名を近時世を擧げて叫ばれてゐる産兒制限考は産兒調節に籍り、其の内容に至つては、卑猥なる行動を聯想せしむるに足る淫靡なる記事を登載し、或は其の掲載事項の骨子たる趣旨自體に卑猥の觀念を包含せざる場合に於ても、其の行文又は寫影描畫が卑猥に亘り齊しく淫風を誘導するものが尠くない。

更に又、産制或は産調の理論の解説を逸脱し、藥物又は器具に依る避妊の實行方法の具體的記述を試み、極端なるものに至つては、「月經閉止」と獨乙式通經器に就いて「東京・産兒制限運動聯盟發行、五月二十七日禁止」の如き明かに墮胎の方法を教示するものさえある。

この種避妊、墮胎等に關する單行本は本年に入りて著しき増加を見、禁止を受けたもの既に五種、その納本數十六種の多きを算したることなど併つて觀ざる傾向である。

最近思想關係出版物に於て頻りに行はるゝに至つた非合法的發賣頒布の方法、例へば納本せしものに内容を附加し、或は抹消部分を充願して刊行するが如きものが風俗關係出版物取締上より見たる風俗關係出版物の傾向

に於ても亦漸く増加するに至つた。茲にその最も顯著なる實例の二三を示せば

一、道家齊一郎著 歐米女見物

本書は、淫蕩に墮せる帝都各階級性生活の裏面を暴露叙述せるもので、本年四月二十一日發行、同二十四日、風俗墮亂の虞を以て禁止處分に付せられたものである。然るに問題の箇所を抹消せずして再び之が刊行を企て、五月十六日再度禁止を受け、六月六日問題の箇所を削除して「改訂版」を發行し不問となつたが、別に「附録」(愛慾行進曲簡所總めぐり)として削字部分を騰寫添付したるを以て、九月八日三度禁止を受け遂に市場に其の影を没するに至つた。斯の如きは最も執拗且つ大膽なる非合法出版の適例である。



取録上より見たる風俗關係出版物の傾向	二六ノ一四六
二三 淫蕩時代	或ル婦人ノ腰巻ガ其ノ婦人ノ淫蕩生活ヲ物語ル
二四 黄譜 一千一夜物語	サラセンノ古代ノ密書及其ノ説明書其ノ中ニ交遊面等淫蕩ナルモノ數アリ
二五 軟い船	或ル青年ノ遊里ニ於ケル性取引ノ記述
二六 EL. HEAR.	同々性愛ニ關スル經典ノ解釋ニ對シテ方法ニ交遊ノ技巧等詳細ニ描寫ス
二七 通信教授 接吻學	接吻ノ種類、方法等ヲ記述
二八 怪奇變態 處女解剖	加虐性變態性慾ニ關スル物語的叙述
二九 龍 第一卷	佛蘭西淫本ノ翻譯
三〇 輸入好色一代男 全八巻八册	非原西鶴著
三一 輸入好色二代女 全六巻六册	曾テ屢々禁止處分ヲ受ケタルモノ
三二 好色五人女 全五巻五册	大正十五年九月二十五日發行
三三 愛慾行進曲 改訂版	右 昭和二年九月三十日發行
三四 結 婚 愛	右 昭和四年八月五日發行
三五 歐米女見物普及版	既刊ノ餘字ノ部分ヲ際寫取リトシテ添付シタルモノ
三六 狼奇風俗の向經	「性教育」ニ關スル譯書
三七 犯罪現場寫真集	「性教育」ニ關スル譯書

三九 圖書日録 新刊と重版書 伊藤三郎 九月二十八日 東京 尖 嶺 社 卑猥ナル性慾描寫ノ露骨の叙述

三八 ヒューテイスボット (挿し墨子) 永田 尙 九月二十六日 東京 尖 嶺 社 「歐米女見物」内容見本、處女なき

三九 圖書日録 新刊と重版書 伊藤三郎 九月二十八日 東京 白 風 社 國內内容見本トシテ各一節ヲ掲グ

三三 新聞紙雜誌 昭和四年四月一〇三〇三九二〇一四二六五 昭和五年一月二二一九四四一四四三

新聞紙雜誌に就き、昭和四、五兩年同期の風俗禁止件數を對比すれば左表の如くである。

風俗禁止新聞紙雜誌月別比較表

風俗關係新聞紙雜誌に於ても、其の發行數と禁止件數の關係に於て單行本に見るが如き傾向を認めることが出来る。

風俗禁止新聞紙雜誌調	自昭和五年一月至同 年九月
一 自由文界	神奈川 昭和五、三 第二卷第一號 一月七日
二 會員雜誌「集」	愛知 五、二、一 二月號 二月三日
三 あこがれ	東京 五、三、一 第四號 二月二十六日
四 無名	大阪 五、三、五 第一三號 三月五日
五 昭和公論	同 五、三、二八 第一二三號 三月二十八日
六 産兒制限評論	東京 五、四、三 第三卷第四號 四月五日
七 日新	岡山 五、四、一 第二二二號 四月十二日
八 北都毎日新聞	北海道 五、四、一四 第二二八八號 右 同
九 北都毎日新聞	同 五、四、一二 第二二八六號 右 同

取録上より見たる風俗關係出版物の傾向

取上より見たる風俗關係出版物の傾向

一〇	東京毎夕新聞	東京	五、四、一四	第一〇、四三三號	四月十三日	日曜漫遊
一一	東京パック	同	五、五、一	五月號	四月十四日	挿畫漫遊
一二	迅雷新報	京都	五、四、一〇	第二四〇號	四月十九日	「女性の性的興奮」ト題スル記事
一三	性	東京	五、五、一	第一〇卷第六號	四月二十二日	性慾ニ關スル記事登載
一四	近代生活	同	五、五、一	第二卷第五號	四月二十二日	愛慾生活ノ斷片的記録
一五	カクテル	同	五、六、一	第一卷第五號	五月一日	全面風俗ニ關スル漫遊漫文、
一六	北都毎日新聞	北海道	五、五、二	第二二〇五號	五月二日	「赤嶺其の頃」トテ次「ト題スル淫猥ナル記事
一七	新九州	熊本	五、四、三〇		五月九日	「好色淫猥」トテ女讀む可らず「女性眞理」トテ風俗的考察(寄稿第五號)昭和四年八月二日風俗(所載)ノ轉載其ノ他猥褻ナル記事
一八	文學展望	新潟	五、五、二五		五月二十二日	「面妖」トテ題スル淫猥ナル記事
一九	兵卒	静岡	五、六、一	第一卷第五號	六月三日	「一九三〇年頃の「ブルジョア」の風俗」ト題スル淫猥ナル記事
二〇	制作	東京	五、七、一	七月創刊號	六月二十三日	小説「魔界」ハ變態性慾ヲ取扱フ
二一	換氣筒	同	五、七、一	第六號	六月二十六日	鐵曲「女と喪服」ハ淫猥ニ關スル記事、病夫ヲ前ニシテ戲レ遊ニ死ニ至ラシム
二二	夜の東京	同	五、七、五	七月號	六月二十八日	「マダム」ハ重々の幻想ト題スル夫ノ海外出張中マダム八重ヲ性的享樂ノ幻想ヲ描ケル記事
二三	自由新聞	岡山	五、七、一八	第九八號	七月十九日	不倫關係ノ記事
二四	漫談	東京	五、九、一	第一卷第七號	八月十一日	魔窟ノ紹介記事掲載
二五	華の日本	愛知	五、八、一九	第六號	八月二十一日	「變態性慾」ニ耳より話二つ……病院行進曲ト題スル病院内ノ情話
二六	急行	大阪	五、九、一	第二卷第九號	八月二十二日	「淫樂の度」ト題スル風俗記事
二七	無名	同	五、九、一	第一九號	八月三十日	「メロース」を穿かない女ト題スル記事

二六ノ一四八

これを新聞雑誌の種類に依り分類すれば次の如くである。

二八	夜の東京	東京	五、一〇、一	第六卷第九號	九月十五日	全般的風俗漫遊記事
二九	エ	同	五、一〇、一	第一卷第二號	九月十八日	全面風俗漫遊記事性慾記事充滿中「北都」ラ「劇」の和合「外」三葉ノ猥褻寫眞ヲ掲ゲ
三〇	環奇畫報 更色妖氣號	同	五、九、一	第二卷七號九月號	九月十八日	卓撰ナル挿畫數葉掲載
三一	文學風景	同	五、一〇、一	第一卷第六號	九月二十三日	本誌中「煉瓦」を説く女ト題スル小説ハ一日本人ト外國淫猥女トノ街路上ニ於ケル性取引並ニ交際場面ノ描寫

性取引の方法又は其の場面描寫、或は變態性慾、魔窟若くは暗黒方面の紹介記事等從來と大差なく、何れも瞬間の泡沫的興味や歡樂を主題とせるもの多く、特に題名若くは挿畫に特異の趣向を凝らし購讀者の挑發に苦心してゐる。

性慾雜誌	一〇
地方雜誌	九
地方新聞	六
文藝雜誌	四
娛樂雜誌	二

更に、地方別に之を分つときは東京十五種を最高とし、大阪四、北海道三、愛知、岡山の各二種、神奈川、京都、新潟、静岡、熊本の各一種となる。

性及び性慾を専門とする雑誌の増加は、近年著しきものあり、これ等は概ね、エロティシズム、グロテスク、ナンセンス、ジャズ、スピード等時代の尖端的或は末梢神經的現象を捉らえ、巧みに近代人の好奇心、猥褻慾を唆り、販路の擴張に汲々たるものがある。其の内容を見るに、性慾生活の記述

取上より見たる風俗關係出版物の傾向

風俗漫遊 (更色妖氣號) 九月號	九月十九日禁止
エロを教へる話 吉原明治浴風俗	平山 盛江
上海實史史略	井上 紅梅
港の彼女から	井上 紅梅
最尖鋭的人肉市場	池田 桃川
刑務所内犯行秘録	松原 濱治
遊廓の起源と娼婦雜記	喜童代 四郎
忍術奥義書	藤澤 樹彦
風俗資料 (第二冊) 五月號	
娼家風俗漫遊 (原と口槍)	
ルネッサンス時代の淫浴風俗	佐藤 紅霞

二六ノ一四九



りでアナタに捨てられるんぢやないかしらと思つと、淋しくて……と途切れ／＼にケイの耳に口をつけて囁いた、ほんとは泣いて居るのかしらと思つてケイは、そふと女の腕に手をやつて見ると、女の腕には熱い汗がたまつて居た。「冗談言ふなよ、斯ふなつて仕舞つた今更取りかえしがつかぬのか、成る様に任せるさ」とケイは氣休めを言ふと、女は「ホントウでせうネ、ならよいけれ共……」と言ひながら亦ケイに向つて挑んで来た。ケイは最ふ疲れ切つて、夫を拒む事も、應ずる事も出来なくなつて居た、そしてウツラ／＼と一時間ばかりすぎた……此の時ケイの頭をかすめて電光の様に見えるものがあつた、夫は、明日機械屋との交渉の事やら、又色々な仕事のことであつた「斯うしちや居られぬ、歸えらう之以上深入りしては大變だ」と冷たい理性がケイを促した。「オイ俺は腹が空いた、何處かめしでも喰ひに行かう、まだおでん屋位は起きているだらうから」と云ふと女は朝まで寝るやうに、そして朝になつたら一緒に飯を喰べることなど云つて頻りに引止めたが、ケイはもう餘りに執拗な此の女の態度にあき／＼して居た、いや逆も腹ペコでやり切れない、ぢや俺一人で待つてチヨット喰べて来るから、寝て待つて居れよ」と云つて飛起きて衣物を着始めると、女もまた床を出て「チヤ、ワタシも一緒に行きますわ」と云つてフツ／＼と起ち上つた、そして電氣を灯けて衣物を着始めた。

明るくなつた室の中に、浮いた女の顔の何とグロテスクなるよ、眼は凹んで髪は亂れて、頬がゲツソリ落ちて、お白粉が所崩けに削けて居るので、顔の筋肉がスツカリたるんで居る。そして縦に横に亂れ走つて居る大小の皺が目立つて見える。ケイは暗闇の方を向いて「ベツ……」と唾を吐ひた。

#### 四、其の他

各種風俗出版物に對する當局の取締は、年と共に周到を加へ、又出版業者側にも大量生産と配給組織の完成と共に依つて多種多様の出版物は、あらゆる階級層の中に最も廉價に持ち込まれるに至り、合法的出版の方法を以てしては所詮暴利を貪ること困難なる實狀となつた結果、秘密出版は依然として増加の傾向にある。秘密出版物の主たるものは春畫、淫本で、本年に入り地方長官に於て禁止差押をなしたるもの既に五十七件、前年同期の二十七件に比し實に三十件の増加である。

春畫に就いて見るに、從來の如き浮世繪木版刷などは殆んど影を消めて石版刷又は寫眞版等が之に代り、或は版縮などに於て撮影したる如き交際場面の寫眞などが著しく増加して来た。即ち小數の好事家を對象とする高價な逸品から、多量生産的な廉價なものへと漸次推移しつゝある。従つて中には、

#### 珍本と珍寫眞畫十種捕

- 秘 密 寫 眞 男も女も一度は見たと思ふ大珍品の秘寫眞。秘寫眞ほんとは何よりの秘樂じみ。
- 女 の ひ み つ 女も男も知らねばならぬ若い女の性〇を委しく解剖した大珍品。
- 紙 幣 形 珍 畫 裏は札形表は若い女の珍々は、一組ツツト財布の中へ。
- 珍 書 夜 明 迄 昔から有名な男女の情事の珍書一讀夢の如し。
- 男 女 の 秘 密 文句入の男女の珍書昔から有名な誰も一讀熱火の如き男女の戀物語り、二讀手に汗する如き場面ばかり。
- 男 女 秘 密 草 紙 情熱の如き男女の戀物語り、二讀手に汗する如き場面ばかり。
- 秘 密 ま じ ない 奥 傳 此の本一冊あれば男女戀のまじないや秘法がスグ覺えられ此上なき珍品。
- 男 女 生 殖 器 全 書 お娘に行く人、買ふ人も必ず知らねばならぬ事が一ツ一ツ繪で委く分る。
- 夜 の 玉 手 箱 夜の男女の情しい珍畫……美しい繪の様に書いて楽しい珍畫。
- 結 婚 の 當 夜 一生の中一番忘れられないはずかしい結婚夜の事をかくさず書いた本。
- 右の十品は完價金參圓 大割引壹圓にて投資す●前金注文はハガキで暗號「珍」送れと申込次第参圓半銭で密送す
- 御注文は此の新聞名を必ず御記入を願ひます

神田區錦町一ノ十二 昭 文 堂 書 院  
振替東京七九六五四

一枚の原板より順次複寫され甚だしく鮮明を缺ぐもの數多く見られる。若し夫れ其の種類に至つては、木版、石版、普通寫眞版の他、背寫眞、騰寫版刷等種々雑多に分れ、其の形式も繪葉書型、名刺型、トランプ型、熨斗ペーパー或はハンカチーフ、祝儀袋、紙幣型等の特異なものもある。ポーズは殆んど全部が交際の所作を主題とするが、中には強盜と夫人との交際場面の經過を數葉の連続ものにしたものなど變つたものが現はれる。

淫本に於ても、從來の如き版縮筆ものなどは漸次減退し、精巧なる活版印刷にて多量に生産し、裝幀なども整潔を極めたものがある。内容は、從來の有りふれたものを捨て、性交の方法、交際の技巧等の露骨なる描寫に傾き、其の表現の方法としては隨筆又は漫談の形式を取り概して創作ものが多い。これ等の多くは魔窟其の他の暗黒方面に於て取引されるが普通であるが、地方小新聞等に羊頭狗肉的の誇大廣告を掲げ地方人士を釣る通信販賣の方法も頻りに行はれる。今、その廣告の一例を掲ぐれば

一、長野新聞(十月五日)、靜岡新聞(十月四日)、其の他に掲載のもの、

東京市神田區錦町一ノ十二 昭 文 堂 書 院





取録上より見たる風俗関係出版物の傾向

一三	裸體婦人寫真(東洋の秘術ト題スル活)	京	一	枚	四月一日	
一四	裸體婦人寫真(動寫廣告ト題スル)	山	一	枚	四月四日	
一五	裸體婦人寫真(業書型)	京	三	枚	四月七日	
一六	裸體婦人寫真(業書型)	京	六	枚	四月七日	
一七	創作版畫(安室二十四考ノ一)	京	一	枚	四月八日	
一八	裸體少女寫真(業書型)	京	一	枚	四月九日	
一九	裸體婦人寫真(業書型)	京	四	枚	四月九日	
二〇	男女接吻寫真(業書型)	京	一	枚	同	
二一	男女接吻寫真(業書型)	京	一	枚	同	
二二	「白探の洗濯」ト題スル	京	一	枚	四月二十日	
二三	裸體婦人寫真(業書型)	京	一	枚	四月二十五日	
二四	裸體婦人寫真(業書型)	京	六	枚	四月二十六日	
二五	「名優映倫情熱シーン」	京	一	組	五月二日	
二六	裸體婦人寫真(業書型)	山	形	四	枚	五月一日
二七	裸體婦人寫真	新	湯	一	枚	五月一日

二八	裸體婦人寫真(業書型)	京	都	一	組	五月十三日
二九	「交尾セル馬ノ寫真アル」	京	同	一	組	同
三〇	「珍好子謂是交尾蛇云々」	京	同	一	枚	五月十六日
三一	「ト物シタル繪畫(業書型)」	京	同	一	枚	同
三二	裸體婦人寫真(業書型)	京	知	一	枚	五月十七日
三三	裸體婦人寫真(業書型)	京	山	二	枚	六月十日
三四	裸體婦人寫真(業書型)	京	同	二	枚	六月十日
三五	裸體婦人寫真(業書型)	京	分	一	枚	六月十六日
三六	名刺型繪畫	大	分	二	枚	六月十七日
三七	裸體婦人寫真(業書型)	京	同	一	枚	六月十九日
三八	男女接吻寫真	京	同	二	枚	六月二十日
三九	男女接吻寫真	京	同	六	枚	六月二十三日
四〇	裸體婦人寫真	京	同	一	枚	同
四一	「モデル」ト題スル	京	都	二	枚	六月二十四日
四二	裸體婦人寫真(名刺型)	京	同	一	枚	六月二十五日
四三	「裸體婦人寫真」	兵	庫	二	組	同

のと、性具等の廣告用のもとのがある。左に本年に入つて禁止を受けたものを列挙すれば次の如くである。

風俗禁止廣告ポスター調

題名	発行地	種類	枚数	発分月日
一 「販賣品目録」ト題スル廣告(内容遊艇、子官機等)	東京	一	枚	一月十八日
二 「ゴム入り猿股」廣告(裸體男女繪畫アルモノ)	茨城	一	枚	五月二十二日
三 活動寫真ポスター(男女接吻入繪アルモノ)	東京	二	枚	七月十日
四 通信教授 接吻學 内容見本	東京	一	枚	七月二十一日
五 廣告印刷物(「多量經驗上の秘法」ト題シ性的顯音保護具)名刺型)廣告印刷物ニ添加セルモノ)	東京	一	枚	八月十二日
六 廣告印刷物(「新案特許顯音、性的顯音保護具」型及び説明)ト題ス	東京	一	枚	八月十二日

取録上より見たる風俗関係出版物の傾向

四四	男女接吻寫真(業書型)	神	奈	川	一	枚	六月二十六日
四五	豪華飾ト題スル印刷物	山	口	一	枚	七月八日	
四六	裸體婦人寫真(業書型)	香	川	一	枚	七月十八日	
四七	男女接吻寫真(業書型)	和	歌	山	一	枚	七月十八日
四八	裸體婦人寫真(業書型)	和	歌	山	一	枚	七月十八日
四九	裸體婦人寫真(業書型)	和	歌	山	一	枚	七月十八日
五〇	男女接吻寫真(業書型)	和	歌	山	一	枚	七月十八日
五一	裸體婦人寫真	岐	阜	一	枚	八月十三日	
五二	裸體婦人寫真(業書型)	京	都	一	枚	八月十九日	
五三	裸體婦人寫真(業書型)	京	都	一	枚	八月十九日	
五四	風俗資料研究第二輯附録	京	都	一	組	八月十九日	
五五	浮世繪の表情美	東	京	一	部	九月十日	
五六	浮世繪の表情美(紅風の巻)	東	京	一	部	九月十日	

廣告ポスターの中には、大體書籍の内容紹介の爲にするも

二六ノ一五七

取組上より見たる風俗關係出版物の傾向

- 一 廣告用印刷物
- 二 生産器、種畜具、(型錄及)
- 三 西成、海防、三〇、香地、仁安
- 四 名、ア、ル、モ、ノ
- 五 大阪 一枚 八月三十日
- 六 東京 一部 九月十二日
- 七 女見物普及版内容見本
- 八 「好機を逃すれば損です」
- 九 「珍本購置會々則」ト題スル
- 「併つれづれ案内」ト題スル

以上

二六ノ一五八

### 外國左翼雜誌論文概観

英國

ザ・コムニニスト・インタナショナル  
The Communist International

(九月十五日第七卷第二號)

一、英吉利共産黨内の情勢

英國共産黨はデーリー・ワーカー紙を發行し毛織工大ストライキを獨自に指導し、印度の民族革命運動の精力的支持三月六日、五月一日、八月一日闘争に大衆示威を組織した。その功績は明白である然るにも拘らず率直に言へば黨の大衆活動は客觀的状態の好望なるに比し極めて弱かつた。經濟恐慌、資本の攻勢、大衆の急進化の増大等にも拘らず重要な地方に於て黨員は減少した。労働黨政府によつて新たに百萬の失業者が街頭に投げ出されたに拘らず小數派運動は衰微しデーリーワーカー紙の發行数は減少し、共産青年同盟は消滅の狀態にある。ストライキ運動の増加し労働者の反對攻撃が開始され、植民地に於ける民族革命運動は高潮に達し労働大衆が急速に陛下の労働黨政府及び組合官僚に對する信仰を喪失しつゝある時に何故かゝる情勢に陥つてゐるのか？それ

外國左翼雜誌論文概観

二五ノ一五九

は階級對階級なるスローガンの下に戦はれてゐる闘争方針に基く工場、職業紹介所の大衆の中に於ける日常活動が正しくないからである。新しい情勢に適應する黨の革命的方法に反對する右翼的傾向に對する闘争は缺く可らざるものであるが廣く存在してゐる「左翼」宗派主義の傾向に對する決定的闘争が必要である。「左翼」宗派主義者は(一)新方針の實行を以て統一戦線戰術の拋棄と解釋し(二)經濟闘争に於ける獨自的指導といふことを組合内の組織活動拋棄なりと見做し(三)無味乾燥な一般的政治スローガンを繰返して大衆内の實際的活動と置換へ又は適宜な部分的な政治的要求を提出することと置き換へた。共産黨及び小數派運動は今後工場、組合支部協同組合内に於て労働者チャーターを作り出すべく凡ての機會と全精力を以て活動せねばならない。之は黨のものを押し付けるのではなく集會の中から作り出されたものでなければならぬ。百年前の革命的なチャーチスト運動が行つた傳統的方法を採用して大衆の署名蒐集をなすことも煽動のよい方法である。小數派運動の組合、工場内に於けるスローガンは、「官僚を追ひ出せ」「組合デモクラシーの爲めに戦へ」等々でなければならぬ。共産青年同盟に關しては我々は毛織工大ス

外國左翼雜誌論文概観

トライキの際青年労働者が戦闘的精神を發揮した充分の證據を持つてゐる。労働青年少女獲得は可能か？疑ひのない所である。唯青年に對する適當な政策、活動方法を採らなかつたが故に同盟に参加した青年が直ぐに去つて了つたのである。

ザ・レーバー・マンズリー (十月號)

(一、月評(全労働者の前途))

本月は英帝國會議、労働黨大會、開會會議等大仕掛けの振れ出しの全系列が前面に持出された。已にノッティンガムの労働組合大會は英帝國會議の下準備に變化してゐる。労働黨及労働組合大會が全労働者の要求を鎮壓して信頼を喪失してゐる際我々は労働者チャーターを以て大衆の直接の要求に基礎を置いた新闘争を展開し労働者獨裁に向はねばならない。

一、ノッティンガム労働組合大會 (ハリ・ポット)

本年のノッティンガムに於ける労働組合大會の右翼化、反動化は甚大なものであつた。保守黨の樹右から、凡ての資本家的日刊新聞が一齊に労働組合大會の見事な統制と温健な精神の勝利を祝福した。大會は、産業合理化、英帝國經濟統一案、家族手當廢止、モンド主義等に於て完全に二三年前の大會に於ける約束を忘却し大衆を資本家支配の下に従屬せしめた。但し大衆が組合大會の官僚のかゝる指導に反對の要求をもつ

二六〇一六〇

てゐることは例へば産業合理化に關して労働條件の劣悪化を防止する決議を通過したことによつても知ることが出来る。

一、労働黨大會の意味

本年の労働黨大會に於ては黨員の非常な不満、労働黨政府に對する不満足が擴がつてゐた。多くの決議は暗い反抗を示してゐるが、組織された意識的反抗になつてゐない。黨員が最も興奮させられた最大の問題となつた失業問題に關する四五の決議と廿九の修正とは各地方労働黨から提出されそれは種々雑多で矛盾に満ちたものが多いのであるがそれにも拘らず一つとして政府の政策を支持したものはない。労働組合及び争議法反對の八箇の決議中には強い言葉が入つてゐる。他の諸決議は政府の印度政策を批評し、自由黨労働黨提携を非難し、デーリー・ヘラルド紙を攻撃したものである。之等の決議にあらはれた不満は尤もであるが彼等は政府及び執行委員會が労働者の爲めに何事か爲すものと考へてゐる。決議のどれもが、政府を反労働階級であるとして非難し又労働者に政府と戦ふことを要求したものはない。労働黨會議の構成は反帝國同盟、ソヴェト友の會に屬する戰闘的労働者を除き肝腎の實際的決議通過には地方常任幹事其他項目の官僚等によつて緊密に統制されてゐる者によつて遂行される様になつて居て全く外観文書のデモクラシーになつて居る。獨立労働黨の決議には何等政府を直接に非難したものはない。労働

黨は労働者を裏切る所の完全な資本家の第三黨となつて愈保守黨と何等異なる所なくなつた。會議は下度經濟危機の真中、政治的危機の始めに當つて開催され政府及び労働組合大會の保護政策への轉向を示したのである。今や英國は、自由通商の基礎の上に組織された舊い産業獨占が最早や復歸しない爲めに、關稅戰爭に突入せねばならない。英國資本主義はそれ以外には進み得ない。労働黨政府が英國資本家のこの要求に率仕することは決定的な事實となつてゐる労働階級は労働黨の内外を問はず反對闘争の組織をなし此の新裏切と戦ふ爲めに強力とならねばならない。

二、戦下の瀋洲

ヒュー・ゴードン

瀋洲は他の諸自治領と同様に英國銀行の完全な支配下にある。瀋洲は土着人の壓迫乃至部分的或は完全な追放といふ問題を除いて他の諸自治領と共に英國資本主義の完全な延長である。然しそれは少くとも二つの特異な現象を帯びてゐる。第一は瀋洲發展の爲めの資本は殆んど全く首都、英國によつて支給された。之は瀋洲が資本に對する利子を支出せねばならず、英國資本に依つて瀋洲に課された買物となることを意味する。次に瀋洲にはカナダ、ニュージーランド、南アフリカと同じく資本の處女地であつた爲めに英本國と異り封建的殘存物に支拂ふ餘剩價值の分前を必要としなかつた。又封建的遺制がなかつた爲めに他方英國に於て存した如きプロレタ

外國左翼雜誌論文概観

二六〇一六一

リア化された農民、職人、それ等は封建制度破壊の結果生ずるものである。無限の供給がなかつた。瀋洲資本主義發展の爲めには凡ての労働力供給には土人を除いては移民に依らねばならなかつた。そして労働力の絶えざる缺乏、非常に好條件な労働賃銀が存してゐた。移民は數ヶ月の後耕作地面を買収し得る貯蓄が出来た。此の状態は實際現在まで續いた。瀋洲に於ける労働者の生活標準の高位には今一つの理由がある即ち社會的、政治的の傳統がなく、舊支配形態の殘存物がない爲め有階級が少く行政上の出費も少かつた。更に又封建主義の如き反對組織がなかつたことは大きな原因である。労働者は政府に與つて國家社會主義理論の特別の基礎が出来た。然しかく瀋洲資本主義が労働者に高く支拂つたといふことは必ずしもその間労働者がその爲めに闘争しなかつたと言ふ意味ではない。唯その資本主義がそれを與へることが出来たといふことを示すのである。かくて瀋洲に於ける労働者の政治への干渉は全く資本主義的であつた。ブルジョアジはこの政治現象をさして「理想的に死と稱する。然るに瀋洲の如き資本主義發展途上の労働者の購買力は非常に高く、大きな輸入を呼び起した。輸入に對して支拂ふべき公債が契約された。この公債の利子を拂ふ爲めに更に公債が契約されねばならない。同時に國內産業を起し、輸入を減少する爲めに益高い關稅が置かれた一九二八年十二月の

「コノミスト誌によれば、外債が大になれば輸入が大になり輸入が増せば關稅障壁は高くなつた。そして生活水準の高騰、實質賃銀の下落、政府の費用の増加、對外負債の増加」である。かくて波蘭の毛織物と小麦の價格が下落し初め、世界經濟恐慌に卷込まれ英國金融資本の利益がおびやかされるや波蘭労働黨政府の首相スカリン氏は忽ち英蘭銀行代表者オット卿に屈しその經濟上の一切の命令を強ひられるに至つた。

「ソヴェト聯邦に於ける新制憲法」ト、トマス・ハート・ソヴェト聯邦に於ける民族問題」ト、スターリンの演説の一部分でソヴェト聯邦に於ける民族と文化問題に關し述べたものである。

「労働の世界」

「ニューリター」

「New Tactics」

「労働黨への投票」

「労働黨の成功は歐洲諸國を驚かせた。此兩黨には共通性がある。即ちスローガンに於ては平和條約 (Peace and Democracy) の排撃民主主義共和國反對を掲げ黨の傾向は暴力的であり青年黨員よりなり俄然として擡頭したものである。

此投票の背後には經濟的感情的原因が潜伏して居る。獨逸國民は總べて國家的屈辱と憤怒の感情を抱いて居る。ライン地方の事件やダンテヒコリアの不平は國民の頭に刻まれて居る。獨逸を狭む佛蘭西、波蘭が斯様な選挙の結果に導かれたのである。國際聯盟も亦一半の責を負ふべきである。軍艦會議も獨逸が自國に軍縮せしめた諸國の僞善に反對するに至つて漸く開かれ而も隣國は武力を以て獨逸を包圍して居る。而して國際聯盟の民族自決主義も亦影響を齎した。國際聯盟の力を藉りて波蘭人は自國の獨逸人を虐待しその結果將來戦争を起す虞のある状態である。彼等は封建制度の打倒を口實に土地法を制定して獨逸人の土地を沒收してそれを内國移民策によりて波蘭人に譲與して居る。波蘭は殘酷なクロムウェル政策を採り自國に於ける獨逸人の人口を潰滅せしめ自國民の増殖を計畫して居る。

「波蘭に於ける勢力ある辯護士で常に法廷に於て獨逸人に有效なる辯護をした。それ故波蘭黨は「彼は國家に對して不忠にして虚偽の宣傳をなす者である」との口實の下に彼の辯護士としての生計を奪取した。それ故彼は國際聯盟に訴状を提出したが敗訴に終つた。併し同氏は何等の不實なる證據は無かつた。而も遂に生計を奪取し國外に放逐された。國際聯盟はかかる新國家に對して監督を制限するべきでない。彼等を益横暴に導くものである。伊太利の支配

下にある獨逸人、スラブ人も同様な迫害を受けて居る。國際聯盟は戦争の發芽の不平を殺利する點に於いて失敗して居る。若し此迫害の少數民に公平なる生存權を與へなければ何時かはベルサイユ條約に於て引かれた地圖を覆さず時機が来るであらう。斯様な冒險的企圖こそ今度の選挙に於て千百萬に達する革命的投票を得せしめたのである。

同誌 九月二十六日

一、失業救済の爲め何故工事を起さなかつたか

戦前の産業豫備軍は六パーセントに過ぎなかつたが現今に於ては二〇パーセントを突破した。生産統制は行はれたが一方餓死線に迫る失業者は續出し分配問題は何等解決されな

者、節約家の抗議の爲に地方議員はその實施を遠慮するであらう。建築労働聯盟は有效なる與論の喚起の爲に立たんとし居る。我等は各都市に家屋問題に興味を持つ人々を以て家屋測量評議會を組織して貧民窟の現状を公開して與論に訴へて地方官廳を強制的に之に着手する爲に努力するものである。

「労働黨と自由黨の提携」

「ロイド・ジョージ」氏はストウマーケットに於ける演説中政府を「自己満足と頑迷」との故を以て攻撃したが兩黨の提携が崩壊したのではなくて選挙方法の改革が得られるならば國家政策に於て提携の好意を示したのである。自由黨も労働黨も選挙が早期ならば不利益である若し兩黨の同意が缺けたならば保守黨の十月説が有力になる。併し二月又は三月初旬が十月よりも都合である。而してロイド・ジョージ氏が之に對して決定的な鍵を握つて居る。

保健大臣は該法に關する通牒及び指令を地方官廳に發した

英國農業の窮狀は周知の事であるが外麥の輸入禁止及び小麦消費税賦課も何等救済手段とならない。大量收穫の麥が農夫を窮乏せしめ失業労働者は餓死に追はれて居る。安價の外麥輸入によりて農民以外の者は有利である。

「有效なる農業政策の緊急事として労働者の一般的減給による不況打開策が強調された。彼等は既に人間としての生活程度より追はれ今若し減給せられるならば餓死する他途ない

であらう。此困難なる問題は農業の國營化によつて解決される。之に對して労働黨は多大の注意を拂つて計畫を立てた。何故アデツン博士は黨綱領に決定された處に従つて、農業國營案を政府の利益の爲に提出しないのであるか。

同誌 十月三日

New Leader

現今に於ける社會主義の辨明 D. H. コール  
産業合理化に依つて壓倒的多数の失業群が續出した。而して此は一時的不況打開策としてでなく資本家の永久的の政策と化した。

而も將來失業問題解決の曙光すら見えない有様である。資本家は生産費の低下の爲減給を以て労働階級に迫り自己生産品の顧客たる我階級の消費力を制奪し去つた。此處に需供の矛盾が発生するのである。彼等は生産利潤に没頭し失業者の生活支持の責任を社會に轉嫁する。元來社會は構成員全體の福祉を目標としなければならぬものである。

現制度に於ける社會政策的姑息手段は多少失業防止をなし融和的役割を演ずるが何等其處には解決のヒントは存しない故に資本主義制度に於ては此の問題に對する救済手段は封鎖されて居る。私は此の唯一の解決の鍵は社會主義に依りてのみ與へられるとする——即ち總ゆる産業部門の公的統制に依

りて——若し之に依らざらんか資本家の搾取益、横暴を極め減給の嵐は吹き捲り失業群の續出を見その結果長き逆境により労働運動も衰微して行く他ない次第である。此處に於て私は社會主義のみ現在の窮境より脱せしめるものであると叫ぶものである。

帝國議會は英本國と領土との交互の貿易の困難なる問題を審議する豫定である。屬領地は原料と工業生産物とを交易する事を希望しないのである。漢洲及びカナダの兩國は自國産業發達の爲保護貿易政策を採用して居る。英本國は食糧の供給を領土よりのみ買入れると決定する事は本國としては現狀より見れば重大なる問題である。貿易協定の三分の二は英帝國以外の對外貿易であり屬領地よりの食糧輸入政策は英國貿易上重大なる結果に導くであらう。本國、屬領地との間の貿易は望ましいが帝國主義の上に立つ大英帝國から見れば此の貿易問題は解決の見込はない。

貿易會議の議長ウイリアム・グランドは意味深い演説をなした。過去十年間我々等國民一千萬の収入は年に七億磅づゝ減少して來たが國家収入は約四十億磅を上下して居る。此は即ち此十年間の未曾有の不景氣は國家収入の富者への收得は増加し反對に貧民への所得は減少した事を示して居る。

一、價格が暴落する

商品價格は暴落してその最低水準に達したと述べてグラハム氏は景氣は間もなく回復するだらうと強調し、此の回復方法として犠牲を拂つて社會の全階級が各自の消費經濟の建直しをなすべきことを提唱した。併し氏は國家收入の分配を無視して居る。年七億磅に達する減給は強制的犠牲を無産階級に負はして居る。何故ブルジョア階級に課税して強制的に彼等の消費經濟の建直しをしないのか？此方法が最も簡単に迅速に目的を達せしめるであらう。

二、労働問題に關する

労働黨は没落しつつある資本主義に當面して居る、即ち五人中一人の割合で失業者を出し減給は一般的現象となり好景氣の見込は封せられた。組閣來六ヶ月労働者困窮の度は益増した。而して失業防止の救済は絶望となつた。

(一) 災難の豫想 失業者は過去一年間に百萬出し今年末には二百五十萬を突破するだらうと豫想されて居る。オスワルド・モズレイ氏の辭職した事件によつてトーマス氏がその役へ轉任し失業問題の機關の再組織が行はれた。絶望の擧句政府は保守黨及自由黨の黨首と提擧して國家計畫を實行せんとしたが保守黨は總選舉に於て非難を免るゝ爲に拒絶した。自由黨主ロイドジョージは比例代表を得る爲に提擧に同意し機をねらつて労働黨政府を打倒し、失業問題の失敗に終つたのは

外國左翼雜誌論文概観

二六ノ二六五

スィーデン氏が起債を拒絶した爲である。と選舉人に公開するであらう。

(二) 成敗ある政策 労働黨は現政策を支持して行くならば選挙上の災難を受けるであらう。今假りに明日總選舉ならば少くとも五十乃至六十の代議士を失ふだらうし一年後ならば約百の代議士を失ふだらう。併し現今に於ても政策轉換は必しも遅くはない。若し國民經濟危機を確認して斷乎たる提案の下に保守黨自由黨に挑戦するならば地位は未だ安定するだらう。而して補缺選舉に於ても多数を占め得るであらう。

(三) 政策の變更 第一に長期の政權獲得の爲多数投票を握る方法を案出した。即ち立法に於て強腰的態度を取る事。第二に労働階級に緊急なる立法をなす事、失業者の減少を見なければ彼等の労働黨支持は弱くなる。

(四) 誤認せる考察 多くの労働組合代表は運命的に何等の批判なく労働黨を支持して居る。故に労働黨政府打倒を希望して居ないと云ふ誤認がある。併し獨逸に於ては労働黨と政策、立場を同じうする社民黨が優勢であるが議會主義の不信用から起つた共產黨及び國粹黨の目ざましい進展を見た。英國はかかる經歷をとならないと云ふ迷想を破つて既に衰弱せる議會主義に反對する發芽が存して居る。

(五)警告 若し政策轉換を断行しないならば労働階級は労働黨を次の総選挙に於て支持しないだらう。彼等は自由黨にも保守黨にも投票するものでなく又労働黨にも愛想を盡かして投票しないであらう。此の際をねらつて共産黨、國粹黨の飛躍を見るかも知れない。併し我等が建設的能力に邁進するならば此の危機を一大社會主義的進軍となし得るであらう。労働黨は来るべき社會主義の爲の一機關となるか、或は此危機に際して没落するであらうか？之は来るべきライド、ユート、會議の結果次第である。

獨逸

デイ・コンムニスティッシュ・インターナショナル  
ナチヨナール  
Die Kommunistische Internationale  
(九月三日第三十二、三十三號)

一、ルール地方に於ける階級闘争と獨逸共産黨の任務  
ルール地方——獨逸に於ける工業の中心地——は今日獨逸に於ける階級闘争の重要地點である。最近同地に於て五萬の金屬労働者が罷業を行ひ、同じ時期に數十萬の鑛山労働者が罷業闘争を決定した。

て經濟的性質を有するものであるが——獨逸に於ける資本主義の危機と階級對立の尖鋭化を反映するものである。而してルール地方に於ける労働者の攻撃的資本に對する闘争への第一歩たる罷業は唯共産黨及革命的労働組合反對派に依つてのみ組織せられ、實行せられ得るのである。されば我等は同地方に於ける罷業準備のボルシェヴィキ的方法として活潑なる活動、統制及自己批判の方法が推議されねばならない。先づ中央闘争指導部及各區闘争指導部の活動は、廣汎なる労働大衆を納得せしめるだけの確實なものでなければならぬ。中央闘争指導部は更に下級指導部を造り、後者は直接革命的

大衆を召集し、且つ之を指揮せねばならない。我等のスローガンは罷業準備の爲に一日も忽せにするなど云ふことである。此のボルシェヴィキ的テンポは上からの統制が確實に行はるゝ場合に於てのみ實現せられ得る。されば共産黨支部の指導者及中央闘争指導部は、各罷業地間の結合及細胞、闘争指導部との連絡を組織的に維持し、且つ罷業準備の足らざる點を摘發し、清算し、補足する指導機關を造らねばならない。而して是等ボルシェヴィキ的テンポは、共産黨ルール地方支部及労働組合反對派がボルシェヴィキ的の自己批判を爲すことに依つて初めて實現し得られるのである。然し此の自己批判は過去の闘争を顧みて爲す批判ではなくして、現在の闘争の進行中に於て其の誤謬を却却し、大衆を動

具する爲の有効なる手段である。

若しルール地方の同志が斯くの如きボルシェヴィキ的テンポを實行し得るならば、ルール罷業の準備が、獨り輝かしい罷業の勝利を招来するのみならず、全黨機關のボルシェヴィキ化に新しい確乎たる歩武を進めることになるであらう。

- 一、下からの統一戦線の爲に (A. フォカグラー)
- 一、佛蘭西に於ける社會保險法反對闘争 (R. R.)
- 一、英國共産黨の情勢 (ウィリアム・ルスト)

同

誌 (九月十日第三十四號)

一、印度に於ける階級運動概観 (W. モイロフ)

最近開かれた全歐洲共産黨婦人會議は専ら労働婦人間に於ける活動方法を審議したが、然し其れは將來積極的活動方法を實行せられんことを望むと云ふ單なる希望に過ぎなかつた。

段たらしめなければならぬ。

此の大衆團體は地方労働婦人大衆を獲得する優れたる形式であるが、大衆活動の問題に就ては此の外凡ゆる方法を利用して、大衆の間の活動を統制しなければならぬ。之と關聯して我等は共産主義團體に於ける固有の保守主義を克服することに注意せねばならない。

- 一、コンメンテルン執行委員會ポランド委員會に於ける演説 (E. レンスキー)

同

誌 (九月十七日第三十五號)

一、歴史的選擧  
九月十四日の獨逸國會總選挙は歴史的意義を有して居る。即ち該選挙は世界經濟恐慌の發展過程に於ける最初の段階の政治的貸借對照表であり、且つ歐洲に於ける資本主義安定の動搖に強力なる衝動を與へ、以て獨逸に於ける労働大衆の階級闘争及革命運動が如何に速かなる發展過程を進みつつあるかを示すものである。

四百五十萬の選挙人が我が共産黨、即ちプロレタリア獨裁の黨の爲に味方した。此の事實は、凡そ四百萬の工業労働者(就職者及失業者)が共産黨の旗の下にソヴェート獨逸を戦ひ取らんが爲の示威運動である。一九二四年五月の總選挙には當時大戦後恐慌の時代であつたにも拘らず、共産黨の得票は

凡そ百萬に過ぎなかつた。然るに前同一九二八年の總選挙には三十五パーセントの増加を見、殊に西獨逸の工業地域に於ては四十四パーセントの増加を示した。...

されば我が共産黨今後の最も重要な任務は、一方に於てはソヴェート聯邦の歴史的経験に依り、他方に於てはポーランド及イタリイの経験に基き、即ちプロレタリア獨裁及ファシズム獨裁の経験に基いて、大衆にプロレタリア獨裁及ソヴェート政權獲得の爲の闘争以外にはヴェルサイユ條約及ヤング案の鎖から逃れることは出来ないことと云ふことを知らしめることである。...

られて居る。共産黨は革命的労働組合運動の独自の機關を造る可き任務を負ふものなるが、此の機關の第一の組織的支點を農民プロレタリアートの中に置かねばならない。...

一、社會ファシズムの統一戰線
本文は今回の獨逸に於ける總選挙に於て政府當局ブルジョアジイは社會ファシズムと提携し統一戰線を造つたと述べ、斯る情勢の下に於ては、今尙社民黨の勢力下にある労働大衆を革命的指導の下に引き入れ、以つて廣汎なる革命的統一戰線を造ることが最も重要な任務であると主張する。...

「デイ・インターナショナル」

(九月一日第十七號)

Die Internationale

一、ブルジョア諸黨内の分解作用と獨逸共産黨の攻勢
ブルジョア諸黨以下の獨逸ブルジョア諸黨は現下の經濟恐慌、政治的危機に當面して、ヒンデンブルグの政策を支持し、プロレタリア大衆を壓迫し、ファシズム獨裁の確立へ協力して居る。...

然るに最近に於けるプロレタリアートの階級意識の向上と、労働大衆の革命化とは是等諸黨内部の分解作用を醸成した。然し斯くの如く階級闘争が尖鋭化し、革命的戦線が強大となるに連れ、彼等諸黨は益々ブルジョアジイにとつて重要となる。...

の演説を講述したものとさへある。且つ選挙カンパニー今日までの経過は、労働階級の目覚め活動を示して居り、更に中産階級の、獨逸共産黨の政策及闘争目的に對する興味異常増大を物語つて居る。...

一、革命的階級闘争 (W. フロリン)
目下諸國に於て發展しつつある資本主義の危機はブルジョアジイの凡ゆる恢復手段にも拘らず益々深刻化しつつある。...

獨逸に於ける斯くの如き情勢は、經濟的罷業をして強度の政治的性質を帯ぶるに至らした。されば斯る情勢の下に於ける罷業は革命的労働組合反對派に依つて政治的に指導せられねばならない。之に關して最も重要なことは、プロレタリアートは現在の社會情勢の下に於ける政治的部分的要求を罷業の要求中に掲げ、罷業をして直ちに大衆罷業ならしめ、而して前述の政治的要求を此の大衆罷業の前景に押し出さねばならないと云ふことである。更に「政治的大衆罷業」のストロガンと關連して、プロレタリア獨裁の爲の闘争と云ふ最後のストロガンを一般的に強く理解せらるゝ様に宣傳せねばならぬ。此の際ソヴェトロシアの例を示して、プロレタリア獨裁のみが我々の最後の進道であると云ふことを教へねばならぬ。斯くして革命的労働組合反對派及共産黨は、プロレタリアートをして、團結することに依り大衆罷業を總罷業にまで發展し得る大衆勢力ならしめねばならない。

されば革命的労働組合反對派は各工場及労働組合に於ける指導權を確立することが必要であり、之が爲には先づ工場には革命的労働組合反對派の機關として忠實なる革命的團體を造り、労働組合には革命的反對派の理論的に強固なるフラクションを造り、其等の力を借りて労働大衆獲得の爲の闘争を行ひ、且つ罷業運動の準備を爲す可きである。

罷業の準備及其の實行に於て最も警戒す可きものは労働組

合幹部及彼等の罷業破り戦術にして、先づ是等に對する闘争を最も嚴格に戦はねばならない。それが爲には革命的反對派の爲に多數労働者を獲得し、罷業集會の行はるゝ場合は反對派を以つて之を占領し、革命的同志の演説を爲さしめ、罷業幹部選舉に於て同志の當選を計り、本組織労働者の支持を要求す可きである。更に國家機關のテロルに對する自衛團を造り罷業の貫徹を確保ならしめねばならない。

一、農業危機と農民プロレタリアート

(フランス、メリツク)

赤色労働組合「インターナショナル」第四回大會に於て農業及山林労働者の間の活動に關する決議中左の如き一節がある。「總ての資本主義諸國に於ける農民プロレタリアートに對する農業資本及財政資本の攻撃は次第に固執しつゝある農業危機に當面して益々鋭化して來た。此の資本の攻撃は改良主義的労働組合幹部の戦術に依つて支持せられて居る」

獨逸ブルジョアジエも今や農業危機に當面して其の解決策に迷つて居る。ミユラー及びブリューニング内閣の關稅政策、商業政策、補助金政策及農業立法等は農業危機解決の爲に農民プロレタリアートを犠牲に供せんとするものであると述べて獨逸ブルジョアジエの農民プロレタリアートに對する攻撃の尖鋭化を説き、之に對し共産黨は地方機關を造り村落に於けるボルンエヴィーキ運動を起さねばならないと論ずる。

同誌 (九月十五日第十八號)

一、資本主義的反對と革命的労働組合反對派

一、獨逸情勢を論ずる

(ハッペルベシエ)

獨逸に於ける經濟恐慌は益々深化するに従つて、ブルジョアジエの労働者農民階級に對する攻撃は益々鋭化して來た。彼等はプロレタリアートの犠牲に依つて此の恐慌より逃避せんとして居る。此の恐慌は今後益々深化するであらう。従つて新しい幾百萬の労働者は生産過程から追ひ出されるであらう。されば先づ失業労働者と就業労働者との緊密なる團結を造り資本主義的攻撃の勢力を殺ぎ、革命的反對派の黨員は各職場に於て積極的活動をなし、國粹社會黨のデマゴグに反對して其の勢力を撃破せねばならない。

共産主義工場細胞は工場に於ける總ての革命的労働者を工場内の一團體に組織し結合せねばならないが、此の際革命的工場新聞の讀者カードは黨員名簿の役目を果す。工場内の該革命團體は新しい黨員を勧誘し、闘争の爲に労働者を動員し、全工場に亘る革命的前衛團體を組織し、革命的反對派は絶えず是等諸團體を指揮統制せねばならない。此の際共産主義細胞は是等の諸團體内に融合せずして、飽くまで全工場の政治的指導者として止まる可きである。

革命的反對派は是等の諸勢力を結合してプロレタリアートの經濟闘争、即ち企業家の攻撃を破壊し、労働階級の反對を呼び起す爲に必要な罷業を組織せねばならない。罷業——賃銀値下反對、租稅反對、フランクス獨裁反對の爲の政治的大衆罷業——之れが我等の合言葉である。

一、革命的マルクス主義と國民解放の問題

(アレクサンダー・モーセル)

マルクス及エンゲルスは國民の概念及國民の提携に關し共産黨宣言中に於て「労働者は祖國を持たない。何人と雖も彼等の有せざるものを奪ふことは出来ない。プロレタリアートは先づ政治的支配權を獲得し、自己を國民階級に高め、自己を國民として構成するならば、假令ブルジョアジエの意義に於ては國民に非らずとするも、尙ほ其れ自身に於て既に國民である」と云つて居る。然しエンゲルスの謂ふプロレタリア獨裁の爲の革命は決して單なる國民的な革命を意味して居るのではない。即ちマルクス、エンゲルスの謂ふ共産主義的革命に於ては、プロレタリアートは祖國を有しない。是が國民解放問題に關するマルクス主義の根本觀念である。故に若しプロレタリアートに依つて國民的及地理的に制限せられたる革命が起された時は、其の革命の結果を國際的に他國にまで擴大されねばならない。さればマルクスは國民的革命を如何に理解したか、何人が斯る革命に於ける重要な戰士となる



ことが出来るか、及戦士とならねばならぬかを知ることは困難でない。即ち中世紀及近世初期に於ては農民及都市手工業者の人民解放運動であつたが、資本主義時代の今日に於ては國民解放の爲に全プロレタリアートを動員す可きである。社会革命を其の前提条件と爲す國民解放運動に付ても共産主義インターナショナルは革命的プロレタリア國際主義の傳統を主張する。

一、獨逸労働組合に於ける觀念的危機

(フリッツ・ゲイヒ)

本文は前號の結論にして、從來獨逸労働組合に於て最も勢力を有し、其の指導權を把握して居た改良主義が賃銀率の問題に關し其の反プロレタリア的性質を暴露し、次第に其の信頼を失ふに至つた。同時に他方に於ては革命的反対派の活動と組合員の階級意識とは次第に強大となり、爲に從來多くの組合を支配して居た改良主義的觀念は大なる危機に當面した。と述べ、最後に次の結論を掲げて居る。

此の觀念的危機、即ち獨逸労働組合の階級平和的イデオロギーの最後の崩壊は、革命的階級闘争の煽動の爲に、革命的前衛に依る獨逸労働階級の政治的闘争の指導の爲に、廣汎なる労働大衆を革命的労働組合反対派及共産黨の旗の下に召集する爲に最も都合よき土臺となる。

ユーゲントインターナショナル

Jugendinternationale

(十月發行第一號)

赤色労働組合インターナショナルに第五回大會は、革命的労働組合の活動を労働青年の組織化及青年の闘争指揮へ向けられねばならぬことを決議して次の如く言つて居る。

青年の間に於ける活動に關する第四回大會の決議は各國民共産主義青年同盟に依つて余り良く實行せられなかつた。經濟闘争に對する青年労働者の動員は甚だ不充分であり、革命的労働組合運動への青年の獲得も不充分であつた。現在に於ても青年労働者の役割を余り輕視して居る。而して此の過小の評價は經濟闘争の不充分の結果として居る。されば本大會決議の實行に關して最も重要な任務は、未組織労働者殊に青年労働者の組織化の爲に赤色労働組合全員が活潑なる活動をなし、彼等を罷業運動に引き入れ、其の優秀なる者を組合幹部に擁護することと云ふことである。

斯くの如く青年労働者に對する注意の増大せるは階級闘争の非常に尖鋭化する社會情勢の反映にして、又資本主義的合理化及世界經濟危機の深化に伴ひ、青年労働者の役割が向上し、且つ工業に於ける彼等の活動の意義が根本的に變化した

ことを示すものである。

而して第五回大會の決議を單に紙上の決議に止めず、之を現實に實行せんが爲には、各共産主義青年同盟は、プロレタリア青年への轉向の實行に關してプロフィンテルンを援助し、労働組合活動へ注意を向けねばならぬ。

革命的闘争契約 (Der Revolutionäre Wettkampfsvertrag)

は青年労働者の間の大衆カンパニヤをも包含す可きである。各共産主義青年同盟は此の二三月の間は其の活動を専ら經濟的、労働組合的活動に集注す可きであつて、其の際特に第三回大會の決議が青年男女労働者に良く理解されることに注意せねばならない。是れが爲には各工場に於て屢年労働者會議を開催して大會の決議を審議し、實際活動に關する討論を爲さねばならない。又我々は青年労働者大衆の獲得の爲にボルシェヴィキ的方法に依つて活動せねばならない。共産主義青年インターナショナルの労働組合カンパニヤは轉向の實行及青年労働者大衆獲得の爲の闘争に全力を集中せねばならない。即ち青年労働者大衆を組織し、之を現在の階級闘争に引き入れると云ふことが現在の組合活動に關する緊急課題である。

一、實際上の指導に於て (エ・マルチイク)

大にしては中央委員會より、小にしては工場細胞、街上細胞及各區團體に至るまで總てのセクションの現實的指導は、

外國左翼雜誌論文概観

二六ノ一七四

衆の批判なしには不可能である。自己批判のスコロガンは  
衆の道具とならねばならない。而して總ての共産主義青年は  
官僚的活動形式や指導者の宗派的排他性を非難し得る情勢と  
ならねばならない。

「インテルナチヨナル・フレツセ」  
「コレスボンデンツ」 (九月五日七十五號)

Internationale Presse Korrespondenz  
「世界恐慌經濟圖等及革命的労働組合運動の難任論」

本文は赤色労働組合「インターナショナル」第五回大會に於  
けるロソウスキーの演説中革命的労働組合運動の戦術に關す  
る部分で、前號の續編である。  
即ち赤色労働組合員は労働階級の日常利益の爲に闘争すべ  
きである。闘争に於て革命的諸團體は衆に選れてはならな  
い。必ず衆の前に起つて彼等を指導せねばならない。我等  
は闘争に於ては必ず労働衆に依つて選出せられたる強固な  
指導機關を造らねばならない。現在の情勢に鑑みて失業大  
衆を組織化し團結せしめねばならない。吾人は賃銀率契約に  
注意し、賃銀カンパニヤを起さねばならない。フランスの  
工場侵入を排せねばならない。我々の活動に際して、ファシ  
ズム反對闘争を社会フランスム反對闘争に結び付けねばなら  
ない。大衆獲得の最も重要な方法として下からの戦線統一

を計らねばならない。獨立の革命的諸團體を固定化すること  
は我々の最も重要な任務である。我々は合法的革命諸團體  
を強化し、革命的諸團體内に於ける活動は熱心と全エネルギー  
とを以て發展せしめねばならない。獨立の革命的諸團體の  
存せざる諸國に於ては凡ゆる努力を以て必ず労働組合反對派  
を造らねばならない。資本主義諸國及植民地に於ける労働階  
級の大部分を占める未組織労働者を組織せねばならない。  
階級カテゴリーの存続と共に新カテゴリーの設置を計らねばなら  
ない。新諸團體の設立は必ず階級闘争を其の基礎とせねばなら  
ない。工場内の活動に就ては革命的階級諸團體の強化  
及工場委員の活動の尖鋭化を計らねばならない。罷業闘争を  
國際化し、國際的結合を緊密にし、國際的職業團體の聯合を  
造らねばならない。植民地人民の闘争を現實的に支持し、帝  
國主義戦争に反對し、ソヴェート聯邦擁護の爲に戦はねばな  
らない等に就て論じて居る。

同誌 (九月三日第七十四號)

「獨立階級闘争に於ける階級的階級」 (G.K.)  
「獨立に於ける第十九回國際青年紀念日」 (E.L.ホルトマン)

來る九月七日獨逸に於て共産黨「インターナショナル」の旗  
の下に第十六回國際青年紀念日の爲に諸國労働青年の進軍を

行ふ。此の革命的プロレタリアートの第一回の闘争進軍は  
一九一五年慘虐なる人民殺し「世界大戦」の眞最中カール・リ  
ヒトフネヒトの指導の下に帝國主義戦争反對、労働青年の經  
濟的政治的撲殺的反抗、自由と社会主義の爲に行はれ  
た。今其の第十六回の進軍が行はんとして居るのであるが、獨  
逸に於ては目下選挙闘争が行はれて居り、労働青年大衆獲得  
の爲に烈しい闘争が行はれて居るが故に、此の第十六回國際  
青年紀念日は獨逸にとつて特に意義深きものがある。即ち本  
會議は選挙闘争に對して、共産主義及プロレタリア革命の爲  
の労働大衆獲得に對して最も強力なる刺激となるであらう。

「同志ヘツケルト」の演説

本文は赤色労働組合「インターナショナル」第五回大會に於  
けるヘツケルトの演説にして、罷業闘争の諸問題、闘争の政  
治化又は革命化、及び戦線統一戦術の三問題に就て論じたも  
ので、殊に經濟闘争のボルシェヴィキ化と戦線の革命的統  
一(未組織労働者の組織化をも含む)とを力説して居る。尙本  
文は未完にして次號に續編する。

「五ヶ年計畫第三年に關するソヴェート共産黨中  
央委員會の呼聲」

ソヴェート聯邦の五ヶ年計畫は本年十月一日より其の第三  
年目が開始せられる。此の時に當つてソヴェート共産黨中央  
委員會はソヴェート聯邦に於ける闘争、經濟諸機關及青年

共産主義に對し、五ヶ年計畫テンポの促進を呼び掛けた。本  
文は其の一部である。

同誌 (九月九日第七十六號)

「五ヶ年計畫第三年目プログラムの實現に傾注せよ」  
ソヴェート共産黨中央委員會の五ヶ年計畫第三年目に關す  
る呼掛にして前號の續編である。

「同志ヘツケルト」の演説

本文は赤色労働組合「インターナショナル」第五回大會に於  
けるヘツケルトの演説にして前號の續編である。本號に於て  
は、日和見主義に對する闘争、改良主義的諸團體内に於ける  
活動、改良主義的諸團體を如何にして侵略すべきか、組織勞  
働者、未組織労働者及労働者貴族のボルシェヴィキ化、革  
命的労働組合運動に於ける動搖、所謂客觀的困難に對する闘  
争、改良主義的反対派左翼言辭、労働婦人及青年プロレタリ  
アの間に於ける活動、農村に於ける活動、労働階級に對  
する社会的保護確立の爲の闘争、七時間労働制の爲の闘争、  
植民地及半植民地に於ける活動等の諸問題に就て論じて居る。

「植民地の論議」

モスコイ及ベルリンに於ける青年労働者の示威運動の状況

外國左翼雜誌論文概観

二六ノ一七五

外國左翼雜誌論文概観

に關する小報道。

一、獨逸に於ける選擧前の政治情勢

(ウエルネル・ヒルシニ)

一九二九年より三ヶ年に亘る獨逸ブルジョアジの政策は概括的に見て「ファシズム」及「社会ファシズム」の資本主義制度支持に依つて益強化して来た。即ち昨年の十二月國立銀行總裁シヤハトがヘルマン・ミュラーの社会民主主義に對して猛烈なる反對を試みたことに依つて、此のブルジョア政策の發展が開始せられた。ミュラー内閣はブルジョアジの意に迎合してヤング案に署名し、共産主義者彈壓の爲に共和政治擁護法を制定した。

然しブルジョア政策發展の氣運は遂に社民黨内閣を倒して右翼聯合に依るブリュンク内閣を組織せしめた。此の政治過程は從來の議會主義、ブルジョア民主主義の不充分なる支配方法から「ファシズム」獨裁の支配方法への過渡期を示すものである。而して此の新しい現段階に於て、從來資本主義の従僕たりし右翼が公然と其の表面に表はれ、決定的役割を演じ始めるに至つた。ブルジョアジは又政治的危機から革命的危機へ轉換せんことを虞れて労働階級に對し「ファシズム」諸團體を動員して居る。

同誌 (九月十二日第七十七號)

二六ノ一七六

一、國粹社會黨とは何ぞや

(ウエルネル・ヒルシニ)

ヒットラーの率ゆる國粹社會黨は其の社會的構成から見て先づ第一に小市民階級の基礎の上に立つて居る。然し其の外に労働階級、殊に從來舊ブルジョア諸政黨の選擧人であつた労働階級の中にも、相當多くの支持者を持つて居る。國粹社會黨の最初の隆盛は一九二二年の財界恐慌時代であつたが、間もなく財界の安定するに及び忽ち衰退し、數年の沈滞期を経て今日再び其の勢力を恢復し、獨逸に於ける「ファシズム」の主力軍たるに至つた。されば該國は、革命的プロレタリアト及共産主義を攻撃せんが爲にブルジョア諸政黨を脱退した大衆の集團となるであらう。國粹社會黨の成長は二重の意義を有して居る。即ち一方に於てはブルジョアジの闘争力は極端なる「ファシズム」の陣營内に集中せられ、爲に階級對立は益々鋭化し、其の結果として資本主義制度の危機を招來し、他方に於てはヒットラー黨が一時自己の味方に引き入れらるゝとの出來た大衆が國粹社會主義を率ゆるに至る結果資本主義制度は致に於ても亦危機に當面せざるを得なくなつた。

然らば國粹社會黨は資本主義に對して、如何なる態度を示すものであるか？ 彼等の外部の煽動に於ては労働者黨として資本主義に對抗するものであると宣言して居る。然しヒットラー自身は「我が獨逸に於ては全然資本主義制度は存立し獨逸選擧に於ける共産黨の勝利を述べたものである。」

同誌 (九月十九日第七十九號)

一、獨逸選擧と獨逸共産黨の任務

(フリッツ・ヘッケルト)

本文は九月十四日に行はれた獨逸選擧の結果を述べ、共産黨の大なる進出を祝し、次で、我が共産黨は今回の選擧から何を學ぶ可きかの問題を掲げて次の如く論じて居る。

二六ノ一七七

て居ない。企業家は自己の優秀なる地位に立つて活動して居るのである。即ち彼等は適者生存の淘汰原理に基いて指導的權利を有して居るのである。故に總ての經濟指導者は工場委員の容赦することを拒絶するであらう」と云うて居る。更に伯林の國粹社會黨指導者デューベルの發表せるプログラム中「生産手段の社會化は獨逸の如き工業國に於ては全然不可能である。斯る方法は猶太人風である」と云つて居る。又ヒットラーは或る機會に於て「國家社會主義労働黨は私有財産制の上に立つて居る」と宣言して居る。斯くの如く彼等は明かに社會主義共産主義を否定して居る。

彼等は資本主義に對して戦はんとする労働者黨なりとの言辭は果して其の實を伴ふや否やは最早多言を要せざる所である。

一、ソヴェト連邦の成果の二つ (H. カリーニ)

ソヴェト連邦に於いて失業者がなくなつたことを稱讚したるもの。

一、無定見なる「ラクション」運動に關するコメント

カイン頓行委員會政治部の決議「ルーマニア共産黨統一の恢復」

同誌 (九月十六日第七十八號)

一、獨逸選擧上の共産主義 (ウエルネル・ヒルシニ)

二六ノ一七七

外國左翼雜誌論文概観

者及赤色工場委員をプロレタリア階級の闘争機關に編入せねばならない。又今回の選挙に於ては、革命的大衆獲得の爲の共産黨、及び資本主義の爲の革命的勢力が未だ充分でないこと云ふことが明かにせられたれば今後共産黨は動議活動を盛にし、殊に階級闘争に於て次第に重要な役割を演じつゝある青年労働者及婦人労働者獲得の爲に注意を向けなければならない。是が爲には、従来稍もすれば輕視せられ勝てたのであるが、社会民主主義及キリスト教労働者の間に於ける共産主義活動を盛にせねばならない。

兎に角全世界の労働者は獨逸の選挙より、ソヴェト權力獲得の爲の闘争は労働大衆を激勵して共産主義進歩のテンポを急激に促進するものであると云ふ教訓を學び得た。

三、獨逸に於ける革命的危機の發展

本文は一九三〇年九月十六日「ブラウグ」の社説にして、獨逸選挙に於ける共産黨の勝利を稱讃し、此の現象を以つて獨逸に於ける革命的危機の成長なりとなし、以つて共産黨今後の活動を激勵し、其の結論に於て次の如く述べて居る。

「獨逸選挙を獨逸に於ける生長しつゝある階級闘争の切迫を徴するものである。ブルジョア階級は近づきつゝある革命をフアンシズム獨裁に依つて防禦せんと努力して居る。又選挙後獨逸の社会民主主義のフアンシズム化は更に急速なるテンポを以つて進行するであらう。

其に於て我等の友黨獨逸共産黨は幾百萬の獨逸プロレタリアート、及び半プロレタリア諸團體をボルシェヴィキ化し組織化し、以つて之を闘争にまで導き入れなければならないと云ふ重大なる歴史的任務を負ふに至つた。然し革命闘争十年の経験と獨逸共産黨のボルシェヴィキ的形態とは、獨逸共産黨は獨逸に於けるプロレタリア革命の指導者として此の歴史的役割を演ずるに適合して居ると云ふことを保證する。

獨逸に於けるプロレタリア闘争の前途たる獨逸共産黨萬歳

獨逸に於ける將來に來らんとするプロレタリア革命萬歳

同誌 (九月二十三日第八十號)

一、ソヴェト階級に於ける生活必需品供給に對する反革命的攻撃の防禦

一、獨逸に於ける選挙後の危機 (ノイバウエル)

獨逸経済恐慌は、去る九月十四日の選挙に於て明かにせられた如く、獨逸資本主義の政治的危機を惹起した。而して此の資本主義的階級支配の政治的危機は経済恐慌の進歩と共に益々鋭化せざるを得ない。

即ち當局の豫想を裏切つて失業者の数は益々増加し、工業商品の生産過剰は世界市場の深刻なる不況に陥されて益々のバランスを破り、輸出は次第に不利なる状態に陥り、獨逸の經

濟情勢は正に八方塞りの窮境に當面して居る。經濟恐慌の深刻化は火を見るよりも明かである故に於て資本主義階級は何等か新しき社会政策を必要とするに至つた。即ち彼等は選挙後更に攻勢的態度を以つて賃銀の値下げを斷行し、失業保險に制限を設け、一般の救済資金を節約せんとして居る。現在の情勢にして尙斯くの如くんば、労働階級の革命化の強化せんとする固より自然の趨勢なりと云はざるを得ない。故に於て獨逸資本主義の前途は實に暗澹たるものがあり、又獨逸フアンシズムの進出に依りて政權獲得の夢を見て居る獨逸財政資本家階級も亦、ヒットラー黨も尙共産主義の指導の下に進軍するプロレタリア階級運動を阻止することは出来ないと云ふ悲觀的事實を自覺せざるを得なくなつた。

一方に於てはヒットラーの國粹社会黨が、他方に於ては社会フアンシズムたる社民黨が、ボルシェヴィキより獨逸財政資本を擁護せんと努力して居る。一方ヒットラーが絕對合法的に、憲法の基礎に立つて政權を争はんと叫べば、他方社民黨はボルシェヴィズムに對抗し得る者は獨り我が黨あるのみと高調する。而して去る七月十八日僅かに十五名の多数を以つて其の餘命を運ぎ得た。ブリュンニング内閣も来る議會に於ては百六十一名の少数に依り當然互選す可く、然る時は獨逸財政資本家は國粹社会黨或は社会民主主義、其の何れに頼る可きかの問題に當面せざるを得ない。

然れども今後如何なる政黨が組織しやうとも、其の新政策は必然に財政資本家に依つて計畫せられる。其の結果賃銀値下、新大衆租税、新關稅、及び労働階級に對する新たなテロル等が該政綱の特色をなすものである。されば獨逸労働階級の直ちに準備せねばならない今後の闘争は過去に於けるよりも更に劇烈である。獨逸共産黨は之を豫見して、選挙の終りたる日既に労働大衆に向つて新しきより大なる奮闘を呼び掛けて居る國粹フアンシズム、社会フアンシズムに對する闘争の強化、賃銀とパンの爲の就職及失業労働者の動員と組織化の開始、労働中産階級に對する共産主義感化の擴大、被僱者官公吏大衆の共産主義的感化、獨逸労働大衆の政治的社會的解放の爲の共産主義的アジプロの強化、之れぞ選挙後に於ける獨逸共産黨の最も重要な任務である。

一、プロフィンテルン第五回大會とその國際的意義 (E・ユリツヒ)

今や資本主義社会危機の諸要素は益々發展し、資本主義諸國に於ける失業者は實に二千萬人を算して居る。而かも第二インターナショナルの理論的破産と労働運動の革命的高潮とは正に資本主義社会の最後の没落を暗示するものである。恰も此の時に當つて開かれたるプロフィンテルン第五回大會は從來よりも更に重要な國際的意義を有する本大會に於て審議せられたる議案は(1)労働大衆の獲得(2)フアンシズム、社会フ

外國左翼雜誌論文概観

アンズム及日和見主義に對するプロレタリア攻撃の組織化革命的労働組合運動の諸機關の設立と固定化の三問題に關するものがあつた。是等諸問題の審議は植民地人民の解放闘争及國際労働組合運動に關してプロフィンテルンが如何に重要な國際的意義を有して居るかを示すものである。

同誌 (九月二十六日)

一、五ヶ年計画第二年度の終了 (E. H. ウィノフ)

一、獨逸國運の清算 (カールラウテ)

ブルジョアジイは大眾の信任を失つた。之に反してファシズムは大勝を得た。是は如何に現在の資本主義制度に不満を懐いて居るかの證左である。然しファシスト黨は果して是等選挙人の希望を繋ぐに足る政黨であるか、次に共産黨は勝つた。眞に獨逸プロレタリアートを救ふ者は我が共産黨であるのみであるから、此の勝利は更に擴げられなければならない。さて選挙後の獨逸は如何になつて行くか。政權をめぐる政界の混亂は免れ得ない。されば共産黨は階級闘争を盛ならしめ選挙勝利を革命的大衆運動の基礎たらしめねばならないと説く。

一、世界恐慌經濟闘争及革命的労働組合運動の諸任務

本文はプロフィンテルン第五回大會に於けるロソウスキー及ヘツケルトの演説を採用した大會のテーゼである。其の内

容は本誌第七十三號及第七十四號等に發表せられたものと同様にして(1)世界資本主義の危機とプロレタリアートの情勢(2)經濟闘争の組織とプロレタリアートの反対(3)プロフィンテルン各國支部の狀態と其の活動(4)結論の章に分れて居る。

同誌 (九月三十日第八十二號)

一、國際社會主義運動上の獨逸ブルジョアジイの進路 (E. ノイバウエル)

總選挙の結果獨逸ブルジョアジイは社民黨或は國粹社會黨の何れに頼る可きかの問題に當面した。社民黨は選挙の結果敗退したが、此の不振は労働階級の覺醒から今後益甚しくなるであらう。されば獨逸ブルジョアジイは目下國粹社會黨に色目を使つて居る。最近共産主義活動に對する獨逸ブルジョアジイの極端なる彈壓は彼等のヒットラー進路を迫つて居る。即ち左であるに論じ、ファシズムに對するボルシェヴィキ運動の高潮を促して居る。

一、ソヴェト聯邦に對する經濟的の準備 (R. アウエルハイン)

佛國

在來の經過を吟味するに、黨の指導部は、次の二個を以て本質的な障害と認めてゐた。

右翼機會主義

左翼公式主義

然り、黨指導部は、右の二個を以て本質的な障害と確認し、其の立場は正しかつた而して、惜むべし、彼はその敵に對する闘争の敢行を躊躇してゐたのである。従つて又、黨指導部は、黨の眞正なる指導方針の援用に對する拒拒の粉碎に二方面の戦線が存在することを明確に認めてゐた。唯、彼は、その二個の戦線に於ける闘争に、全き黨を正確に動員することを敢てしなかつたのである。中略 二戦線の形相と黨指導部の過去に於ける對策

以上に述べた二個の戦線に於ける闘争は、黨の政策、黨の戰術、労働者大衆の闘争形態、労働者の組織の問題等々を下に於ける單一戦線の實現によつて啓示すべきであり、黨の總部門の正しき各員並に各階級の勝利を忍耐強く宣傳し、右の實現の必要を強説することに存する。各闘士は先づ第一に、最大限の注意と戦闘力を以て機會主義者並にその徒に對する峻厳な闘争を要求し、第二に、各種の誤謬並に宗派的誤述の修正を要求せねばならない。

カイエ・デュ・ボルシェヴィスム (九月)

Cahiers du Bolchevisme

一、1100戰線に於ける闘争 (論説)

フランス共産黨中央委員會は、その最近に於ける本會議に於て、黨が政策の實踐的援用乃至實現に就いて眞に危地を歩み來つたことを確認し、「黨の政策の援用乃至實現について眞實の方向轉換を敢行せよ。黨の大衆的行動の效果的改良につき決定的なる方向轉換を實現せよ」と聲明した何が中央委員會をしてかくの如き聲明をなさしめたか。それは中央委員會の所謂「黨の政策の正しき方向轉換」を妨礙する幾多の障害が黨の内外に存在すること久しく、一朝にして抜き難いものがあるからである。然らばその障害とは何であるか。此の間に對しては、黨の指導部が過去數ヶ月に亘つて繰返々々説明を試み來つた處である。而して去る五月、黨の各員に與へられた黨の政治的指令は次のやうに言つてゐる。「全黨員と全組織とに依り、確信を以て黨の眞正の指導方針を援用するためにする闘争は、とりもなをさず、日常闘争の實現に於ける機會主義に對する闘争であらねばならない。(中略) 機會主義の形態の說明) 吾人は機會主義に口實を與へる宗派的解體派乃至公式的解體派を峻厳に擊退すべく常に之を監視すると同時に、機會主義を假借なき直接行動によつて粉碎し去らねばならぬ

外國左翼雜誌論文概観

「ユマニテ」のために「マルセル・カシヤン」の「フランス共産黨の中央機關紙「ユマニテ」のために」フランス労働者は現在二個の使命を課せられてゐる。その一は、「ユマニテ」のために、至急五十萬フランの贈金をなすことであり、その二は、「ユマニテ」のために、本年一杯に二十萬人の讀者を擁護ひさせることである。フランスブルジョアはクルデネー反動内閣を最前線に立て、あらゆる卑劣な手段を弄しつゝ、全フランスのプロレタリアートと其の革命黨とに押壓を加へ、その重要なる武器、我等の「ユマニテ」は過重なる罰金並にB、O、P（労働農民銀行）の閉鎖後の資金難のため、至急五十萬フランの贈金が必要としてゐる。過去六週間の内に「ユマニテ」は二十五萬フラン、即ち全額の半分を獲得したのであるが、同志は更に奮發をなさねばならない。又「インタナショナル」はフランス共産黨に對して、一九三〇年末月まで「ユマニテ」の讀者を二十萬人に増加することを命じた。之は決して不可能事を企劃するものではないが、全プロレタリアートの組織的にして而も精力的な奮闘を必要とする事甚大である。仍つて我等は、「ユマニテ」防衛委員會を組織して此の事に當らうとしてゐる。全黨員の全幅的協力を望つてやまない。

一、第一號議の戦略 モリス・トレッツ  
プロレタリア革命黨の第一戦線は、社會民主主義乃至社會

フランスを除外すると同時に、その兩者に對する攻撃を遂行せねばならない。

- (イ) 社會黨幹部と社會主義労働者
  - (ロ) 組織問題
  - (ハ) 右翼及び左翼の誤謬
  - (ニ) 公開狀（共産黨並にその細胞、レイヨレ等は社會主義労働者に對して公開狀使用の方法を採るべきである）
- 一、少數の黨案書
- (イ) 第五回大會準備の怠業
  - (ロ) 大OGTUの内に小OGTUは存在しない。
  - (ハ) 黨中黨を成す機會主義者は不可
  - (ニ) 救済法社會保險法反對闘争の怠業
  - (イ) 佛魯の黨案書
  - (ロ) フランス帝國主義とイタリー帝國主義
  - (ハ) 北部アフリカに於ける摩擦點
  - (ニ) 兩國關係の緊張硬化
  - (ホ) サヴェエトロシア反對の戦争開始の危険
  - (ヘ) 社會愛國主義の議題

(ト) プロレタリアートの義務

一、獨逸國內のファシズム ウェルナー・ヒルシュ

一、獨逸した資本主義の階級と、ある社會主義

ラ・ヴィ・ウーヴェール (九月五日)

La Vie Ouvrière

一、十月十日

去る土曜日、OGTUは「ユマニテ」に、「黨は今、支持せられんことを待つ」と書いた。それはOGTUが十月の闘争にプロレタリア大衆の支持を期待してゐる現はれである。然らば何故十月と云ふか。労働大臣ラヴアルは、フランスブルジョアの命を受け、ソシヤル・ファシストの協力を得て、来る十月に、労働大衆の要求、殊に賃銀値上げ要求を一蹴し去らうとしてゐるからである。十月の闘争に備へよ。

一、OGTUの運動に於ける危機と共産黨の職務(未完)

OGTUの運動が危期に瀕してゐることは事實であるが、然らばその危期の中心は何處に在るか。OGTUの運動の不消滅は最近に於ける組合員數の減少に其の重要な一端を見る。即ち共産黨は此の弱點の補正をこそ急務とすべきであらう。

一、獨逸の總選舉

一、總選舉に對する獨逸の諸政黨とPOA(獨逸共産黨)のプログラム

外岡左翼雜誌論文選

一、事實上の實績は低下し生産費は向上す第一號議

を以て實績低下を問ひ掛け

同誌 (九月十二日)

一、革命的労働運動に對する少數者の怠業ありとも

一、OGTUの運動に於ける危機と共産黨の職務

一、支那サヴェエト會議

支那サヴェエト會議が来る十一月七日に開催される。全世界のプロレタリアートは支那に味方せねばならない。

同誌 (九月十九日)

一、プロレタリア防衛に全力を注げ

一、サヴェエト獨逸建設のために

一九三〇年九月十四日に行はれた獨逸總選舉の左翼的總決算

一、鐵道從業員大會と分黨の脅威

先日行なはれた巴里本部の鐵道從業員會合に、組合分裂の危機が濃厚になつてゐた。鐵道從業員大會は分裂を警戒せねばならない。

一、OGTUの全體的なカンパニー

OGTUは、十月、フランス全土に亘つて大々的な闘争を

二六ノ一八三

起し、ブルジョア階級の強硬に抗争するが、主要な集會の日場所及び主要辯士は次の通りである

- 十月七日 聖巴里
- 九月二十五日 リュー
- 九月二十五日 ブルストレ、ラカモン、デクレル
- 十月三日 ガンケル
- 同 ブルストン、ラカモン、ボレイエ
- 同 八日 トウロワイエ
- 同 テロベール、ジツトン、クニ
- 同 九日 リヨン
- 同 クラヴェリ、ラカモン、ブルト、ボレイエ
- 同 九日 サンカンタン
- 同 リンエツタ、クロアザ、サムベ
- 同 十日 サン・テイエニス
- 同 クラヴェリ、ブルト、セリエ
- 同 十日 マルセイユ
- 同 ラカモン、デムソア、クルツェボ
- 同 十四日 メツツ
- 同 モンムイソー、ジツトン、キルシュ
- 同 十四日 ボルドー
- 同 グールドー、シモナン、ヴリニョー

- 同 十五日 ナント
  - 同 クロアザ、テイロン、ミドル、ロツク
  - 同 十五日 ナンシー
  - 同 モンムイソー、ジツトン、ベルルイオー
  - 同 十六日 ストラスブルグ
  - 同 モンムイソー、ジツトン、モーン
  - 同 十六日 ルーアン
  - 同 ブルスト、レイノ、G・ボデイノ、ゴタイエ
  - 同 十七日 ベルフォール
  - 同 モンムイソー、ジツトン、ヤロフ
- 同 誌 (九月二十六日)
- 一、國會議員選舉委員會委員長、モンムイソー
- 國際赤色救援會第五回大會は、先づ第一に、あらゆる形態に於ける國際的闘争の擴大強化を必要なりと、各國に於ける大衆の革命的突撃を發展せしむべしと云つた。之は當然にG.T.U.に對する希望であると同時に、G.T.U.に對する批判でもある。而して、時恰もフランス、ノール地方に、最近十年間嘗て見ざるどころの大罷業が勃發し、十五萬の労働者が之に参加したのである。その罷業に於てG.T.U.には如何なる役割を動めたか。I.G.R.第五回大會の決議とノール罷業に於けるG.T.U.の行動とを詳細に照合することに、G

G.T.U.に將來の行動の規定が依存する

一、パンヨーロツパ主義とサヴェイトに對する態度

一、帝國主義的壓迫者に反動する印度支那の大衆

ランテルナショナル・サンディカル・ルージュ

Internationale Syndicale Rounge

一、赤色労働組合インテナショナル第五回大會(一)

(赤色労働組合インテナショナル第五回大會の議事録の大意とロソフスキーの報告)

同 誌 (九月十二日)

一、赤色労働組合インテナショナル第五回大會(二)

(イ)同志ヘツケルトの報告

(ロ)同志トルマツアの報告

(ハ)ロソフスキーの報告に對する討議

同 誌 (九月十九日)

一、赤色労働組合インテナショナル第五回大會(三)

(イ)ロソフスキーの報告に對する討議

同 誌 (九月二十六日)

一、赤色労働組合インテナショナル第五回大會(四)

(イ)ロソフスキーの報告に對する討議

(ロ)同志サファロツの演説(東洋植民地の革命的蜂起—支那、印度、ネグロ)

モンド (九月十三日)

一、アメリカ合衆國の帝國主義、カミーニドウルヴェ

南アメリカに於けるアメリカ合衆國の帝國主義的活動

二、柏林の選舉戰線

露國

コムニスチーチェスキー

インテルナチオナル

一、プロフィンテルン第五回大會

プロフィンテルン第四回大會以降、經濟闘争の指導領域及びその勢力を新國家に擴大する事に相當な達成を見た。即ち第四回大會には四十九ヶ國代表が參集したが第五回大會へは六十ヶ國からの代表が來た。

第五回大會には決定的自己批判が試みられたが、革命的労働運動の餘り進展しなかつた事が認められた爲に、將來必ず革命労働運動の強化と發達を計り、官憲の探査、企業家テロ

ル等の強行を防ぎ、新戦線に於ける革命労働運動の缺陷と誤謬を如實に補正し修正するの緊要なる教訓たるを立證した。茲に於て労働運動に従事する共産主義者は未來の大革命闘争に當り労働階級大衆と共にブルジョアに拮抗して進撃する準備を必要とする。見よ今回の大會に依り全世界恐慌は資本主義の安定を動搖せしめ、労働運動の新革命的波紋を益昂揚せしめつゝある事が證明されたではないか。

又共産黨インターナショナルと共に革命労働運動事業に協力して日和見主義者の危険を除去せねばならぬ事が提唱された。  
一、農業の危機とソヴェートの態度  
一、ソヴェートの態度  
一、ソヴェートの態度

一、ソヴェートの態度  
一、ソヴェートの態度  
一、ソヴェートの態度

一、ソヴェートの態度  
一、ソヴェートの態度  
一、ソヴェートの態度

然るに一九三〇年七月には三千三百十名に達したが尙ほ之に前記兩地方に於ける二千六百人を加算するべきである。又現在には六千六百二十名の黨員の外に獄中に呻吟してゐる六千名を加へると波蘭共産黨の勢力は一萬二千六百二十人となる。しかし彼等六千人は偉大なテロルの犠牲となつて逮捕されたものである。

レヴォリューチヤイ、クリトウラ

一、文化戦線に展開して進撃せよ  
ソヴェート五年計画に基き農村経済及び産業戦線は既に相當の成績を以て進展しつつあるが、未だ文化戦線方面には充分なる成果を見るに至らない。

一、文化戦線に展開して進撃せよ  
ソヴェート五年計画に基き農村経済及び産業戦線は既に相當の成績を以て進展しつつあるが、未だ文化戦線方面には充分なる成果を見るに至らない。

一、文化戦線に展開して進撃せよ  
ソヴェート五年計画に基き農村経済及び産業戦線は既に相當の成績を以て進展しつつあるが、未だ文化戦線方面には充分なる成果を見るに至らない。



外國左翼雜誌論文概観

問題に關聯して隨所に眞面目に絶叫されてゐる。之は財政的に重要な關係があるからソヴェト當局及び共産黨機關にても凡ゆる文化生活に適當な要求を満足せしむるに努めると共に經濟方面をも充分考究すべきである。

一、新變遷に於ける一般初等教育。ア・ペルドニコフ全ソヴェト聯邦に於ける初等教育習學兒童數は先年度に比し二一%の激増で一千四百〇六萬四千人に達してゐる。今最近の新變遷を知るに足る表を示せば左の如くである。

初等學校學生數

一九二七年	二八八	九、七九八、〇〇〇人
一九二八年	二九二	一〇、二六六、〇〇〇人
一九二九年	三〇〇	一一、六三八、〇〇〇人
一九三〇年	三〇三	一四、〇六四、〇〇〇人

社會主義的競争過程にありては先づ第一に文化的躍進を先決問題とし、一般教育を時代に適應せしめ初等教育の完成を計らねばならぬ。

文化的躍進の新變遷

一九二八年レーニン黨青年の發起で共産主義的文化、教育の一般的普及を計る爲最新式の文化的躍進を大衆的運動とする事になつた。

即ち特に産業労働者に向つての文盲撲滅及び農村への新しい文化的躍進に努力するに至つた。而して文化革命過程に大なる變遷を見るは階級闘争上大なる成果を與へ、社會主義的文化闘争に大衆運動を誘導せしめ得るであらう。

一、文化的躍進は依然繼續する。エ・ブレンティン

(一)都市と村落 (二)民族の領域 (三)夏期と冬期 (四)文盲撲滅と一般教育 (五)社會主義的競争 (六)文化的躍進を廻る階級闘争

一、勢揃大衆教育に關する教材の制定。セ・ゲイフマン、文盲撲滅の武器としての教科書。フリーグマン

外國左翼新刊紹介

英國

Edward Bernstein : *Crown and Communism*.  
(G. Allen & Unwin, Ltd, 10s.)  
Dr. S. A. Bernstein : *The Results of the Working of the Lena Goldfields*.  
(Blackhairs Press, Ltd, 1s.)  
The Central Concessions Committee of the U.S.S.R. : *Documents Concerning the Lena Goldfields*.  
Arthur Fielder : *The Experiment of Bolshevism*.  
(Faber & Faber, Ltd 7s. 6d.)  
J. I. and B. Hammond : *The Age of the Charities*.  
(Longmans Green & Co. Ltd, 12s. 6d.)

獨逸

Michael Scholochow : *Krieg und Revolution*. Verlag für Literatur und Politik, Berlin, SW 61.  
本書は露西亞帝政時代から世界戦争及露西亞革命を背景とせる小説にして、最近の露西亞戦争文學中最も優れた典型的のものであると稱讃されて居る。五百二十三頁の大冊にして修版五マルク、布製七マルク。  
O. Piatnicki : *Die kommunistischen Parteien in Aktion*.  
Verlag Carl Heym Nachf. Berlin NW 6, 30 Pf.  
去る獨逸國會總選舉に於て共産黨は四百五十萬以上の投票

外國左翼雜誌論文概観

を獲得した。是は明かに獨逸プロレタリアートの左傾化と共産黨の進出を示すものであるが、目下此の總選舉の結果を如何にして固定化するかの問題に當面して居る。此のことは獨逸に於てのみ當面せる問題に非らずして各國共産黨も亦如何にして大衆に對する共産黨の感化を固定化する可きかの問題に達着して居る。著者フ・ト・エ・キーは即ち此の問題に答へんが爲に本書を著し、先づ共産黨活動の缺點を指摘し、次で大衆の間に於ける活動に際して如何に黨指針を實行す可きか、如何に戦術を立て、如何に此戦術を大衆の間に用ふ可きか、共産黨は社會民主主義、キリスト教及國粹主義等諸團體の間に於て如何に活動す可きか、共産主義諸團體の組織を如何に利用し、如何にして國際的革命運動を起す可きかを論じて居る。是等の重大問題を四十七頁の小冊子中に要領よく論じて居る。I. Tenz : *Die II. Internationale und ihr Ende*. Verlag Carl Heym Nachf. Berlin NW 6, M. 4, 20 Pf.  
一八八九年より一九二九年に至る労働運動史を特に第一「インテリゲンチヤナル」を中心として觀察したもので、其の内容を示せば「第二「インテリゲンチヤナル」の全盛期、日和見主義的墮落、第三「インテリゲンチヤナル」の崩壊と第三「インテリゲンチヤナル」の發生、第四「インテリゲンチヤナル」の發展と第二「インテリゲンチヤナル」死骸の鉄金、資本主義反動の國際化とプロレタリア革命の國際化等を含む。三百二頁。D. Mannist : *Die Weltwirtschaftskrisis und der revolutionäre Aufstieg*. Verlag Carl Heym Nachf. Berlin NW 6, 20 Pf.  
世界恐慌の性質、恐、の地理學、恐慌の結果と共産黨の任

務、革命運動發展の不均等性、部分的要求の問題、國民的革命運動の調和の爲の闘争、共産黨の重要任務等に就て論じた六十四頁の小冊子。

W. Molotov: Über die Sowjetunion. Verlag Carl Heyn Nachf. Berlin. N.W. 6. 20Pf. 社會主義の任務と階級闘争、工業計畫及財政計畫實行の爲の闘争と労働階級、農業の社會主義的復興、農村の社會主義への轉向、文化の建設、カールデールの問題、黨内政策の問題等に就て論じたもの。六十三頁。

N. Bogdanov: Das erste Mittel. Verlag der Jugendinternationale. Berlin. M. 4. 表題は右の如く「最初の旗」である。即ち露西亞に於て共産主義青年同盟が造られた時最初に其の農村細胞となつた旗をモデルにした歴史的ローマンスで、目下露西亞に於て多くのコムソモールの間に愛讀せられて居る小説である。二百三十二頁。

A. Karawajewa: Fabrik in Walde. Verlag der Jugendinternationale. Berlin. M. 7. 「森の中の工場」はソツキ、聯邦の工業化を背景とし、都市と農村との疎隔を取り去り、兩者の融合調和を計らんとする現在の問題を取り入れた小説である。五百九十二頁。

L. Parakelew: Die Uhr. Verlag der Jugendinternationale. Berlin. M. 170. 「時計」は浮浪少年の冒険を書いた映畫の様な面白小説の小説。六十八頁。

佛國

Hyra Ehrenbourg: 10. C. V.

現代機械文明を左翼の見地から批判する名著。機械文明は多數の人間血と汗と苦痛とを犠牲として成立し、而も極く少數の特権者流をのみ利するものであると云ふ。

Emmanuel Berl: Bakounine, sa vie et la Révolution. 社會運動家としてのバクレーフの生涯。

XXX: Endes (Troisième), par le Centre International d'Etudes sur le Fascisme. プロレタリアの立場からファシズムの本質を研究する教科書の第三年用。

Leon Trotsky: Ma Vie. トロツキの自叙傳。「私は自分の生涯を普通以外の何物かであつたと思ふことはどうしても出来ない」といふトロツキの言葉が先づ掲げてあり、全體は三巻に分れ、第一巻は一八七四年から一九〇五年まで、第二巻は一九〇五年から一九一七年まで、第三巻は一九一七年から一九一九年まで。

St. Yaloborski et V. Bouchik: Pour bien savoir le Russe. Le Russeの入門書。著者はソビエト連邦の知識人。

Henri Barbusse: Evolutions. 彼の著書中最も高貴の著書(小説)二人の飛行家が世界の上空を飛んだ。そして次の瞬間をみたとき、二人は大地を踏みしめてゐる。

Charles Fauriel: Histoire de Parfedeo. 一九一四年から一九一八年に至る迄の大戦中、フランス國內に起つた諸政黨の闘争の歴史概観。

一九一四年から一九一八年に至る迄の大戦中、フランス國內に起つた諸政黨の闘争の歴史概観。

一九一四年から一九一八年に至る迄の大戦中、フランス國內に起つた諸政黨の闘争の歴史概観。

一九一四年から一九一八年に至る迄の大戦中、フランス國內に起つた諸政黨の闘争の歴史概観。

思想關係主要新聞雜誌通信調

(昭和五年十月末現在)

一、新聞紙

名 稱	創刊年月日	發行所	發行回数	體 裁	思想系統	共 他 關 係	發行狀況其ノ他	禁 止 注 意
第二無産者新聞	昭和四年九月	東京第二無産者新聞社	一月六回 十日十五日二十五日	四六四倍大頁	最左翼 共産主義	日本共産黨準機關紙	十月五日三十五號 十月十四日三十七號 十月二十日三十九號 十月二十七日四十一號 十一月三日四十三號 十一月十日四十五號 十一月十七日四十七號 十一月二十四日四十九號 十二月一日五十一號 十二月八日五十三號 十二月十五日五十五號 十二月二十二日五十七號 十二月二十九日五十九號	三
救護新聞	同 四年三月	同 救護運動會	同 不定期	同 四六四倍大頁	同	救護會機關紙	十月十四日十二號 十一月十一日十四號 十一月十八日十六號 十一月二十五日十八號 十二月二日二十號 十二月九日二十二號 十二月十六日二十四號 十二月二十三日二十六號 十二月三十日二十八號 一月六日三十號 一月十三日三十二號 一月二十日三十四號 一月二十七日三十六號 二月三日三十八號 二月十日四十號 二月十七日四十二號 二月二十四日四十四號 三月一日四十六號 三月八日四十八號 三月十五日五十號 三月二十二日五十二號 三月二十九日五十四號 四月六日五十六號 四月十三日五十八號 四月二十日六十號 四月二十七日六十二號 五月四日六十四號 五月十一日六十六號 五月十八日六十八號 五月二十五日七十號 六月一日七十二號 六月八日七十四號 六月十五日七十六號 六月二十二日七十八號 六月二十九日八十號 七月六日八十二號 七月十三日八十四號 七月二十日八十六號 七月二十七日八十八號 八月四日九十號 八月十一日九十二號 八月十八日九十四號 八月二十五日九十六號 九月一日九十八號 九月八日一百號 九月十五日一百零二號 九月二十二日一百零四號 九月二十九日一百零六號 十月六日一百零八號 十月十三日一百一十號 十月二十日一百一十二號 十月二十七日一百一十四號 十一月三日一百一十六號 十一月十日一百一十八號 十一月十七日一百二十號 十一月二十四日一百二十二號 十二月一日一百二十四號 十二月八日一百二十六號 十二月十五日一百二十八號 十二月二十二日一百三十號 十二月二十九日一百三十二號 一月六日一百三十四號 一月十三日一百三十六號 一月二十日一百三十八號 一月二十七日一百四十號 二月三日一百四十二號 二月十日一百四十四號 二月十七日一百四十六號 二月二十四日一百四十八號 三月一日一百五十號 三月八日一百五十二號 三月十五日一百五十四號 三月二十二日一百五十六號 三月二十九日一百五十八號 四月六日一百六十號 四月十三日一百六十二號 四月二十日一百六十四號 四月二十七日一百六十六號 五月四日一百六十八號 五月十一日一百七十號 五月十八日一百七十二號 五月二十五日一百七十四號 六月一日一百七十六號 六月八日一百七十八號 六月十五日一百八十號 六月二十二日一百八十二號 六月二十九日一百八十四號 七月六日一百八十六號 七月十三日一百八十八號 七月二十日一百九十號 七月二十七日一百九十二號 八月四日一百九十四號 八月十一日一百九十六號 八月十八日一百九十八號 八月二十五日二百號 九月一日二百零二號 九月八日二百零四號 九月十五日二百零六號 九月二十二日二百零八號 九月二十九日二百一十號 十月六日二百一十二號 十月十三日二百一十四號 十月二十日二百一十六號 十月二十七日二百一十八號 十一月三日二百二十號 十一月十日二百二十二號 十一月十七日二百二十四號 十一月二十四日二百二十六號 十二月一日二百二十八號 十二月八日二百三十號 十二月十五日二百三十二號 十二月二十二日二百三十四號 十二月二十九日二百三十六號 一月六日二百三十八號 一月十三日二百四十號 一月二十日二百四十二號 一月二十七日二百四十四號 二月三日二百四十六號 二月十日二百四十八號 二月十七日二百五十號 二月二十四日二百五十二號 三月一日二百五十四號 三月八日二百五十六號 三月十五日二百五十八號 三月二十二日二百六十號 三月二十九日二百六十二號 四月六日二百六十四號 四月十三日二百六十六號 四月二十日二百六十八號 四月二十七日二百七十號 五月四日二百七十二號 五月十一日二百七十四號 五月十八日二百七十六號 五月二十五日二百七十八號 六月一日二百八十號 六月八日二百八十二號 六月十五日二百八十四號 六月二十二日二百八十六號 六月二十九日二百八十八號 七月六日二百九十號 七月十三日二百九十二號 七月二十日二百九十四號 七月二十七日二百九十六號 八月四日二百九十八號 八月十一日三百號 八月十八日三百零二號 八月二十五日三百零四號 九月一日三百零六號 九月八日三百零八號 九月十五日三百一十號 九月二十二日三百一十二號 九月二十九日三百一十四號 十月六日三百一十六號 十月十三日三百一十八號 十月二十日三百二十號 十月二十七日三百二十二號 十一月三日三百二十四號 十一月十日三百二十六號 十一月十七日三百二十八號 十一月二十四日三百三十號 十二月一日三百三十二號 十二月八日三百三十四號 十二月十五日三百三十六號 十二月二十二日三百三十八號 十二月二十九日三百四十號 一月六日三百四十二號 一月十三日三百四十四號 一月二十日三百四十六號 一月二十七日三百四十八號 二月三日三百五十號 二月十日三百五十二號 二月十七日三百五十四號 二月二十四日三百五十六號 三月一日三百五十八號 三月八日三百六十號 三月十五日三百六十二號 三月二十二日三百六十四號 三月二十九日三百六十六號 四月六日三百六十八號 四月十三日三百七十號 四月二十日三百七十二號 四月二十七日三百七十四號 五月四日三百七十六號 五月十一日三百七十八號 五月十八日三百八十號 五月二十五日三百八十二號 六月一日三百八十四號 六月八日三百八十六號 六月十五日三百八十八號 六月二十二日三百九十號 六月二十九日三百九十二號 七月六日三百九十四號 七月十三日三百九十六號 七月二十日三百九十八號 七月二十七日四百號 八月四日四百零二號 八月十一日四百零四號 八月十八日四百零六號 八月二十五日四百零八號 九月一日四百一十號 九月八日四百一十二號 九月十五日四百一十四號 九月二十二日四百一十六號 九月二十九日四百一十八號 十月六日四百二十號 十月十三日四百二十二號 十月二十日四百二十四號 十月二十七日四百二十六號 十一月三日四百二十八號 十一月十日四百三十號 十一月十七日四百三十二號 十一月二十四日四百三十四號 十二月一日四百三十六號 十二月八日四百三十八號 十二月十五日四百四十號 十二月二十二日四百四十二號 十二月二十九日四百四十四號 一月六日四百四十六號 一月十三日四百四十八號 一月二十日四百五十號 一月二十七日四百五十二號 二月三日四百五十四號 二月十日四百五十六號 二月十七日四百五十八號 二月二十四日四百六十號 三月一日四百六十二號 三月八日四百六十四號 三月十五日四百六十六號 三月二十二日四百六十八號 三月二十九日四百七十號 四月六日四百七十二號 四月十三日四百七十四號 四月二十日四百七十六號 四月二十七日四百七十八號 五月四日四百八十號 五月十一日四百八十二號 五月十八日四百八十四號 五月二十五日四百八十六號 六月一日四百八十八號 六月八日四百九十號 六月十五日四百九十二號 六月二十二日四百九十四號 六月二十九日四百九十六號 七月六日四百九十八號 七月十三日五百號 七月二十日五百零二號 七月二十七日五百零四號 八月四日五百零六號 八月十一日五百零八號 八月十八日五百一十號 八月二十五日五百一十二號 九月一日五百一十四號 九月八日五百一十六號 九月十五日五百一十八號 九月二十二日五百二十號 九月二十九日五百二十二號 十月六日五百二十四號 十月十三日五百二十六號 十月二十日五百二十八號 十月二十七日五百三十號 十一月三日五百三十二號 十一月十日五百三十四號 十一月十七日五百三十六號 十一月二十四日五百三十八號 十二月一日五百四十號 十二月八日五百四十二號 十二月十五日五百四十四號 十二月二十二日五百四十六號 十二月二十九日五百四十八號 一月六日五百五十號 一月十三日五百五十二號 一月二十日五百五十四號 一月二十七日五百五十六號 二月三日五百五十八號 二月十日五百六十號 二月十七日五百六十二號 二月二十四日五百六十四號 三月一日五百六十六號 三月八日五百六十八號 三月十五日五百七十號 三月二十二日五百七十二號 三月二十九日五百七十四號 四月六日五百七十六號 四月十三日五百七十八號 四月二十日五百八十號 四月二十七日五百八十二號 五月四日五百八十四號 五月十一日五百八十六號 五月十八日五百八十八號 五月二十五日五百九十號 六月一日五百九十二號 六月八日五百九十四號 六月十五日五百九十六號 六月二十二日五百九十八號 六月二十九日六百號 七月六日六百零二號 七月十三日六百零四號 七月二十日六百零六號 七月二十七日六百零八號 八月四日六百一十號 八月十一日六百一十二號 八月十八日六百一十四號 八月二十五日六百一十六號 九月一日六百一十八號 九月八日六百二十號 九月十五日六百二十二號 九月二十二日六百二十四號 九月二十九日六百二十六號 十月六日六百二十八號 十月十三日六百三十號 十月二十日六百三十二號 十月二十七日六百三十四號 十一月三日六百三十六號 十一月十日六百三十八號 十一月十七日六百四十號 十一月二十四日六百四十二號 十二月一日六百四十四號 十二月八日六百四十六號 十二月十五日六百四十八號 十二月二十二日六百五十號 十二月二十九日六百五十二號 一月六日六百五十四號 一月十三日六百五十六號 一月二十日六百五十八號 一月二十七日六百六十號 二月三日六百六十二號 二月十日六百六十四號 二月十七日六百六十六號 二月二十四日六百六十八號 三月一日六百七十號 三月八日六百七十二號 三月十五日六百七十四號 三月二十二日六百七十六號 三月二十九日六百七十八號 四月六日六百八十號 四月十三日六百八十二號 四月二十日六百八十四號 四月二十七日六百八十六號 五月四日六百八十八號 五月十一日六百九十號 五月十八日六百九十二號 五月二十五日六百九十四號 六月一日六百九十六號 六月八日六百九十八號 六月十五日七百號 六月二十二日七百零二號 六月二十九日七百零四號 七月六日七百零六號 七月十三日七百零八號 七月二十日七百一十號 七月二十七日七百一十二號 八月四日七百一十四號 八月十一日七百一十六號 八月十八日七百一十八號 八月二十五日七百二十號 九月一日七百二十二號 九月八日七百二十四號 九月十五日七百二十六號 九月二十二日七百二十八號 九月二十九日七百三十號 十月六日七百三十二號 十月十三日七百三十四號 十月二十日七百三十六號 十月二十七日七百三十八號 十一月三日七百四十號 十一月十日七百四十二號 十一月十七日七百四十四號 十一月二十四日七百四十六號 十二月一日七百四十八號 十二月八日七百五十號 十二月十五日七百五十二號 十二月二十二日七百五十四號 十二月二十九日七百五十六號 一月六日七百五十八號 一月十三日七百六十號 一月二十日七百六十二號 一月二十七日七百六十四號 二月三日七百六十六號 二月十日七百六十八號 二月十七日七百七十號 二月二十四日七百七十二號 三月一日七百七十四號 三月八日七百七十六號 三月十五日七百七十八號 三月二十二日七百八十號 三月二十九日七百八十二號 四月六日七百八十四號 四月十三日七百八十六號 四月二十日七百八十八號 四月二十七日七百九十號 五月四日七百九十二號 五月十一日七百九十四號 五月十八日七百九十六號 五月二十五日七百九十八號 六月一日八百號 六月八日八百零二號 六月十五日八百零四號 六月二十二日八百零六號 六月二十九日八百零八號 七月六日八百一十號 七月十三日八百一十二號 七月二十日八百一十四號 七月二十七日八百一十六號 八月四日八百一十八號 八月十一日八百二十號 八月十八日八百二十二號 八月二十五日八百二十四號 九月一日八百二十六號 九月八日八百二十八號 九月十五日八百三十號 九月二十二日八百三十二號 九月二十九日八百三十四號 十月六日八百三十六號 十月十三日八百三十八號 十月二十日八百四十號 十月二十七日八百四十二號 十一月三日八百四十四號 十一月十日八百四十六號 十一月十七日八百四十八號 十一月二十四日八百五十號 十二月一日八百五十二號 十二月八日八百五十四號 十二月十五日八百五十六號 十二月二十二日八百五十八號 十二月二十九日八百六十號 一月六日八百六十二號 一月十三日八百六十四號 一月二十日八百六十六號 一月二十七日八百六十八號 二月三日八百七十號 二月十日八百七十二號 二月十七日八百七十四號 二月二十四日八百七十六號 三月一日八百七十八號 三月八日八百八十號 三月十五日八百八十二號 三月二十二日八百八十四號 三月二十九日八百八十六號 四月六日八百八十八號 四月十三日八百九十號 四月二十日八百九十二號 四月二十七日八百九十四號 五月四日八百九十六號 五月十一日八百九十八號 五月十八日九百號 五月二十五日九百零二號 六月一日九百零四號 六月八日九百零六號 六月十五日九百零八號 六月二十二日九百一十號 六月二十九日九百一十二號 七月六日九百一十四號 七月十三日九百一十六號 七月二十日九百一十八號 七月二十七日九百二十號 八月四日九百二十二號 八月十一日九百二十四號 八月十八日九百二十六號 八月二十五日九百二十八號 九月一日九百三十號 九月八日九百三十二號 九月十五日九百三十四號 九月二十二日九百三十六號 九月二十九日九百三十八號 十月六日九百四十號 十月十三日九百四十二號 十月二十日九百四十四號 十月二十七日九百四十六號 十一月三日九百四十八號 十一月十日九百五十號 十一月十七日九百五十二號 十一月二十四日九百五十四號 十二月一日九百五十六號 十二月八日九百五十八號 十二月十五日九百六十號 十二月二十二日九百六十二號 十二月二十九日九百六十四號 一月六日九百六十六號 一月十三日九百六十八號 一月二十日九百七十號 一月二十七日九百七十二號 二月三日九百七十四號 二月十日九百七十六號 二月十七日九百七十八號 二月二十四日九百八十號 三月一日九百八十二號 三月八日九百八十四號 三月十五日九百八十六號 三月二十二日九百八十八號 三月二十九日九百九十號 四月六日九百九十二號 四月十三日九百九十四號 四月二十日九百九十六號 四月二十七日九百九十八號 五月四日一千號 五月十一日一千零二號 五月十八日一千零四號 五月二十五日一千零六號 六月一日一千零八號 六月八日一千一十號 六月十五日一千一十二號 六月二十二日一千一十四號 六月二十九日一千一十六號 七月六日一千一十八號 七月十三日一千二十號 七月二十日一千二十二號 七月二十七日一千二十四號 八月四日一千二十六號 八月十一日一千二十八號 八月十八日一千三十號 八月二十五日一千三十二號 九月一日一千三十四號 九月八日一千三十六號 九月十五日一千三十八號 九月二十二日一千四十號 九月二十九日一千四十二號 十月六日一千四十四號 十月十三日一千四十六號 十月二十日一千四十八號 十月二十七日一千五十號 十一月三日一千五十二號 十一月十日一千五十四號 十一月十七日一千五十六號 十一月二十四日一千五十八號 十二月一日一千六十號 十二月八日一千六十二號 十二月十五日一千六十四號 十二月二十二日一千六十六號 十二月二十九日一千六十八號 一月六日一千七十號 一月十三日一千七十二號 一月二十日一千七十四號 一月二十七日一千七十六號 二月三日一千七十八號 二月十日一千八十號 二月十七日一千八十二號 二月二十四日一千八十四號 三月一日一千八十六號 三月八日一千八十八號 三月十五日一千九十號 三月二十二日一千九十二號 三月二十九日一千九十四號 四月六日一千九十六號 四月十三日一千九十八號 四月二十日二千號 四月二十七日二千零二號 五月四日二千零四號 五月十一日二千零六號 五月十八日二千零八號 五月二十五日二千一十號 六月一日二千一十二號 六月八日二千一十四號 六月十五日二千一十六號 六月二十二日二千一十八號 六月二十九日二千二十號 七月六日二千二十二號 七月十三日二千二十四號 七月二十日二千二十六號 七月二十七日二千二十八號 八月四日二千三十號 八月十一日二千三十二號 八月十八日二千三十四號 八月二十五日二千三十六號 九月一日二千三十八號 九月八日二千四十號 九月十五日二千四十二號 九月二十二日二千四十四號 九月二十九日二千四十六號 十月六日二千四十八號 十月十三日二千五十號 十月二十日二千五十二號 十月二十七日二千五十四號 十一月三日二千五十六號 十一月十日二千五十八號 十一月十七日二千六十號 十一月二十四日二千六十二號 十二月一日二千六十四號 十二月八日二千六十六號 十二月十五日二千六十八號 十二月二十二日二千七十號 十二月二十九日二千七十二號 一月六日二千七十四號 一月十三日二千七十六號 一月二十日二千七十八號 一月二十七日二千八十號 二月三日二千八十二號 二月十日二千八十四號 二月十七日二千八十六號 二月二十四日二千八十八號 三月一日二千九十號 三月八日二千九十二號 三月十五日二千九十四號 三月二十二日二千九十六號 三月二十九日二千九十八號 四月六日三千號 四月十三日三千零二號 四月二十日三千零四號 四月二十七日三千零六號 五月四日三千零八號 五月十一日三千一十號 五月十八日三千一十二號 五月二十五日三千一十四號 六月一日三千一十六號 六月八日三千一十八號 六月十五日三千二十號 六月二十二日三千二十二號 六月二十九日三千二十四號 七月六日三千二十六號 七月十三日三千二十八號 七月二十日三千三十號 七月二十七日三千三十二號 八月四日三千三十四號 八月十一日三千三十六號 八月十八日三千三十八號 八月二十五日三千四十號 九月一日三千四十二號 九月八日三千四十四號 九月十五日三千四十六號 九月二十二日三千四十八號 九月二十九日三千五十號 十月六日三千五十二號 十月十三日三千五十四號 十月二十日三千五十六號 十月二十七日三千五十八號 十一月三日三千六十號 十一月十日三千六十二號 十一月十七日三千六十四號 十一月二十四日三千六十六號 十二月一日三千六十八號 十二月八日三千七十號 十二月十五日三千七十二號 十二月二十二日三千七十四號 十二月二十九日三千七十六號 一月六日三千七十八號 一月十三日三千八十號 一月二十日三千八十二號 一月二十七日三千八十四號 二月三日三千八十六號 二月十日三千八十八號 二月十七日三千九十號 二月二十四日三千九十二號 三月一日三千九十四號 三月八日三千九十六號 三月十五日三千九十八號 三月二十二日四千號 三月二十九日四千零二號 四月六日四千零四號 四月十三日四千零六號 四月二十日四千零八號 四月二十七日四千一十號 五月四日四千一十二號 五月十一日四千一十四號 五月十八日四千一十六號 五月二十五日四千一十八號 六月一日四千二十號 六月八日四千二十二號 六月十五日四千二十四號 六月二十二日四千二十六號 六月二十九日四千二十八號 七月六日四千三十號 七月十三日四千三十二號 七月二十日四千三十四號 七月二十七日四千三十六號 八月四日四千三十八號 八月十一日四千四十號 八月十八日四千四十二號 八月二十五日四千四十四號 九月一日四千四十六號 九月八日四千四十八號 九月十五日四千五十號 九月二十二日四千五十二號 九月二十九日四千五十四號 十月六日四千五十六號 十月十三日四千五十八號 十月二十日四千六十號 十月二十七日四千六十二號 十一月三日四千六十四號 十一月十日四千六十六號 十一月十七日四千六十八號 十一月二十四日四千七十號 十二月一日四千七十二號 十二月八日四千七十四號 十二月十五日四千七十六號 十二月二十二日四千七十八號 十二月二十九日四千八十號 一月六日四千八十二號 一月十三日四千八十四號 一月二十日四千八十六號 一月二十七日四千八十八號 二月三日四千九十號 二月十日四千九十二號 二月十七日四千九十四號 二月二十四日四千九十六號 三月一日四千九十八號 三月八日五千號 三月十五日五千零二號 三月二十二日五千零四號 三月二十九日五千零六號 四月六日五千零八號 四月十三日五千一十號 四月二十日五千一十二號 四月二十七日五千一十四號 五月四日五千一十六號 五月十一日五千一十八號 五月十八日五千二十號 五月二十五日五千二十二號 六月一日五千二十四號 六月八日五千二十六號 六月十五日五千二十八號 六月二十二日五千三十號 六月二十九日五千三十二號 七月六日五千三十四號 七月十三日五千三十六號 七月二十日五千三十八號 七月二十七日五千四十號 八月四日五千四十二號 八月十一日五千四十四號 八月十八日五千四十六號 八月二十五日五千四十八號 九月一日五千五十號 九月八日五千五十二號 九月十五日五千五十四號 九月二十二日五千五十六號 九月二十九日五千五十八號 十月六日五千六十號 十月十三日五千六十二號 十月二十日五千六十四號 十月二十七日五千六十六號 十一月三日五千六十八號 十一月十日五千七十號 十一月十七日五千七十二號 十一月二十四日五千七十四號 十二月一日五千七十六號 十二月八日五千七十八號 十二月十五日五千八十號 十二月二十二日五千八十二號 十二月二十九日五千八十四號 一月六日五千八十六號 一月十三日五千八十八號 一月二十日五千九十號 一月二十七日五千九十二號 二月三日五千九十四號 二月十日五千九十六號 二月十七日五千九十八號 二月二十四日六千號 三月一日六千零二號 三月八日六千零四號 三月十五日六千零六號 三月二十二日六千零八號 三月二十九日六千一十號 四月六日六千一十二號 四月十三日六千一十四號 四月二十日六千一十六號 四月二十七日六千一十八號 五月四日六千二十號 五月十一日六千二十二號 五月十八日六千二十四號 五月二十五日六千二十六號 六月一日六千二十八號 六月八日六千三十號 六月十五日六千三十二號 六月二十二日六千三十四號 六月二十九日六千三十六號 七月六日六千三十八號 七月十三日六千四十號 七月二十日六千四十二號 七月二十七日六千四十四號 八月四日六千四十六號 八月十一日六千四十八號 八月十八日六千五十號 八月二十五日六千五十二號 九月一日六千五十四號 九月八日六千五十六號 九月十五日六千五十八號 九月二十二日六千六十號 九月二十九日六千六十二號 十月六日六千六十四號 十月十三日六千六十六號 十月二十日六千六十八號 十月二十七日六千七十號 十一月三日六千七十二號 十一月十日六千七十四號 十一月十七日六千七十六號 十一月二十四日六千七十八號 十二月一日六千八十號 十二月八日六千八十二號 十二月十五日六千八十四號 十二月二十二日六千八十六號 十二月二十九日六千八十八號 一月六日六千九十號 一月十三日六千九十二號 一月二十日六千九十四號 一月二十七日六千九十六號 二月三日六千九十八號 二月十日七千號 二月十七日七千零二號 二月二十四日七千零四號 三月一日七千零六號 三月八日七千零八號 三月十五日七千一十號 三月二十二日七千一十二號 三月二十九日七千一十四號 四月六日七千一十六號 四月十三日七千一十八號 四月二十日七千二十號 四月二十七日七千二十二號 五月四日七千二十四號 五月十一日七千二十六號 五月十八日七千二十八號 五月二十五日七千三十號 六月一日七千三十二號 六月八日七千三十四號 六月十五日七千三十六號 六月二十二日七千三十八號 六月二十九日七千四十號 七月六日七千四十二號 七月十三日七千四十四號 七月二十日七千四十六號 七月二十七日七千四十八號 八月四日七千五十號 八月十一日七千五十二號 八月十八日七千五十四號 八月二十五日七千五十六號 九月一日七千五十八號 九月八日七千六十號 九月十五日七千六十二號 九月二十二日七千六十四號 九月二十九日七千六十六號 十月六日七千六十八號 十月十三日七千七十號 十月二十日七千七十二號 十月二十七日七千七十四號 十一月三日七千七十六號 十一月十日七千七十八號 十一月十七日七千八十號 十一月二十四日七千八十二號 十二月一日七千八十四號 十二月八日七千八十六號 十二月十五日七千八十八號 十二月二十二日七千九十號 十二月二十九日七千九十二號 一月六日七千九十四號 一月十三日七千九十六號 一月二十日七千九十八號 一月二十七日八千號 二月三日八千零二號 二月十日八千零四號 二月十七日八千零六號 二月二十四日八千零八號 三月一日八千一十號 三月八日八千一十二號 三月十五日八千一十四號 三月二十二日八千一十六號 三月二十九日八千一十八號 四月六日八千二十號 四月十三日八千二十二號 四月二十日八千二十四號 四月二十七日八千二十六號 五月四日八千二十八號 五月十一日八千三十號 五月十八日八千三十二號 五月二十五日八千三十四號 六月一日八千三十六號 六月八日八千三十八號 六月十五日八千四十號 六月二十二日八千四十二號 六月二十九日八千四十四號 七月六日八千四十六號 七月十三日八千四十八號 七月二十日八千五十號 七月二十七日八千五十二號 八月四日八千五十四號 八月十一日八千五十六號 八月十八日八千五十八號 八月二十五日八千六十號 九月一日八千六十二號 九月八日八千六十四號 九月十五日八千六十六號 九月二十二日八千六十八號 九月二十九日八千七十號 十月六日八千七十二號 十月十三日八千七十四號 十月二十日八千七十六號 十月二十七日八千七十八號 十一月三日八千八十號 十一月十日八千八十二號 十一月十七日八千八十四號 十一月二十四日八千八十六號 十二月一日八千八十八號 十二月八日八千九十號 十二月十五日八千九十二號 十二月二十二日八千九十四號 十二月二十九日八千九十六號 一月六日八千九十八號 一月十三日九千號 一月二十日九千零二號 一月二十七日九千零四號 二月三日九千零六號 二月十日九千零八號 二月十七日九千一十號 二月二十四日九千一十二號 三月一日九千一十四號 三月八日九千一十六號 三月十五日九千一十八號 三月二十二日九千二十號 三月二十九日九千二十二號 四月六日九千二十四號 四月十三日九千二十六號 四月二十日九千二十八號 四月二十七日九千三十號 五月四日九千三十二號 五月十一日九千三十四號 五月十八日九千三十六號 五月二十五日九千三十八號 六月一日九千四十號 六月八日九千四十二號 六月十五日九千四十四號 六月二十二日九千四十六號 六月二十九日九千四十八號 七月六日九千五十號 七月十三日九千五十二號 七月二十日九千五十四號 七月二十七日九千五十六號 八月四日九千五十八號 八月十一日九千六十號 八月十八日九千六十二號 八月二十五日九千六十四號 九月一日九千六十六號 九月八日九千六十八號 九月十五日九千七十號 九月二十二日九千七十二號 九月二十九日九千七十四號 十月六日九千七十六號 十月十三日九千七十八號 十月二十日九千八十號 十月二十七日九千八十二號 十一月三日九千八十四號 十一月十日九千八十六號 十一月十七日九千八十八號 十一月二十四日九千九十號 十二月一日九千九十二號 十二月八日九千九十四號 十二月十五日九千九十六號 十二月二十二日九千九十八號 十二月二十九日一萬號	

思想關係主要新聞雜誌通信調

瓦新勞報	民衆(昭和) 改題)	東京郊外交通勞 報	神戶交通勞報	全國大衆新聞 (日本大衆新聞 改題)	全日本教員會報 組合準備會	日本交通勞報	勞農農民新聞
昭和 四一七〇	大正 八六五	同 四一七〇	同 四一七〇	同 四一七〇	同 四一七〇	同 四一七〇	昭和 二一五
東京 組合	東京 組合	東京 組合	東京 組合	東京 組合	東京 組合	東京 組合	東京 組合
月一回 (不定期)	月一回 (五日)	月一回 (不定期)	月一回 (不定期)	月一回 (不定期)	月一回	月一回 (不定期)	月一回 (不定期)
四六四倍 四頁	四六四倍 四頁	四六四倍 四頁	四六四倍 四頁	四六四倍 四頁	四六四倍 四頁	四六四倍 四頁	四六四倍 四頁
同	同	同	同	中間派	同	同	左 共 主 義
東京 組合	東京 組合	東京 組合	東京 組合	東京 組合	東京 組合	東京 組合	東京 組合
十月十日 十五號發	十月 休刊	十月 休刊	十月 休刊	十月 休刊	十月 休刊	十月 休刊	十月 休刊
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

自由聯合新聞	芝浦勞報	芝浦勞報	芝浦勞報	芝浦勞報	芝浦勞報	芝浦勞報	芝浦勞報
大正 二一三三	同 二一三三	同 二一三三	同 二一三三	同 二一三三	同 二一三三	同 二一三三	同 二一三三
芝浦 組合	芝浦 組合	芝浦 組合	芝浦 組合	芝浦 組合	芝浦 組合	芝浦 組合	芝浦 組合
月一回 (不定期)	月一回 (不定期)	月一回 (不定期)	月一回 (不定期)	月一回 (不定期)	月一回 (不定期)	月一回 (不定期)	月一回 (不定期)
四六四倍 四頁	四六四倍 四頁	四六四倍 四頁	四六四倍 四頁	四六四倍 四頁	四六四倍 四頁	四六四倍 四頁	四六四倍 四頁
同	同	同	同	同	同	同	同
芝浦 組合	芝浦 組合	芝浦 組合	芝浦 組合	芝浦 組合	芝浦 組合	芝浦 組合	芝浦 組合
十月十日 四號發	十月 休刊	十月 休刊	十月 休刊	十月 休刊	十月 休刊	十月 休刊	十月 休刊
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

二、理論雜誌

名 稱	創刊年月日	發行所	発行回数	體 裁	思想系統	其ノ他ノ關係	發行狀況其ノ他	創刊以後 禁止注意
インダナシヨナ	昭和 三、四一	東京 衣所	月 一回	六 十頁内外	最 左翼 共 産主義	共 産黨一 派ノ有 力ナル 機關紙	九、 十合併 號禁止	一 九 〇 〇
法律 戦 線	大正 二、二二	生活 運動社	同	七 十頁内外	同	布 施 辰 治主宰	十 月號 休刊	一 九 〇 〇
プロレタリア科	昭和 三、二一	プロ レタリ ア科研 究所	月 一回	百 頁内外	同	ブ ロレタ リア科 學研究 所機關 紙	九 月廿 六日 十月 號 禁止	一 九 〇 〇
マルクス主義研	同	同	同	同	同	同	同	一 九 〇 〇
労働者教育	同	同	同	同	同	同	同	一 九 〇 〇
マルクス主義の 旗の下に	昭和 五、六一〇	東京 マルク ス主義 の旗の 下に	月 一回	三 十頁 内外	同	共 産主義 論議誌	十 月號 禁止	一 九 〇 〇
新聞 戦 線	同	同	同	同	同	同	同	一 九 〇 〇
産業労働時報	同	同	同	同	同	同	同	一 九 〇 〇
工 場	同	同	同	同	同	同	同	一 九 〇 〇

名 稱	創刊年月日	發行所	発行回数	體 裁	思想系統	其ノ他ノ關係	發行狀況其ノ他	創刊以後 禁止注意
農民開争	同 三、三〇	同	月 一回	五 十頁 内外	同	全 國農 民組合 左翼	十 月號 外 禁止	一 九 〇 〇
進 め	大正 三、三〇	同	月 一回	三 十頁 内外	同	同	同	一 九 〇 〇
新興教育	昭和 五、九一	東京 新興教 育研究 所	月 一回	九 十頁 内外	同	同	同	一 九 〇 〇
山陰改造	大正 四、七六	山陰 改造社	同	同	共 産主義 翼	同	同	一 九 〇 〇
社會問題研究	昭和 三、三三	東京 同人社 書店	月 一回	八 十頁 内外	同	同	同	一 九 〇 〇
共 和	大正 三、七六	神奈 川 共 和社	月 一回	百 頁内外	同	同	同	一 九 〇 〇
勞 農	昭和 三、三一	東京 勞農社	同	同	同	同	同	一 九 〇 〇
組合總聯合	昭和 四、六七	日本 労働組 合本	月 一回	一 六頁 内外	同	同	同	一 九 〇 〇
司 厨 労働	大正 四、一五	兵庫 商船同 志會	月 一回	二 十五 頁内 外	同	同	同	一 九 〇 〇
勞 働	昭和 三、一五	神奈 川 市 労働組 合	月 一回	四 十頁 内外	同	同	同	一 九 〇 〇





思想關係主要新聞雜誌通信調

大衆文化	新興文學	女人藝術	演劇	新興演劇	劇場文化	前哨	新演劇	婦女職線	大地に立つ
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
東京文化協	東京凡社	同人藝術社	同	大阪演劇社	東京文化社	山梨無産者	同人演劇社	同人演劇社	同人演劇社
月一回	同	同	同	同	同	同	同	同	同
六四六頁内外	六四六頁内外	外一六〇頁内	二四六頁	一〇〇頁	一八〇頁	三〇〇頁内外	六〇頁内外	四〇頁内外	四〇頁内外
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
日本労働組合	新興文學全集	最近共産主義的	無産演劇支持	同人演劇運動者	大衆座、新築地、	單ナル地方的左	無産婦人藝術社	加藤一夫ノ主宰	加藤一夫ノ主宰
十月號及附録	十月納本ナシ	十月號發行	第一期第二號ハ定	發行繼續	十月號納本ナシ	發行部數僅少十月	發行繼續	發行繼續	發行繼續
〇	三	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

二六ノ二〇〇

四、通信

名	種	創刊年月日	發行所	發行回数	體裁	發行狀況	禁刊
極東社會運動通信	通信	昭和 三〇・一〇・三	東京社會同	日刊	四六倍列、横	發行期日嚴守	三
勞働問題通信	通信	大正 三二・二・一〇	日本社會同	水毎週一回	七倍列、横	七月二十七日四二六號止	三
社會運動通信	通信	昭和 三三・三・一〇	日本社會同	日刊	四六四倍列、	同	三
勞働通信	通信	大正 八・四・一	大阪通信社	日刊	第二倍列、横	同	三
日本勞働通信	通信	昭和 三三・三・一〇	東京會	日刊	四六倍列、横	同	三
朝鮮情報通信	通信	同	朝鮮情報通信	日刊	二〇頁内外	同	三

思想關係主要新聞雜誌通信調

二六ノ二〇一





